# 名古屋大学における
# 男女共同参画報告書
# 2012 年度

名古屋大学

男女共同参画推進専門委員会

男女共同参画室

# 目　次

ページ

はじめに…… 1

第１章　2013年度男女共同参画推進重点項目…… 3

第２章　2012年度男女共同参画推進重点項目および活動報告
第１節　１．2012年度男女共同参画推進重点項目および活動報告…… 5
２．2012（平成24）年度男女共同参画推進専門委員会、男女共同参画室会議
および名古屋大学における男女共同参画の動き…… 7
３．2012（平成24）年度男女共同参画室の社会連携活動…… 9

第２節　ワーキンググループの活動
１．育児支援策検討ワーキンググループ…… 13
こすもす保育園運営協議会報告…… 13
あすなろ保育園運営協議会報告…… 16
学童保育所（ポピンズアフタースクール）検討委員会報告…… 17
２．女子学生支援策検討ワーキンググループ…… 18
３．学部学生向けジェンダー関連授業検討ワーキンググループ…… 20
４．病児保育検討ワーキンググループ…… 21
５．メンター検討ワーキンググループ…… 25

第３節　理系女子育成・支援に関する取組
１．若手女性研究者サイエンスフォーラム、女子中高生理系進学推進セミナー…… 26
２．理系女子学生コミュニティあかりんご隊活動報告…… 32

第４節　学内外における男女共同参画ネットワークの構築
１．学内ネットワーク…… 40
２．地域ネットワーク…… 41
３．大学間ネットワーク…… 42

第５節　あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム…… 44

第３章　科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業
１．新規女性研究者の採用計画…… 45
２．女性研究者養成・支援に関する取組
メンター制度によるキャリア支援…… 52
キャリアアップ・スキルアップ支援…… 56
ＩＴ技術を用いた両立支援…… 58

第４章　2012年度女性教員増員のための部局アンケート結果…… 59

第５章　統計資料…… 72

2012年度名古屋大学男女共同参画推進体制…… 86

奥付…… 87

# はじめに

理事　藤井良一

名古屋大学は、2003年１月に「男女共同参画室」を創設し、同年４月には部局長により構成される「男女共同参画推進委員会」のもと、「男女共同参画推進専門委員会」を設置し、男女共同参画を推進する組織的な充実を図ってきた。男女共同参画室は毎年度「男女共同参画推進重点項目」に沿った企画を立案し、同専門委員会と連携してその実現に努め、大きな成果をあげてきている。

1999年６月に施行された男女共同参画社会基本法は、男女共同参画社会の実現を「21世紀の最重要課題」として位置づけ、性別による偏りのない社会システムの構築をめざすものである。本学はいち早く男女共同参画推進に取り組み、2001年から2002年にかけての評議会で、「名古屋大学における男女共同参画を推進するための提言」を決定し、「名古屋大学運営の基本姿勢」においても男女共同参画を本学の重要な事業と位置づけている。

さらに本学は、我が国を代表する高等教育研究機関として、広く社会に対して知的貢献を果たす責務を負うとの自覚から、2004年に「あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム」（会員：愛知県・名古屋市・愛知県経営者協会・名古屋大学）を結成し、地域における男女共同参画推進の活動に取り組むとともに、研究機関との連携及び情報交換にも努めている。

こうした精力的な活動の結果として、本学における男女共同参画の取組は、理念や提言の段階を経て、具体的な施策の企画・立案・実施の段階へと移行している。その具現化の例として、2007年には、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に「発展型女性研究者支援名大モデル」が、2010年度には、文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業に「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」が、それぞれ採択された。「発展型女性研究者支援名大モデル」事業は、経費上は2010年３月をもって終了したが、以降も自主経費により発展的に継続中である。

ワークライフバランスの積極的推進に関しては、東山地区「こすもす保育園」と鶴舞地区「あすなろ保育園」とで、待機児童の受け入れに努めている。2013年度からは、本学医学部附属病院の協力のもと、「あすなろ保育園」において病児保育を開始する予定である。なお、待機児童問題については、あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラムでも、本年度共催企画として、現状と対策に関する勉強会を実施し、情報の共有と協力関係の構築を図った。また、2009年に本学が全国に先がけ設置した学内学童保育所「ポピンズアフタースクール」も、その後順調に児童数を増やし、育児と仕事の両立に際して立ちはだかる「小１の壁」を乗り越える解決策となる一方、多彩な教育プログラムを提供する「産学連携型教育施設」として現在も波及効果が期待されている。

理系女子学生・院生の育成・支援に関しては、オープンキャンパスとの同時開催企画として、「女子中高生理系進学推進セミナー」と「若手女性研究者サイエンスフォーラム」を行い、理系女子学生コミュニティあかりんご隊が、技術職員の協力により実施している科学実験、自主企画としてのエンカレッジ交流会、理系セミナー等の活動報告を行った。

理系女性研究者増員策に関しては、「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」事業が採択されたことで、より積極的な全学的取組の段階へと進んでいる。「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」の主たる目的は、研究リーダーとして独立して研究グループを率いることのできる真に優秀な研究者（Principal Investigator：ＰＩ）を採用するために、全学流用定員を利用した「女性ＰＩ枠」を設置し、理・工・農学系による合同国際公募を実施するとともに、若手もふくめた理・工・農学系女性研究者の新規採用を加速させることである。ＰＩ公募については、2010年度より国際公募を実施し、順次採用を進めている。若手についても、採用目標の達成に向けて関連部局と連携を図るとともに、さらなる採用促進策として、2012年１月より「女性教員採用インセンティブ施策」を導入している。

採用後には、世界を舞台に活躍しうる優れた女性研究者となれるように、高等教育研究センターとの連携による女性研究者メンタープログラムをはじめとして、国際学会参加費の助成、英語論文の書き方及び英語での口頭発表に関するセミナーや女性リーダーによる講演会の開催、人文系もふくめた女性研究者向け学術雑誌投稿論文の英文校閲費

の助成等もあわせて行っている。また、女性研究に留まらず全学の研究者向けスキルアップ支援としての「マインドマップ講習会」も、継続実施している。本学のこれらの取組は、真に優秀な「女性研究者リーダー（ＰＩ）」の発掘・採用・養成を具体化するシステムのモデルを提示するものであり、他機関への先導的な役割を果たすことをめざすものである。

以上の詳細について、ぜひ本報告書を一読いただき、優秀な女性研究者に活躍の場を提供し、男女がともにその能力を十二分に発揮できる職場環境作りをめざす本学の男女共同参画事業に、率直なご意見とご批判をいただければ幸いである。

# 第１章
# 2013年度男女共同参画推進重点項目

本学は、「名古屋大学における男女共同参画を推進するための提言」を全国の国立大学に先駆けて2000年度に学内外に公表し、男女共同参画推進専門委員会および男女共同参画室を中心に、この提言を基礎とした男女共同参画推進のための活動を展開している。この提言の具体化をはかるため、年度ごとに重点項目を設定しており、2013年度はこれまでの活動成果を基盤とし、男女共同参画をさらに推進することを目指して、以下の重点項目を中心に活動する。

また、増加する外国人教員、外国人留学生に向けたホームページ等の英文化の充実を図り、本学の男女共同参画に関する情報を積極的に発信する。

**１．文部科学省科学技術人材育成費補助金「名古屋大学方式女性研究者採用加速・育成プログラム」の実施を中心とした女性教員の増員**

本学は、2010年度に、科学技術人材育成費補助金「女性研究者採用加速・育成プログラム」に採択された。同プログラムにおいて、学内の諸機関と連携、調整を図りつつ、女性リーダー（PI：教授および准教授）専用ポスト、若手女性研究者（助教）専用ポストの設置による理工農学分野での優秀な女性研究者の国内外からの応募促進、採用加速のためのプログラムを引き続き実施する。2013年度はこれまでと同様に新規採用者および既存の女性研究者支援のための環境整備事業の企画立案と実施、高等教育研究センターとの連携による新規採用者向けメンタープログラムの充実を図るとともに、女性リーダーの育成にも力を注ぐ。さらに、本プログラムで蓄積されたノウハウを活かして文系部局の女性教員の増員をも目指す。

**２．男女共同参画のさらなる推進のための調査研究の実施**

男女共同参画推進活動をさらに推進し、本学が日本の男女共同参画の牽引役となれるよう、より有効な施策を立案・実施するための調査研究部門を引き続き行う。まず、本学におけるこれまでの男女共同参画推進活動の影響・効果の分析を行い、今後の活動の改善や拡充に生かす。続いて、日本が男女共同参画社会へ変容を遂げるための課題、方法、問題点を把握・分析するために、諸外国における男女共同参画社会への社会変容に至る制度・社会的過程と男女平等に関する社会的風土や合意形成の成り立ちを調査するジェンダー政策研究プロジェクトを立ち上げる。同プロジェクトをもとに、本学から政策提言や論文発表を行うことを目指す。

**３．ワークライフバランスの積極的推進**

安心して仕事と育児、介護、家庭との両立ができるよう、支援事業の充実を図る。子育て支援事業に関しては、こすもす保育園（東山地区）とあすなろ保育園（鶴舞地区）との連携を強化し、全学としての子育て支援のありかたを検討し、推進していく。病児保育については、2012年度に実施した病児保育検討ワーキング・グループによる調査結果をもとに、あすなろ保育園での実施に向け、具体的な運用方法を検討する。留学生、外国人教員・研究員に向けては、外国語による子育て関連情報の提供を積極的に行う。また、各部局に設置された男女共同参画に関する委員会やワーキング・グループとの連携を密にし、子育て、介護の実態とニーズを把握し、具体的な支援策を検討する。

### ４．理系女子学生・院生の育成・支援

学内外の関連する組織と連携を図り、理系若手女性研究者、理系女子学生による「若手女性研究者サイエンスフォーラム」、愛知県内および東海地区の女子中高生を対象とした「女子中高生理系進学推進セミナー」の充実をめざす。女子学生・院生コミュニティ「あかりんご隊」については、エンカレッジ交流会、理系進学相談、科学実験、理系人の人生ガイドセミナー等の活動を支援し、キャリア形成のための情報提供を積極的に行う。

### ５．学内外連携による男女共同参画の推進

男女共同参画の推進をめざし、情報の共有・蓄積や有効な施策検討・実現に向けて学内外の連携をさらに強化する。各部局に設置された男女共同参画に関する委員会、ワーキング・グループによる全体会議を定期的に開催し、連携協力体制を強化する。学外に関しては、「あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム」（愛知県・名古屋市・愛知県経営者協会・名古屋大学）の活動を充実させるとともに、関連機関、団体等との情報および意見交換など、必要な連携を図っていく。

# 第２章
# 2012年度男女共同参画推進重点項目および活動報告

## 第１節
## １．2012 年度男女共同参画推進重点項目および活動報告

### １．はじめに

名古屋大学では、「男女共同参画」の推進を本学の重要課題とし、さまざまな活動を展開してきた。2001年３月に評議会で決定された「名古屋大学における男女共同参画を推進するための提言」では、2000年２月に制定した名古屋大学の理念ともいうべき「名古屋大学学術憲章」を引用し、「とりわけ、学問の府としての本学が、今後学術文化の向上や教育研究の高度化に積極的に貢献するためには、これまでの男性中心的な社会通念や価値観にとらわれることなく、男女両性がそれぞれ専有する感性や正義感をお互いに尊重し更に学問研究や教育現場において男女の特性をいかんなく発揮させる環境と条件を早急に整備する必要がある。また、この男女共同参画による教育研究の実践こそが、21世紀における本学の命運を決定するといっても過言ではなく、この使命を果たすためにも、男女が対等に構成員として、自らの意志によってあらゆる活動に参画する機会を確保し、かつ共に責任を担う、男女共同参画の形成に資する施策を実施することが本学の最重要課題と位置付けられる。」と、名古屋大学における男女共同参画推進の意義と精神を謳い上げている。

こうした精神に基づき、男女共同参画推進専門員会および男女共同参画室との協同により、2012年度は、５つの男女共同参画推進重点項目を中心に活動を展開した。以下に、その概要と達成度について報告する。

### （１）文部科学省科学技術人材育成費補助金「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」の実施

2010年度科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」に採択された「名古屋大学方式女性研究者採用加速・養成プログラム」３年目にあたる本年も、これまでと同様に学内の諸機関と連携、調整を図りつつ、女性リーダー（PI）専用ポスト、若手女性研究者専用ポストの設置による理工農学系分野での優秀な女性研究者の応募促進、採用加速のためのプログラムを実施した。

昨年度後半に数学、数理科学、情報科学分野を対象とした「女性PI」国際公募を行い、国内外から約20名の応募があり、多元数理科学研究科に准教授１名を本年度採用した。今年度は、生命農学および環境学を対象とした生命農学研究科・環境学研究科の２研究科による「女性PI」国際公募を実施した結果、国内外から約40名の応募があり、２研究科にそれぞれ１名を採用予定でいる。

高等教育研究センターとの連携による新規採用者を主な対象としたメンタープログラム、理工農学系分野の女性研究者を対象とした国際学会参加費用および学術雑誌投稿論文の英文校閲費の助成も継続実施中である。詳細は第３章に掲載。

### （２）男女共同参画のさらなる推進のための調査研究の実施

男女共同参画推進活動をさらに推進し、より有効な施策を立案・実施するための調査研究として、本年度も全部局を対象とした部局アンケートの実施・分析を行った。また、理工農学系部局を対象とした「名古屋大学方式女性研究者採用加速・育成プログラム」に関するアンケートの実施・分析、医学部附属病院の教職員を対象とした「子育て環境と病児保育のニーズ」に関するアンケートの分析を行った。部局アンケートは毎年行っているが、今年度はその結果分析から、男女共同参画に関する委員会が未設置の部局に対して、その設置を働きかけるとともに、全体会議を開催する計画である。

（3）ワークライフバランスの積極的推進

安心して仕事と育児、介護、家庭との両立ができるよう、支援事業の充実に努めた。子育て支援事業に関しては、こすもす保育園（東山地区）とあすなろ保育園（鶴舞地区）との連携を強化していく過程で、「常時保育利用内定者選考基準」を可能な範囲で統一した。病児保育に関しても、鶴舞・大幸・東山、３地区の教員９名からなる病児保育検討ワーキンググループが、鶴舞地区を対象に「子育て環境と病児保育のニーズに関するアンケート調査」を実施し、1,470人から得られた回答をもとに、病児保育の導入を提言し、本学医学部附属病院協力のもと、2013年度よりあすなろ保育園内において病児保育を開始することになった。

また、本学を含む地域の待機児童対策という観点から、とくに名古屋市と、情報の共有及び協力関係の構築を積極的に行った。今年度、育児支援ワーキンググループが企画した子育て支援情報の英訳の一部は、名古屋市との連携による成果であり、学内外の外国人にとって有効な情報提供となるものである。

女性休養室及び授乳室の拡大については、「女性教員増員のための部局アンケート」等を通じて、啓発活動を継続するとともに、「多目的トイレ・おむつ替え・安全シート付きトイレ」については、男女共同参画室のホームページ内に設置場所を掲載することとした。

介護支援事業に関しては、「女性教員増員のための部局アンケート」に介護支援に関する質問項目を加えるとともに、子育て支援情報とあわせ、男女共同参画室ホームページ内に新設した「ワークライフバランス促進支援」サイトにて、情報提供の拡充に努めた。詳細は、第２章第２節、第５節、第４章に掲載。

（4）理系女子学生・院生の育成・支援

理系女子学生・院生の育成・支援に関しては、オープンキャンパスにあわせて、女子中高生を対象とした「女子中高生理系進学推進セミナー」と「若手女性研究者サイエンスフォーラム」を開催した。参加した女子中高生に向けては、男女共同参画室が支援する理系女子学生コミュニティあかりんご隊が、理系女子学生のロールモデルとして活動報告を行うとともに、オープンキャンパスでは、室員の女性教員３名が６回にわたり、受験生及び保護者向けに、「女性教員からみた名古屋大学」と題した大学紹介を行った。

あかりんご隊の活動としては、「理系女子エンカレッジ交流会」の開催、ホームカミングディ、学内保育園、名古屋市科学館「科学の祭典2012名古屋大会」などでの科学実験の実施、第４回あいち科学技術教育推進協議会発表会「科学三昧 in あいち2012」での進路相談など、例年の活動に加えて、今年度新たに、進路選択に関する情報提供の機会として、「理系人の人生ガイド～研究者への道 進路の決め手～」と題したセミナーを開催するとともに、あかりんご隊独自のホームページを制作し、情報発信を行っている。なお、こうした活動が評価され、本年度あかりんご隊は、「平成24年度名古屋大学総長顕彰」（「正課外活動への取り組み部門」）を受賞した。

理系のみならず文系も含めた全学的な女子学生支援としては、男女共同参画室が開講した全学教養科目「ジェンダーの視点から考える21世紀の日本社会」において、室長・室員が講義を担当することで、多分野の研究成果を背景としたジェンダー論を提供した。

さらに、大学院生も参加可能な催しとして、女性研究者のキャリアアップを目的とする講演及び科学英語論文の書き方向上のためのセミナーを開催するとともに、2009年度から継続している学内全研究者を対象としたスキルアップセミナー「マインドマップ講習会」を今年度も開催した。詳細は、第２章第２節、第３節、第３章に掲載。

（5）学内外連携による男女共同参画の推進

学内では、男女共同参画推進に関する委員会およびワーキンググループの設置を働きかけ、学生及び院生を擁する主要部局については、同委員会の設置を完了し、全学をあげての今後の連携協力体制を整備した。

学外との連携事業としては、あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム（会員：愛知県・名古屋市・愛知県経営者協会・名古屋大学）共催企画として、待機児童対策の現状に関する勉強会を開催し、情報の共有と協力関係の構築を図った。とくに名古屋市とは、子育て支援事業にとどまらず、「名古屋市男女平等参画推進会議（イコールなごや）」に参加出席することで、市民各界各層に向けての情報発信と情報交換を行った。

他機関については、「女性研究者養成システム改革加速」プログラムの実施機関と情報を共有することで、女性研究者の採用加速策についての知見を得ることに努めた。また、他大学の男女共同参画事業において、マインドマップを用いたキャリアデザインやスキルアップのセミナー開催に協力した。これらの結果、2013年１月に、本学が女性がいきいきと活躍できる職場環境の整備を行っているとして、名古屋市より「平成24年度名古屋市 女性の活躍推進企業」に認定、表彰された。

## ２．2012（平成 24）年度男女共同参画推進専門委員会、男女共同参画室および名古屋大学における男女共同参画の動き

（○は審議事項　・は報告事項）

| 日　付 | 事　項 |
|---|---|
| 24.04.11 | 第１回男女共同参画室会議 |
| 24.05.02 | 第44回男女共同参画推進専門委員会<br>○2012年度男女共同参画推進重点項目及びワーキンググループの構成について<br>○男女共同参画に関する委員会が未設置の部局について<br>○名古屋大学方式女性研究者採用加速・育成プログラムについて<br>○平成24年度について<br>○学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成事業について<br>○2012年度活動スケジュールについて<br>・名古屋大学における男女共同参画報告書2011年度<br>・各種ワーキンググループからの報告事項について<br>・こすもす保育園現況<br>・あすなろ保育園現況<br>・学童保育所現況 |
| 24.05.31 | マインドマップ講習会26（男女共同参画室准教授・ブザン公認マインドマップフェロー　榊原千鶴氏） |
| 24.06.14 | 第２回男女共同参画室会議 |
| 24.06.15 | あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム第１回勉強会 |
| 24.06.27 | 第45回男女共同参画推進専門委員会<br>○発展型ポジティブ・アクションプロジェクト（2012年）について<br>○名古屋大学方式女性研究者採用加速・育成プログラムについて<br>○平成24年度執行計画の変更について<br>○国際学会等参加費用助成事業について<br>○学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成事業について<br>・女性PIプロジェクトの進捗状況について<br>・若手女性研究者サイエンスフォーラム及び女子中高生理系進学推進セミナーの開催について<br>・男女共同参画推進に関する部局委員会等の設置及び活動強化について<br>・あかりんご隊の活動について<br>・各種ワーキンググループからの報告事項について<br>・こすもす保育園現況<br>・あすなろ保育園現況<br>・学童保育所現況 |
| 24.07.30 | マインドマップ講習会27（男女共同参画室准教授・ブザン公認マインドマップフェロー　榊原千鶴氏） |
| 24.08.08<br>～08.10 | 名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラムと女子中高生理系進学推進セミナーを同時開催 |
| 24.08.23 | 出張科学実験会@学内学童保育所　あかりんご隊参加 |
| 24.09.11 | マインドマップ講習会28（男女共同参画室准教授・ブザン公認マインドマップフェロー　榊原千鶴氏） |
| 24.09.12 | 第３回男女共同参画室会議 |
| 24.10.06<br>～10.07 | 「青少年のための科学の祭典2012名古屋大会@名古屋市科学館」あかりんご隊参加 |
| 24.10.20 | 第８回名古屋大学ホームカミングディ 体験企画「あかりんご隊科学実験『３Dの絵を描こう☆』」あかりんご隊参加 |
| 24.11.12 | マインドマップ講習会29（男女共同参画室准教授・ブザン公認マインドマップフェロー　榊原千鶴氏） |
| 24.11.15 | 第４回男女共同参画室会議 |
| 24.12.04 | 第46回男女共同参画推進専門委員会<br>○2012年度男女共同参画部局アンケートについて<br>○男女共同参画報告書（2012年度）の役割分担について<br>○2013年度男女共同参画推進重点項目<br>○名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラムについて<br>○平成24年度支出見込み<br>○国際学会等参加費用助成事業について<br>○学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成事業について<br>・女性PIプロジェクトの進捗状況について<br>・男女共同参画推進に関する部局委員会等の設置及び活動強化について<br>・新規保育所整備のための土地貸与について<br>・名古屋市　女性の活躍推進企業認定申請について<br>・若手女性研究者サイエンスフォーラム及び女性中高生理系進学推進セミナーの開催について<br>・あかりんご隊の活動について<br>・各種ワーキンググループからの報告事項について<br>・こすもす保育園現況<br>・あすなろ保育園現況<br>・学童保育所現況 |

| 日　付 | 事　項 |
|---|---|
| 24.12.12 | 「理系女子エンカレッジ交流会」開催　あかりんご隊参加 |
| 24.12.27 | マインドマップ講習会30（男女共同参画室准教授・ブザン公認マインドマップフェロー　榊原千鶴氏） |
| 25.02.20 | 第５回男女共同参画室会議 |
| 25.02.22 | 名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム　女性研究者スキルアップセミナー　講演「空気をかえる・空気はかわる　～新しい風をおこすのはあなたです～」講演者：大坪久子氏（元日本大学総合科学研究所教授、日本大学薬学部薬学研究所上席研究員） |
| 25.02.25<br>～02.26 | 名古屋大学方式　女性研究者採用加速・育成プログラム　女性研究者スキルアップセミナー　「英語プレゼンテーションセミナー」 |
| 25.03.01 | 第47回男女共同参画推進専門委員会<br>○名古屋大学方式　女性研究者採用加速・育成プログラムについて<br>○中間評価を踏まえた今後の有効的な進め方について<br>○国際学会等参加費用助成事業について<br>○学術雑誌投稿論文の英文国閲費用助成事業について<br>○発展型ポジティブ・アクションプロジェクトについて<br>○男女共同参画推進に関する部局委員会等の全体会議について<br>○「子育て中の教職員を応援するアクションプラン」の名称変更について<br>○こすもす保育園　女性教員セーフティネット枠の新設要望<br>○男女共同参画推進専門委員会委員の交代及び新規参画室員について<br>・女性ＰＩプロジェクトの進捗状況について<br>・男女共同参画報告書（２０１２年度）進捗状況及び2013年度男女共同参画推進重点項目について<br>・部局アンケートからの現状把握について<br>・病児保育の実施について<br>・男女共同参画室ホームページの概要と進捗状況について<br>・名古屋市「女性の活躍推進事業」優秀賞認定について<br>・在名古屋米国領事館主催イベントの共催について<br>・女性研究者交流会について<br>・あかりんご隊の活動について<br>・各種ワーキンググループからの報告事項について<br>・こすもす保育園現況<br>・あすなろ保育園現況<br>・学童保育所現況 |
| 25.03.06<br>～03.08 | 講演会 "Connections for Women on the concentration of measure phenomenon: examples, appications and links to functional inequalities and to optimal transport"（主催：多元数理科学研究科　共催：男女共同参画室） |
| 25.03.12 | レクチャー&ディスカッション Be Ambitious! リケジョが拓こう、イノベーションの扉（主催：名古屋アメリカンセンター（在名古屋米国領事館広報文化交流部）、共催：男女共同参画室、産学官連携推進本部） |
| 25.03.13<br>～03.14 | 名古屋大学方式　女性研究者採用加速・育成プログラム　女性研究者スキルアップセミナー　「英語プレゼンテーションセミナー」 |
| 25.03.22 | 名古屋大学方式女性研究者採用加速・育成プログラム　女性研究者スキルアップセミナー　「論文採用率を高める科学英語論文の書き方セミナー」 |

※“あかりんご隊”とは、理系女子中高生・大学生・大学院生向けの交流会やセミナーなど様々なイベントの企画運営を行う名古屋大学の理系学部に在籍する女子学生有志グループである。

## ３．2012（平成 24）年度男女共同参画室の社会連携活動

講演等

| 開催日 | 講演者 | テーマ | 主催 | 講演場所 |
|---|---|---|---|---|
| 24.06.22 | 東村博子 | 第12回日本蛋白質科学会年会 男女共同参画ワークショップ（ランチョンセミナー）<br>「名古屋大学の女性研究者支援の取り組みについて」 | 日本蛋白質科学会男女共同参画ワーキンググループ | 名古屋国際会議場 |
| 24.07.28 | 東村博子 | 尾張旭市サテライトセミナー<br>「女性を活かして社会を活性化　～男女のちがいって何？低迷する日本の社会活性化のカギとは？～」 | 尾張旭市・公益財団法人あいち男女共同参画財団 | 尾張旭市中央公民館 |
| 24.08.08 | 中井俊樹 | 「メンタリングプログラムの実践を通して学んだこと」 | 東北大学 | 東北大学 |
| 24.09.10 | 中井俊樹 | 第３回メンター研修会<br>「大学におけるメンタリングの実践」 | 信州大学女性研究者支援室 | 信州大学松本キャンパス |
| 24.09.19 | 東村博子 | 日本神経科学会ランチタイムミニシンポジウム「女性を活かして科学を活性化」 | 日本神経科学学会・男女共同参画委員会 | 名古屋国際会議場 |
| 24.10.02 | 榊原千鶴 | マインドマップ講習会 | 岐阜大学男女共同参画推進室 | 岐阜大学地域科学部第１会議室 |
| 24.10.30 | 東村博子 | 名古屋市立大学男女共同参画セミナー<br>「女性を活かして大学を活性化」 | 名古屋市立大学 | 名古屋市立大学滝子キャンパス |
| 24.11.15 | 榊原千鶴 | 平成24年度国語・書道専攻学術講演会<br>「女性が学ぶということ」<br>―日本の近代化を、女性の側から考える― | 愛知教育大学 | 愛知教育大学第２共通棟421教室 |
| 24.11.15<br>～11.16 | 中井俊樹 | 第３回メンター研修<br>「大学におけるメンタリングの方法」 | 徳島大学AWAサポートセンター | 徳島大学蔵本キャンパス<br>徳島大学常三島キャンパス |
| 24.11.20 | 榊原千鶴<br>三枝麻由美 | 女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム―今後の女性研究者研究活動支援について―　成果発表 | 文部科学省 | 独立行政法人科学技術振興機構東京本部B１階大会議室 |
| 24.11.27 | 榊原千鶴 | 筑波大学大学院共通科目「仕事と生活」と男女共同参画Ⅱ<br>「マインドマップで私の未来を切り開く」 | 筑波大学ダイバーシティ推進室 | 筑波大学総合研究 棟A棟111ゼミ室 |
| 24.12.05 | 東村博子 | 男女共同参画推進に関する講演会<br>「女と男はどうちがう？―社会を活性化するための男女共同参画のすすめ」 | 自然科学研究機構 | フクラシア東京ステーション |

大学その他交流

| 年月日 | 大学その他 | 企画・テーマ | 場所 |
|---|---|---|---|
| 24.04.23 | 八戸工業高等専門学校<br>戸田山みどり教授 | 名古屋大学の男女共同参画事業の取組について | 名古屋大学生命農学研究科東村研究室 |
| 24.04.27 | 名古屋大学附属高校２年生 | 家庭科「保育」領域の学習の一環で保育園訪問 | 名古屋大学こすもす保育園 |
| 24.05.01 | 名古屋大学附属高校２年生 | 家庭科「保育」領域の学習の一環で保育園訪問 | 名古屋大学こすもす保育園 |
| 24.05.08 | JST 山村康子PO、千葉胤和主任調査員 | 加速プログラムについての現地訪問調査 | 名古屋大学本部２号館第３会議室 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 25.05.09 | 名古屋大学附属高校２年生 | 家庭科「保育」領域の学習の一環で保育園訪問 | 名古屋大学こすもす保育園 |
| 24.05.25 | JST広報課 渡辺氏 | 保育園における理学研究科上川内あづさ教授の取材及び写真撮影 | 名古屋大学こすもす保育園 |
| 24.05.31 | 筑波大学ダイバーシティ推進室　幅崎麻紀子准教授 | マインドマップ講習会への参加、メンター制度についての相談 | 名古屋大学豊田講堂第３会議室 |
| 24.06.15 | 名古屋大学附属高校２年生 | 家庭科「保育」領域の学習の一環で保育園訪問 | 名古屋大学こすもす保育園 |
| 24.06.22 | 三枝麻由美 | 内閣府主催「平成24年度男女共同参画社会づくりに向けての全国会議～男女共同参画による日本再生～」に参加 | メルパルクホール東京 |
| 24.06.26 | 名古屋大学附属高校２年生 | 家庭科「保育」領域の学習の一環で保育園訪問 | 名古屋大学こすもす保育園 |
| 24.07.04 | 名古屋大学附属高校２年生 | 家庭科「保育」領域の学習の一環で保育園訪問 | 名古屋大学こすもす保育園 |
| 24.08.23 | 大分大学女性研究者サポート室副室長（経済学部教授）安岡正義氏 | 女性研究者支援モデル育成について、保育事業の実施状況について | 名古屋大学本部２号館３階人事課・職員課ミーティングルーム |
| 24.09.14 | 東村博子<br>三枝麻由美 | 塩満典子氏（元JST科学技術システム改革事業推進室長）と文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業に関する情報収集及び意見交換 | 宇宙航空研究開発機構（JAXA）東京事務所 |
| 24.09.27 | 文部科学省研修生 | こすもす保育園及び学童保育所施設見学 | 名古屋大学こすもす保育園、学童保育所ポピンズアフタースクール |
| 24.10.07 | 三枝麻由美 | 第10回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加 | 東京慈恵会医科大学西新橋キャンパス |
| 24.10.08 | 三枝麻由美 | 日本女性科学者の会第９回学術大会に参加 | アルカディア市ヶ谷 |
| 24.10.23 | 藤井良一<br>東村博子<br>三枝麻由美 | 女性研究者養成システム改革加速　ヒアリング | 独立行政法人科学技術振興機構東京本部 |
| 24.11.07 | 三重大学 大学院医学系研究科肝胆膵・移植外科学教授及び医学部附属病院副病院長 伊佐地秀司氏､臨床研修･キャリア支援センター助教 淀谷典子氏、病院事務部総務課長 山田浩之氏、病院事務部総務課副課長 薗田敏氏、病院事務部総務課総務掛長 榎本正氏 | 学童保育所見学 | 名古屋大学本部２号館３階人事課・職員課ミーティングルーム、学童保育所ポピンズアフタースクール |
| 24.11.15 | 名古屋大学附属中学校１年生 | 授業の一環で保育士の仕事についてのインタビュー | 名古屋大学こすもす保育園 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 24.11.30 | 日本大学生物資源科学部助教　菅沼桂子氏 | 保育システムについての聞き取り調査 | 名古屋大学本部２号館１階第３会議室、こすもす保育園、学童保育所ポピンズアフタースクール |
| 25.1.15 | 名古屋工業大学男女共同参画推進室長 増田順次氏、財務課副課長日下部潔氏 | こすもす保育園見学 | 名古屋大学こすもす保育園 |
| 25.3.12 | 沖縄科学技術大学院大学　アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当副学長アシスタント 水越晶子氏、人材多様化セクション真栄田若菜氏 | 名古屋大学の男女共同参画事業の取組について | 名古屋大学男女共同参画室 |
| 25.3.12 | 名古屋アメリカンセンター（在名古屋米国領事館）ウィラー領事、藤原広報企画専門官オープン・ベンチャーズ社長/デラウェア大学電子コンピューター工学部兼任教授　ローブ博士 | 日米の男女共同参画について | 名古屋大学総長応接室 |

女子学生支援活動

| 年月日 | 講演者等 | 企画・テーマ | 主催 | 場所 |
|---|---|---|---|---|
| 24.07.13 | 義家亮<br>（工学研究科教授）<br>窪田光宏（工学研究科助教）<br>あかりんご隊 | セミナー：「理系人の人生ガイド～研究者への道 進路の決め手～」 | 名古屋大学あかりんご隊 | 名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー |
| 24.08.08<br>～08.10 | 山西陽子（工学研究科准教授）<br>藤江双葉（多元数理家科学研究科准教授）<br>佐藤仁美（環境学研究科助教）<br>あかりんご隊 | 名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム<br>女子中高生理系進学推進セミナー | 名古屋大学男女共同参画室 | 名古屋大学豊田講堂 |
| 24.08.23 | あかりんご隊<br>榊原千鶴 | あかりんご隊による出張実験@こすもす保育園<br>「おふろでぶくぶく～酸とアルカリの反応～」 | 名古屋大学男女共同参画室 | 名古屋大学こすもす保育園 |
| 24.08.26 | 名古屋大学男女共同参画室（後援） | あいちサイエンスフェスティバル2012　国際化学オリンピック | 化学オリンピック支援委員会 | トヨタテクノミュージアム産業技術記念館 |
| 24.10.06<br>～10.07 | あかりんご隊<br>榊原千鶴 | 「青少年のための科学の祭典2012名古屋大学」 | 「青少年のための科学の祭典」名古屋大会実行委員会／（財）中部科学技術センター／（財）日本科学技術振興財団・科学技術館／名古屋市科学館／㈱中日新聞社 | 名古屋市科学館 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 24.10.20 | あかりんご隊<br>榊原千鶴 | 第８回名古屋大学ホームカミングディ<br>体験企画「あかりんご隊科学実験『３Ｄの絵を描こう☆』」 | 名古屋大学 | 名古屋大学野依記念学術交流館 |
| 24.12.12 | 今井貴規（生命農学研究科准教授）<br>渡辺久美子（アロマサロンひだまりオーナー）<br>榊原千鶴<br>あかりんご隊 | 理系女子エンカレッジ交流会 | 名古屋大学男女共同参画室 | 名古屋大学理学部南館１階 |
| 24.12.26 | あかりんご隊<br>佐々木成江（理学研究科准教授） | 「科学三昧 in あいち2012」合同発表会<br>あかりんご隊による進路相談・研究紹介「大学ってどんなところ？」 | あいち科学技術教育推進協議会 | 自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンター |
| 25.03.12 | ショシャーナ・ローブ（オープン・ベンチャーズ社長/デラウェア大学電子コンピューター工学部兼任教授）<br>則武千景（株式会社デンソー生産技術開発 部品生産革新プロ室 加工CAE推進課長）<br>野々村知美（株式会社デンソー 研究開発１部 電源システム開発室 開発２課）<br>藤井良一<br>束村博子<br>榊原千鶴<br>三枝麻由美<br>家田菜穂子(生命農学研究科)<br>美辺詩織（生命農学研究科）<br>小田春佳（理学研究科） | レクチャー&ディスカッション Be Ambitious! リケジョが拓こう、イノベーションの扉 | 主催：名古屋アメリカンセンター（在名古屋米国領事館広報文化交流部）<br>共催：名古屋大学男女共同参画室、産学官連携推進本部 | 名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー |

報道等

| 掲載日/取材日 | 取材者 | タイトル | 備考 |
|---|---|---|---|
| 24.09.08 | 中日新聞 | リケジョ（理系女子）じわり増加 | 保育園や学童保育等、名古屋大学の女性研究者支援について |
| 25.01.31 | 中日新聞 | 4法人に市から優秀賞 「女性の活躍推進企業」表彰式 | 名古屋市が認定する「女性の活躍推進企業」の表彰について（名古屋大学が受賞） |
| 25.03.13 | 朝日新聞 | 米の女性起業家　名古屋大で講演 | 3月12日開催「レクチャー&ディスカッション Be Ambitious ！リケジョが拓こう、イノベーションの扉」について |

「女性の活躍推進企業」表彰式（名古屋市）の様子

## 第２節　ワーキンググループの活動

### １．育児支援対策検討ワーキンググループ

育児支援策検討ワーキンググループ：永田雅子（主査）、秋山真志、松下正、石川クラウディア、
東村博子、大河内美奈、加藤ジェーン、榊原千鶴

育児支援対策検討ワーキンググループでは、昨年度行った子どもを持つ留学生等を対象とした研究と保育に関するアンケートの結果をうけ、留学生および外国人研究者向けの育児支援情報の整備をおこなった。今年度４回のワーキンググループを開催し、他大学や行政機関でおこなわれている英語等による育児支援情報の提供がどういう形でおこなわれているか調査をおこなってきた。検討の結果、名古屋大学男女共同参画室のHPに、日本、特に名古屋市における育児支援サービス、保育園・幼稚園の入園手続き、小学校に入学するに当たっての準備など、有益と思われる情報の英語版を掲載するとともに、手続き時の通訳サービス、園や学校からの連絡の翻訳サービスをおこなっているいくつかの機関について紹介する形をとることになった。また留学生や外国人研究者がHPにアクセスして情報を入手しやすいよう、チラシを作成し、各部局の留学生相談室および留学生センターに配布を行う予定にしている。

今後も、より幅広く、また有効な育児支援のあり方について今後も検討を行っていきたいと考えている。

### こすもす保育園運営協議会報告

こすもす保育園運営協議会：永田雅子（議長）、榊原千鶴、大河内美奈、加藤ジェーン、田中京子、
太幡英亮、加藤太一、大矢淳一、田村哲樹、丹邉宣彦、上田（石原）奈津実

#### 名古屋大学こすもす保育園の経過

名古屋大学こすもす保育園は開園７年目を迎えた。入園希望者が多く、職場が近いことから、安心して子どもを産み育てることができるという環境が、いかにニードが高いのかということを改めて実感している。一方で、保育園が早朝から延長保育まで対応していることもあり、子どもの在園時間も長くなってきているのが現状である。子どもの発達やこころを守り育てるためにも、子どもを中心とした生活リズムをどう築いていくのか一緒に考えていただいたり、ご家族と過ごす時間も大事にしていただいたりすることもお願いしていきたいと考えている。そのためには特に低年齢のお子さんをもつ親御さんが、周りに遠慮することなく、仕事を切り上げ、迎えにこられるような育児環境の整備や、研究と育児を両立していくことができるようなサポートが充実していなければ、難しい側面も大きいだろう。こすもす保育園に在園する子どもたちがより健やかに育っていけるように、またこすもす保育園が大学内にあることで、より育児中の職員への理解が進み、環境が整備されることにつながっていけるように、これからも考えていきたいと考えている。

今年度の名古屋大学こすもす保育園運営協議会はこれまで同様オブザーバーとしてこすもす保育園主任保育士に毎回参加していただき、保育園利用及び運営にかかわる多様な事項が検討された。病後児保育の体制の検討しつつ、春と秋に入園の募集を行い、入園者の選定も行った。来年度からは、病児保育があすなろ保育園で整備され、こすもす保育園に入園している子どもたちも利用が可能となる。よりよい保育環境が整備できるよう、保護者の方の協力もえながら、運営にあたっていきたいと考えている。

#### 名古屋大学こすもす保育園2012年度　活動報告

主任保育士　伊藤友香

**＜主な年間行事＞**

３月　ひなまつり・クラス懇談会・ぬいぐるみ病院来園・おはなしの会来園・お別れ遠足・Lunch Box Day・卒園式・修了式
４月　進級を祝う会
５月　子どもの日の集い・クラス懇談会・金環日食特別プログラム・野菜の苗うえ・附属高校保育体験受け入れ・Lunch Box Day
６月　プラネタリウム見学・金星の太陽通過観測特別プログラム・不審者対応訓練・保育参観日

７月　　プール開き・七夕・附属高校保育体験受け入れ・個人懇談会・定期健康診断・SIDS訓練
８月　　個人懇談会・水中運動会・夏の大掃除・すいかわり・打ち水大作戦・保育交流
９月　　お月見会・ぬいぐるみ病院来園・災害時引き渡し訓練
10月　　大学一斉避難訓練・SPORTS DAY・ハロウィーン・津波時緊急避難訓練
11月　　東山動物園徒歩遠足・芋掘り・焼き芋・おはなしの会来園・勤労感謝の日を知る活動・保育交流・附属中学校職業訪問
12月　　クリスマス会・冬の大掃除
１月　七草・生活発表会・クラス懇談会
２月　節分・不審者対応訓練・定期健康診断・保育交流

毎月　避難訓練・身体測定・誕生日会・食育・保健指導

**＜日々の保育の特徴や工夫について＞**

今年度は開園より７年目を迎え、年度はじめの４月から50名を超える在園児数でスタートを切りました。今年度は乳児期における生活経験の充実および幼児期の身辺自立をより強化できる環境を整え、個別の力をつけるばかりでなく、集団の特性を活かしながらお子様自身が「自発的にやりたい」「できることが嬉しい」「自分でやらなければならないと気付ける力」を意識し取り組めるよう生活習慣をはじめ、様々な活動に取り組んでまいりました。幼児クラスでは、幼児における集団の特性を踏まえつつ小集団の中でも生活全般においてお子様自身が自立し、自発的な行動ができるよう園内における生活環境や持ち物などに工夫をこらしました。

全体においては開園時より取り組んでいる運動能力の基礎的向上を目指した活動により、年齢における経験数も増し、基礎体力の向上および危険回避能力も高まってまいりました。これからも継続して戸外での散歩やさまざまな経験を通した活動、室内におけるリズム運動の実施による基礎運動能力の向上、また社会性を育めるような遊びからお子様同士の年齢間を越えた関係性を積み重ね、「ひと」の形成におけるさまざまな基礎づくりを丁寧に行っていきたいと思っております。

附属高校家庭科の授業の一環として行われている高校生の保育体験も３年目を迎え、お子様の中で、高校生の方々と一緒に過ごす時間や情報のやりとりなど保育園のお子様から発信する場面も多くみられました。園児の様子から高校生のみなさまにも「幼児を理解しようとする視点」が育まれている様子が感じられます。今後もよりよい異年齢間の交流やコミュニケーションが取れるよう続けてまいりたいと思います。

保育園の運営におきましては昨年に引き続き業務支援室より６名の方におもちゃや備品の消毒・点検、園周辺の清掃やAEDの点検・花壇の整備など多大な力をお借りし、お手伝いいただいております。毎日お越しいただく支援員のみなさまのお仕事風景をみたり、園内で挨拶を交わしたり、様々なコミュニケーションを通し、お子様の中に支援員のみなさまを保育園の一員として意識している様子がみられます。お子様の中に「自分達を支えてくれている人」「楽しいことを伝えて喜んでもらいたい」「困っていたら助けてあげたい」と支援員の皆様の姿から自然に育まれている気持ちや行動を感じていることに気付かされます。日々行き届かない園内全般の安全・健康への配慮に対してお力添えいただくと共にこれからも保育園スタッフと支援員の皆様が連携し、お子様の中で「人と共に支え合って生きる」「人のために自分の力を発揮する」気持ちが育めればと願っています。

開園から７年目を迎え、在園家庭の状況やお子様を取り巻く環境、また保護者の皆様のニーズ、お仕事環境等も少しずつ変化しています。これらの状況を踏まえ加味しつつ、保育園内の環境および制度の見直しも視野にいれ、０～５歳児の「人としての大事な時期を過ごす場所」である保育園が大人の事情第一ではなく、「子ども主体」の生活と成長に向けて発達をどのように導いていくべきなのか、保育園・家庭が連携し、保育内容についても６年間の成長の見通しと目標をより明確にしながら保育を深め展開できるように積み上げていきたいと思います。

待機児童問題や、職場環境の状況など子育て環境は厳しいと言われていますが、保育園に在籍するご家庭のお子様だけでなく、様々な理由で保育園の門戸をたたく方々にとって、子育てについて共に考えられる施設であるよう　きめ細やかに気持によりそい、お子様の「今」を共に見つめられる存在でありたいと願っています。

保護者の皆様には「安心」をもって、職場で必要な力を発揮していただけるような役目を保育園が果たし、お子様には「楽しい毎日の中で安心と信頼、自立に向けての様々な力」をつけられる基地として、来年度も「第二の自宅」のように安心・信頼のよりどころとなれる保育園となり、心豊かな人格形成をめざして成長し続ける保育園運営を目指してまいります。

春のお散歩

金環日食特別プログラム

博物館見学

金星の太陽通過観測特別プログラム

食育 うどん作り

園庭の菜園で芋掘り

## あすなろ保育園運営協議会報告

あすなろ保育園運営協議会委員：秋山真志（議長）、榊原千鶴、天野睦紀、梅津朋和、
松下正、姫野美都枝、吉田茂、加藤太一、坪井直志

### １．名古屋大学あすなろ保育園の経過

名古屋大学あすなろ保育園は、今年度、開園４年目を迎え、2012年１月に保育園の建物を増築し、園児定員を従来の40名から80名に倍増することを実現した結果、園児数も順調に増加し、毎日楽しそうな笑顔や賑やかな笑い声であふれています。

また、2012年度の名古屋大学あすなろ保育園運営協議会では、新たに就任した秋山議長の下、12月までに５回開催され、保育園入園者の選考及び病児保育などの多様な保育の可能性等について、活発な審議が行われました。

### 名古屋大学あすなろ保育園2012年度活動報告

主任保育士　小関洋子

＜主な年間行事＞

４月　イースターパーティ
５月　母の日・夏野菜の苗植え・花の種蒔き
６月　定期健康診断・父の日・ブラッシング指導・不審者対応訓練
７月　プール開き・七夕の会・
８月　西瓜割り・打ち水大作戦
９月　敬老の日（祖父母に手紙）・秋野菜の種まき・不審者対応訓練
10月　ハロウィーン・冬野菜の種まき
11月　スポーツディ・個人懇談・定期健康診断・手洗いうがい指導
12月　クリスマス会・年賀状作り・不審者対応訓練
１月　初詣・七草・お正月遊び
２月　節分豆まき・バレンタインデー
３月　雛祭り・個人懇談・修了式（成長を祝う会）
毎月　避難訓練・身体測定・誕生会・食育・わかば館とふたば館の交流会

＜日々の保育の特徴や工夫＞

０・１歳児をわかば館、２歳児以上をふたば館で保育する環境の下、保護者の皆様が安心してお子様を預けられる園として、安全を心がけて保育を行ってきました。

また、本園に入園する園児の大半が０歳児から１歳児のお子様であるため、入園後もご家庭のように温かく落ち着いた雰囲気で過ごすことができるよう、お子様一人ひとりに愛情を持って関わることを常に心がけていました。

保育内容としましては、平成24年１月から、わかば館とふたば館とに分かれていますが、月に一度交流会を行っており、０・１歳児の園児は、２歳児以上のお兄さんお姉さんと一緒に交流することで沢山刺激を受け、交流会後は何でも自分で行おうとする姿が見られるようになり、２歳児以上の園児は、小さい園児と交流することで、思いやりの気持ちを持って優しく接する姿が見られるようになりました。また、３歳児の園児は、東山キャンパスの名古屋大学こすもす保育園と交流会を行い、同年代の他園の友だちと触れ合う機会を設けたことで、自ら意欲的にチャレンジする姿がこれまで以上に見られるようになりました。

加えて今年度は、一年を通して園児の運動能力を高めるため、毎月、年齢毎にカリキュラムを作成し、一人ひとりの発達状態に配慮しながら、運動遊びを行いました。その集大成として、親子で運動を楽しむイベント「スポーツディ」を初めて11月に開催しました。保護者の皆様もお子様も共に笑顔溢れる中、これまで行ってきました運動カリキュラムの成果を十分発揮できたスポーツディとなりました。これもひとえに名古屋大学関係者の皆様のご支援の賜と感謝しております。

来年度も園児らにとってよりよい環境づくりを進め、質の高い保育を提供できるようスタッフ一同努力して参ります。

## 学童保育所（ポピンズアフタースクール）検討委員会報告

学童保育所検討委員会：東村博子（委員長）、佐々木成江、中井俊樹、石川クラウディア、
小松尚、布目寛幸、大矢淳一、榊原千鶴
（オブザーバー）森滋夫、加藤恵子、高橋奈弓、和田肇、三枝麻由美

2009年７月に開所した名古屋大学学童保育所（ポピンズアフタースクール）は、運営はポピンズコーポレーションに委託しているが、大学が設置した名古屋大学学童保育所検討委員会と連携を図りながら、大学の物的知的財産を最大限に活かしたプログラムを開発、実践している。

今年度は、112（４月～１月現在）のプログラムを実施し、夏休みには、学童保育所内でのお泊まり会も行った。また、今年度の新たな取り組としては以下を実施した。

**１）霧箱実験（４月３日実施）**

本学関係者、中部原子力懇談会、あかりんご隊の協力のもと、霧箱実験を実施した。実験キットを使って、通常は目で見ることのできない自然界の放射線を観察するとともに、放射線測定器を用いて放射線量を測定した。

**２）日食メガネ作り（５月11日実施）**

2012年５月21日の金環日食に向けて、各自オリジナルの日食メガネを作成した。

本学研究員による協力のもと、日食が起こるメカニズムをスライドにより学び、その後、日食を観察した。

**３）オリジナルオリンピック（７月27日実施）**

ロンドンオリンピック開幕記念企画として、大学のフットサルコートで、オリジナルオリンピック競技（サッカーボウリング、円盤投げ（ドッジビー）、リレー等）を行った。　開催に際しては、事前に作成したオリンピック応援用の横断幕をフェンスに掲げ、気分を盛り上げた。

2013年１月現在の利用者は、レギュラー会員 26名、スポット会員 59名と、定員に近づきつつある。2012年11月から2013年１月にかけて３回実施した2013年度入園説明会にも毎回４～５名の参加者があり、開所４年目を迎えて、運営は軌道に乗りつつある。

## ２．女子学生支援策検討ワーキンググループの活動報告

水谷法美（主査）、畔上秀幸、山内章、古川忠稔、戸本誠、中川弥智子、吉田朋子、三枝麻由美

女子学生支援策検討ワーキンググループの本年度の主な活動は以下の２つである。

### １．若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学セミナーの企画、実施

本活動の目的は、社会の第一線で活躍する理系の女性研究者の特別講演と若手女性研究者のポスター発表を通じて、女子中高生および保護者に理系研究の魅力と女性研究者のロールモデルの理解を深めていただくこと、また、ポスター発表に対して中高生・保護者や理事、各部局長等からコメントを受ける場を設けて、若手女性研究者のさらなる研究の発展に資することである。

本年度は、少しでも多くの女子中高生に参加いただくことを期待し、オープンキャンパスの期間中である８月８日～10日に開催することとした。具体的には８日から女性研究者によるパネルを展示し、９日にそのパネルを対象にポスターセッションを行った。そして最終日の10日に女性研究者による基調講演を企画した。

基調講演では、山西陽子准教授（工学研究科）による「ミクロな世界で活躍する工学」、藤江双葉准教授（多元数理科学研究科）による「留学という選択肢」、佐藤仁美助教（環境学研究科）による「どんな研究をしているの？環境土木学科で交通を研究？」の３題の講演を企画し、実施した。

若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学セミナーの一般参加者は、ポスターセッションが142名、基調講演は48名であった。ポスター発表は38件の発表があり、優秀ポスター発表を選ぶための参加者全員による投票を行った。その結果、３件のポスター発表に対して名古屋大学総長賞を授与された。表彰式は基調講演に引き続き行われた。

本活動の詳細については第３節の１を参照されたい。

### ２．理系女子学生コミュニティ「あかりんご隊」の活動支援

あかりんご隊は、理系の女子学生や女性研究者が交流するコミュニティの核となり、様々な活動を通じて女子学生と女性研究者の交流を深めるとともに、キャリアアップや両立支援に有用な情報・ノウハウの交換・共有・蓄積を図ることを目的としている。本ワーキンググループはあかりんご隊の活動を支援した。

本年度の「あかりんご隊」の活動概要は次のとおりである。

●2012年７月13日（金）@名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
　セミナー：「理系人の人生ガイド～研究者への道 進路の決め手～」
　パネリスト：義家亮准教授（工学研究科）、窪田光宏助教（工学研究科）

●2012年８月８日（水）～10日（金）@名古屋大学豊田講堂
　名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム・女子中高生理系進学推進セミナー
　ポスター展示（８日～10日）
　あかりんご隊の活動紹介（10日）

●2012年８月23日（木）@名古屋大学こすもす保育園
　出張科学実験：「おふろでぶくぶく～酸とアルカリの反応～」

●2012年10月６日（土）・７日（日）@名古屋市科学館
　青少年のための科学の祭典2012
　出張科学実験：「おふろでぶくぶく～酸とアルカリの反応～」

●2012年10月20日（土）@名古屋大学野依記念学術交流館
名古屋大学ホームカミングディ
出張科学実験：「3Dの絵を描こう☆」

●2012年12月12日（水）@名古屋大学理学南館
第６回理系女子エンカレッジ交流会
クリスマス企画：「アロマについて学び、心身ともに健康になろう！」
講師：今井貴規准教授（生命農学研究科）、渡辺久美子（アロマサロンひだまりオーナー）

●2012年12月26日（水）@自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンター
科学三昧 in あいち2012
進路相談・研究紹介：あかりんご隊による「大学ってどんなところ？」解説コーナー

本活動の詳細ついては第３節の２を参照されたい。

## ３．学部学生向けジェンダー関連授業検討ワーキンググループ

束村博子（主査）・榊原千鶴・三枝麻由美

これまで「女と男を科学する」という科目名で開講してきた全学教養科目を、今年度は、「ジェンダーの視点から考える21世紀の日本」と改め、前期火曜２時限に開講した。コーディネーターは榊原千鶴（男女共同参画室）、授業は、男女共同参画室長・束村博子、室員・三枝麻由美、榊原の３名が担当した。

受講者は、９名（内３名は他大学）と例年より少なかったことで、受講者による課題発表の機会を複数回設け、考察・理解促進に努めることができた。その結果、アンケートに明らかなとおり、共通設問すべての項目で、全学教養科目の平均を上回る満足度の高い内容とすることができた。

なお、授業内容は以下の通りである。

### Ⅰ 授業目的：

ジェンダーとはなにか、女らしさや男らしさとはなにか。性別によらず人が輝ける社会をつくるための男女共同参画の重要性を講義するとともに、ジェンダーの視点を通して、教育、就活、婚活、少子化、子育て、停滞する日本経済などの問題を考えることで、より良い21世紀の日本社会を構築するための方策を議論する。授業では対話の時間を多く取り入れるとともに、グループ・プロジェクトによる発表の機会も設ける。また、他の先進諸国との比較や、日本におけるジェンダーの歴史的変遷をふまえることで、現代日本社会におけるジェンダーの特異性についても考察する。

### Ⅱ 授業内容

１．ジェンダーと男女共同参画社会
２．生物学とジェンダー①
３．生物学とジェンダー②
４．ジェンダーとはなにか
５．ジェンダーと労働市場
６．ジェンダーと恋愛／結婚
７．ジェンダーと社会政策
８．男女共同参画社会の実現に向けて（グループ・プロジェクトの発表）
９．日本の近代化とジェンダー① 教育とジェンダー
10. 日本の近代化とジェンダー② 戦争とジェンダー
11. 日本の近代化とジェンダー③ 労働とジェンダー
12. 敗戦直後／男女平等社会をめざして
13. 既成の法や制度への問い直し（グループ･プロジェクトの発表）
14. 全体を通してのディスカッション・まとめ
15. 定期試験

＊１～３は束村、４～７は三枝、８～13と15は榊原、14は３名で担当した。

### Ⅲ 成績評価の方法：

授業の出席、ならびにディスカッション、グループ・プロジェクトへの参加貢献度：40％定期試験：60％

### Ⅳ 教科書：

特に指定せず、必要に応じてプリント等を配布。

## ４．病児保育検討ワーキンググループ

浅野みどり（主査）、玉腰浩司、松下　正、秋山真志、永田雅子、
佐々木成江、榊原千鶴、加藤太一、渡井いずみ、山本弘江

平成24年度の病児保育WGでは、年度当初より名古屋大学医学部附属病院長に活動趣旨をご説明に伺い、そのご理解のもとで附属病院職員を含む鶴舞地区の全教職員を対象とした「名大附属病院教職員の子育て環境に関する調査」を実施した。この調査は、名古屋大学全体の教職員を対象に「子どもの病気と仕事の両立に関するWebアンケート」を2010年度末に実施した（回答総数656部）が、結果的に東山地区教職員の回答が中心であったことから、鶴舞地区（名大附属病院教職員）の意見を十分に把握することができなかった点を踏まえて、東山地区と同様に敷地内にあすなろ保育園を有する鶴舞地区で実施したものである。

名大附属病院松尾病院長初め、事務部・看護部にご理解いただき、紙媒体による調査として3,058部配布したところ、1,475部（回収率48.3％）という多数の調査協力が得られた。本調査結果は、保健学科のWG委員（玉腰、山本、渡井、浅野）の尽力により集計・分析が迅速に進められ、結果概要は資料１としてまとめられた。資料１に基づき、松下委員ならびに主査浅野から、病院長・事務部長ならびに看護部長にそれぞれ報告を行った。その結果、松尾病院長のご判断により、名大附属病院は病児保育に対し積極的に取り組むという基本方針が決定した。これを受け、WG委員松下教授を中心に「あすなろ保育園における病児保育」の平成25年４月運用開始に向けて、受け入れ基準案等が12月のあすなろ保育園運営協議会で検討されるという成果を得るに至った。

なお、平成24（2012）年度は、あすなろ保育園運営協議会委員長の交代（平成23年度那須教授）に伴い、秋山真志教授がWG委員に就任され、ワーク＆ライフバランスに詳しい渡井いずみ委員に新規で加わっていただくこととなった。

その他、平成24年度の主な委員会活動は以下のとおりである。

### １）病児保育検討ＷＧ会議

平成24年度は、12月までの段階で４回の会議を鶴舞キャンパスにて実施した。

（１）第１回会議　2012年５月15日（火）年間活動計画　ほか
（２）第２回会議　2012年７月17日（火）アンケート調査進捗状況報告　ほか
（３）第３回会議　2012年９月13日（木）調査結果の共有、結果活用方針の検討　ほか
（４）第４回会議　2012年12月18日（火）あすなろ保育園病児保育に関する進捗状況報告
WGの病児保育に関する規定の確認　ほか

### ２）「名大附属病院教職員の子育て環境に関する調査」の実施・分析

2012年５月、鶴舞地区の全教職員を対象に子育て環境に関する意識調査を紙媒体で実施した。3,058部中1,475部の回答（回収率48.3%）が得られ、有効回答1,470について分析した（資料１参照）。

### ３）こすもす保育園運営協議会との連携：

2011年度改修した部屋は現在休養室として運用中

以上　（文責：浅野みどり）

資料１

# 名大附属病院職員の子育て環境に関する調査結果

2012.9月　男女共同参画推進専門委員会　病児保育ワーキンググループ

少子化の進行から今後の労働力不足は深刻である。名古屋大学では、男女共同参画室を中心に「仕事と家庭の両立支援」を行っており、病(後)児保育の検討は重点課題のひとつである。2010年には全学対象のWebアンケートを実施し、子どもの急な病気に柔軟に対応できる職場の支援体制や資源整備の重要性が示唆された。しかし、2010年調査の回答者は東山地区の教職員が中心で、名大附属病院職員とくに子育て期女性職員の代表的集団のひとつ看護職の回答は皆無に近かった。そこで、附属病院職員を対象に紙媒体による子育て環境の意識調査を実施した。配布総数 3,058部中1,475部が回収（回収率48.3%）された。有効回答1470部の解析結果概要を示す。

※　配布総数　3058部（回収率48.3%）

表1　対象の属性　n=1470

| 職種 | 人数 | % |
|---|---|---|
| 看護職 | 705 | 47.8 |
| 非常勤 | 252 | 17.1 |
| 教員 | 141 | 9.6 |
| 薬剤師 | 116 | 7.9 |
| 医員 | 67 | 4.5 |
| 大学院生 | 67 | 4.5 |
| 臨床検査技師 | 25 | 1.7 |
| 臨床工学士 | 22 | 1.5 |
| 理学療法士 | 20 | 1.4 |
| その他コメディカル | 27 | 1.9 |
| その他（含む派遣） | 28 | 2.1 |
| 年齢 | | |
| 20歳代 | 537 | 36.4 |
| 30歳代 | 474 | 32.1 |
| 40歳代 | 309 | 20.9 |
| 50歳代 | 127 | 8.6 |
| 60歳以上 | 23 | 1.6 |
| 性別 | | |
| 男性 | 345 | 23.4 |
| 女性 | 1127 | 76.4 |
| 婚姻状況 | | |
| 既婚 | 744 | 50.4 |
| 未婚 | 672 | 45.6 |
| 既婚別居 | 36 | 2.4 |
| その他 | 13 | 0.6 |
| 子どもの有無 | | |
| あり | 528 | 35.8 |
| なし | 937 | 63.9 |

図1　仕事と子育て両立支援の重要性

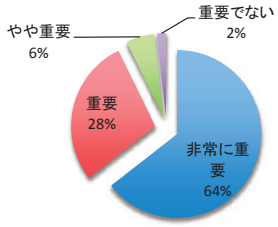



図2　どのような支援が有効か？

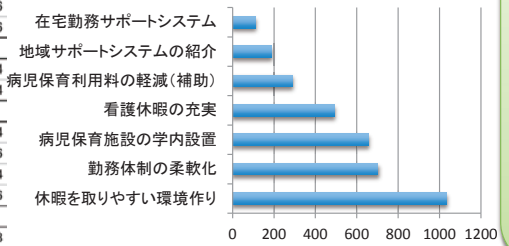
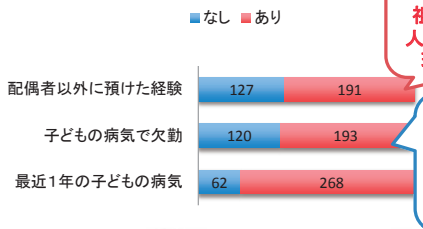



図3　子どもの病気経験と対応




預け先の約80%は祖父母。祖父母のいる人しか働けない現状では？

大多数が子どもの病気を経験するが、休暇等の日数は、年間3～5日程度

・調査回答者の約半数が看護職であった。年齢では**20代～30代が78.5%**を占め、一般的に**子育て期とその予備群が圧倒的に多い**ことから、**仕事と子育ての両立支援は明らかに喫緊の課題**である。子どもの有無や年齢に関わらず、90%以上が支援の重要性を認識している。**有効とされた支援のベスト3は休暇のとれる環境、勤務体制の柔軟化、病児保育の学内設置**であったが、**病児保育は早急に取り組みやすい現実的支援**と考えられる。子どもが病気になったときの預け先探しについて、経験者の70%以上が困難さを感じ、子どもの病気で休暇を取ることに「職場が快く応じてくれる」と予測したものは56%であり、安心とはいえない状況にある。

**【看護職に焦点をあてた分析結果】**他職種との比較では、**看護職の方が「子どもが病気の時の支援を重要」と認識していた。**年代別では「非常に重要＋重要」と回答した割合は20歳代が最も高いが、**「非常に重要」に限ると30歳代が84.1%と最も高い。**「病児保育施設の学内設置」を有効と回答した人の割合を年代別にみると40歳代が62.5%と高く、**実際に最近まで幼児・児童期の子育てをしていた（あるいは現在している）と考えられる年代の人にとっては、「病児保育施設の学内設置」は望む度合いの高い策**であった。

図4　「子どもが病気の時の支援」の重要性（職種）

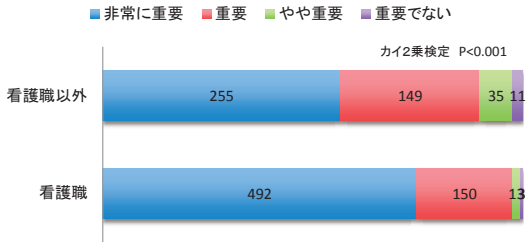
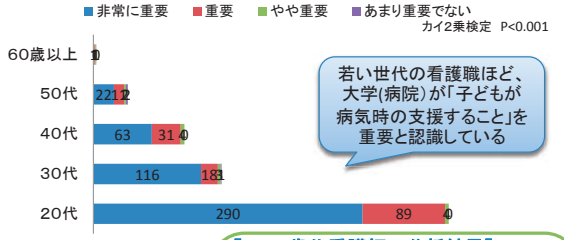
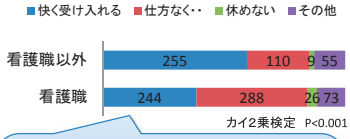



図5　「子どもが病気時の支援」の重要性
看護職(年代別)　n=658




若い世代の看護職ほど、大学(病院)が「子どもが病気時の支援すること」を重要と認識している

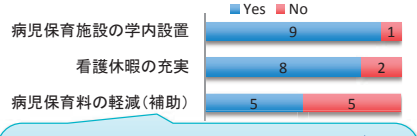
図6　子どもの病気で休暇を取る人がいる場合の対応




子どもが病気の時の対応について、**看護師では「快く受け入れてくれる」の回答が有意に少なく、「休暇が取りにくい」と感じていた。**　また、「職場で対応策について話し合う機会」も看護職で有意に少なく、環境が整っていない。

図7　20歳代子育て中のNsが望む支援

小さい子どもをもって働く看護師に着目した分析




妊娠中を除き、子どもをもつ人は20歳代で**わずか2.6%（10名/383名）、30歳代は20.3%(28名/138名)**と極端に少数であった。現在、20-30歳代で子どもをもつ人は、**諸条件が整っていて仕事を継続できる人に限られている。結果として、有能な人材が離職している可能性が極めて高い。**

**【20-30歳代看護師の分析結果】**
条件が整わないと、この先辞めざるを得ない可能性のある対象に着目し分析した結果、子どものいない20歳代Nsでは、子どものいる同年代Nsとは異なり「休暇をとりやすい環境作り（81.3%）」が最多であった。これは、子育てに対する現実的認識があるかどうかの違いと考えられ、現在は、未婚または子どものいない人が、今後子どもをもった時、実際に困るのは「病児保育」「看護休暇」「病児保育利用料」であろうと推察できる。子育て支援、とくに**「病児保育施設の学内設置」は若い子育て予備群Nsの離職防止に繋がる。**

**【まとめ】病児保育施設の学内設置がもつ意義：患者の安全**、また病院運営の財源安定のためにも**7対1看護の確保**は必須である。名大附属病院にとって、**「経験3～5年以上の看護職の離職防止」**は、その対策のひとつとして**喫緊の重要課題**と考える。**離職防止のターゲットこそが、まさに"子育て期・子育て予備軍"と合致**する。　今後、**労働人口減少の深刻化がますます懸念**される中では、**「病児保育施設の学内設置」は、"男女を問わず職員を大切にする"という大学（病院）の姿勢が問われる"実現可能な対策"**である。

資料２

## 子育て環境と病児保育のニーズに関するアンケート調査

平成 24 年　月

名古屋大学医学部教職員各位

時下　益々ご活躍のことと存じます。

このたび、名古屋大学男女共同参画推進専門委員会病児保育検討ＷＧでは、名大病院をはじめとする名古屋大学職員の皆様が働きながら安心して子育てができる職場環境を検討することを目的に、子育て環境とニーズに関するアンケートを行うこととなりました。ご業務に大変お忙しいことと存じますが、ぜひともご協力をお願いいたします。アンケート結果は、名古屋大学の子育て支援施策に役立つように、大切に活用させていただきます。

名古屋大学男女共同参画推進専門委員会
病児保育検討ワーキンググループ

**アンケート項目**

下記の質問について、当てはまる項目に○をつけてください。

**Ｑ１**．あなたの年齢を教えてください。
1. 20 歳代　2. 30 歳代　3. 40 歳代　4. 50 歳代　5. 60 歳以上

**Ｑ２**．あなたの性別を教えてください。
1. 男性　2. 女性

**Ｑ３**．あなたの職種/所属を教えてください（常勤/非常勤問わず）。
1. 教員　2. 医員　3. 大学院生　4. 学部学生　5. 技術職員（基礎系）　6. 看護師・助産師
7. 臨床検査技師　8. 臨床放射線技師　9. 理学療法士　10. 臨床工学技師　11. 薬剤師・事務職員
12. 非常勤職員（契約職員・パートタイム勤務職員）　13. その他のコメディカルスタッフ（　　）
14. 派遣職員　15. その他（　　）

**Ｑ４**．婚姻状況を教えてください。
1. 未婚/非婚　2. 既婚/事実婚の同居　3. 既婚/事実婚の別居　4. その他

**Ｑ５**．現在、ご妊娠もしくは同居されているお子さん１人以上いますか。
1. なし　2. いる　（　　人）
⇒なしと答えた方は、Ｑ６にお進みください

（Ｑ５で 2. あると答えた方）
**Ｑ５－１**．お子さんの年齢と人数を教えてください。
1. 妊娠中　2. ０～２歳（　　人）　3. ３～４歳（　　人）
4. ５～６歳未就学児（　　人）　5. 小学校低学年（　　人）
6. 小学校中学年（　　人）　7. 小学校高学年（　　人）　8. 中学生以上（　　人）

**Ｑ６**．子どもの有無に関わらず、あなたが現在の仕事を続けるにあたり、仕事と育児との両立のために、大学（大学病院）が子どもの病気の時の支援体制を整えることは重要だと思いますか。
1. 非常に重要　2. 重要　3. やや重要　４．重要ではない　⇒４と答えた方は、Ｑ７へお進みください

（Ｑ６で 1. 非常に重要、2. 重要、3. やや重要と答えた方）
**Ｑ６－１**．どのような支援が有効だと思いますか。
1. 看護休暇の充実　２．休暇をとりやすい境作り　3. 在宅勤務サポートシステム
4. 勤務体制の柔軟化　5. 病児保育施設の学内設置　6. 地域病児保育サポートシステムの紹介
7. 病児保育利用料の軽減（補助）　8. その他（　　）

**Ｑ７**．もしあなたのお子さんが病気になったら、休暇をとると思いますか？
1. 毎回とると思う　2. ほとんどとると思う　３．時々とると思う　４．とらないと思う
⇒１と答えた方は、Ｑ８へお進みください

（Ｑ７で 1. 毎回とると思う　以外を答えた方）
**Ｑ７－１**．休暇を毎回はとらない思う理由はなぜですか。
1. 子どもの看病をする人（配偶者など）がいるから　2. とりにくい雰囲気
3. 変わってもらえない、仕事の内容であるため　4. その他（　　）

Ｑ８．あなたの職場において、子どもの病気が理由で休暇をとる人がいる場合、どのような対応策がとられていますか。
1. 快く受け入れてくれる　2. 仕方なく受け入れてくれる　3. 休めない
4. その他（　　）

Ｑ９．あなたの職場において、自分の病気が理由で休暇をとる人がいる場合、どのような対応策がとられていますか。
1. 快く受け入れてくれる　2. 仕方なく受け入れてくれる　3. 休めない
4. その他（　　）

Q10. あなたの職場において、子どもの病気時の研究や仕事の対応策について話し合ったことがありますか。
1. はい　2. ない

Q11. 子どもの病気による休暇をとりやすくするためにはどのようなことが必要だと思いますか。

全体アンケートは以上で終了です。小学生以下のお子さんが現在いる方は、引き続き以下の質問にお答えください。

Q12. この１年間にあなたのお子さんはなにか病気をされましたか（入院も含む）。
1. はい　2. ない

Q13. この１年間であなたのお子さんが保育園・幼稚園・小学校に病気のため登園（校）できなかった日は何日程度ですか（なかった場合は０と記入してください）。
（　　）日程度

Q14. この１年間で保育園・幼稚園・小学校から、病気のためのお迎え（早退）の連絡をもらったことは何日程度ですか（なかった場合は０と記入してください）。
（　　）日程度

Q15. その時、スムーズに仕事を切り上げてお迎えに行けましたか。
1. はい　2. ない

Q16. 子どもの病気のために、仕事を休んだことはありますか？
1. はい　2. ない

Q17. この１年間で 子どもの病気のために、休みたくても仕事を休めなかったことは何日程度ですか。
（なかった場合は０と記入してください）
（　　）日程度

Q18. 子どもが病気の時、仕事のために配偶者以外の人に預けたことがありますか？
1. はい　2. ない　⇒２と答えた方は、Q19 へお進みください

（Q18 で 1. はいと答えた方）
Q18－１．誰に預けましたか。
1. 祖父母　2. 親戚　3. ベビーシッター　4. 病児保育施設　5. その他（　　）

Q19. 預け先を探すことは困難でしたか。
1. 非常に困難　2. 困難　3. やや困難　4. 困難ではない

Q20. 預けた場合、１日どれくらいの費用が必要でしたか。
（　　）円程度

Q21. 病児（後）保育を利用したことはありますか。
1. はい　2. ない

以上でアンケートは終了です。ありがとうございました。

## ５．メンター検討ワーキンググループ

中井俊樹（主査）、大河内美奈、榊原千鶴

科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業に採択された「名古屋大学方式　女性研究者採用加速・育成プログラム」では女性教員のためのメンタープログラムが活動の一つの柱である。メンタープログラムを円滑に実施するため、2010年度に男女共同参画推進専門委員会のもとにメンター検討ワーキンググループを設置した。メンター検討ワーキンググループでは、高等教育研究センターと協力しながら、メンタープログラムの企画、運営、評価を行っている。

2012年度（2013年１月現在）は、６名の女性教員から教員メンタープログラムへの申し込みがあり、メンターを紹介した。前年度より継続している女性教員は６名であるため合計で12名である。詳細に関しては、第３章の「メンタープログラムによるキャリア支援」および男女共同参画室ホームページを参照されたい。

## 第３節

## １.「名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム」および「女子中高生理系進学推進セミナー」

男女共同参画室　三枝麻由美

本学では、「名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム」および「女子中高生理系進学推進セミナー」と題したイベントを毎年行っている。両イベントは同時開催され、サイエンスフォーラムは本学の大学院生を中心とした若手の理系女性研究者の支援および交流を目的とし、理系進学推進セミナーでは愛知県近隣の女子中高生を対象に、理系進学の推進を目的とする。この二つの目的を実現するために、本イベントでは、本学の若手理系女性研究者にポスター・セッションの形式で研究発表の機会を与え、その発表を女子中高生が審査するという構成になっている。審査は、女子中高生の他に、理工農系部局の代表者および男女共同参画室員が加わり行われる。

本年度は、同イベントをオープンキャンパス期間中に開催し、これまで同日開催していたポスターセッションと基調講演を別々の日に行った。ポスターセッションは、8月9日（木）10:30～11:30に行われ、来場者数は、142名であった（審査員、スタッフを除く）。名古屋大学女性研究者による基調講演およびポスターセッションの総長賞授賞式は、8月10日（金）15:00～17:00に行った。こちらの来場者数は41名であった（ポスター発表者、審査員、スタッフを除く）。本イベントのプログラム詳細は、上記資料を参照とする。

ポスターセッションの発表者数は38名であった。

38名のポスター発表者の中から、来場した女子中高生、講演者、本学の理工農系部局の代表者、男女共同参画室員による投票の結果、下記の３名に名古屋大学総長賞が授与された。

高等研究院（生命農学研究科）YLC特任助教　河内美樹「植物金属輸送体－植物を用いた汚染土壌浄化とレアメタル収集を目指して－」
理学研究科　Ｍ１　御田村侑香里「硫黄を含んだカーボンナノリングの合成研究」
工学研究科　助教　浅野美帆「信号切り替わり時における横断歩行者の駆け込み行動に関する研究」

基調講演は、下記の三名の名古屋大学女性研究者により行われた。

山西陽子氏（工学研究科准教授）
「ミクロな世界で活躍する工学」

藤江双葉氏（多元数理科学研究科准教授）
「留学という選択肢」

佐藤仁美氏（環境学研究科助教）
「どんな研究をしているの？環境土木学科で交通を研究？」

本年度の感想

サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学推進セミナーを、本年度は初めてオープンキャンパス期間中に行い、かつポスターセッションと基調講演＋総長賞授賞式を別の日に分けて行った。来場者の総数は、ポスターセッションが142名で、基調講演が41名であった。例年、同イベントへの来場者数は100名弱ぐらいであると考えると、ポスターセッションへの来場者数が本年度は大きく伸びた。しかしながら、基調講演の来場者数は41名で例年の半分となった。基調講演の来場者数が減少した理由として、設定日時がオープンキャンパスの最終日の午後であったためと考えられる。同イベントをオープンキャンパス期間中に行うことは、ポスターセッションの結果から集客が増大することが明らかとなっている一方、最終日の午後での設定は逆に集客が減少することがわかる。また、ポスターセッションと基調講演＋総長賞授賞式を別の日に分けると、ポスター発表者を2日間に渡り拘束してしまうことになり、運営上難しいことがわかった。

来年度の同イベント開催に向け、以下のことを検討するのが好ましいと考える。

・同イベントをオープンキャンパスの一日目または二日目に設定し、ポスターセッションと基調講演＋総長賞授賞式を同じ日に行う。
・ポスターセッションの時間をもう少し長くする
・ポスターセッション発表者同士が交流できるような時間帯と場所を設定する。

**女子中高生理系進学推進セミナー（ポスター・セッション）のアンケート結果**

回答者数：17 名　回答率：19.3%（88 名の来場者数のうち）

図表１　属性

| | | 度数 | パーセント |
|---|---|---|---|
| 有効 | 中学生 | 1 | 5.9 |
| | 高校生 | 13 | 76.5 |
| | 保護者 | 2 | 11.8 |
| | その他 | 1 | 5.9 |
| | 合計 | 17 | 100.0 |

高校生が全体の 76.5%（13 名）を占めた。中学生が１名、保護者が１名、その他（浪人生）が１名であった。

図表２　属性と住まい

**属性 と 住まい のクロス表**

| | | | 住まい | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 愛知県（名古屋市内） | 愛知県（名古屋市外） | 岐阜県 | 三重県 | その他 | |
| 属性 | 中学生 | 度数 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| | 高校生 | 度数 | 1 | 3 | 3 | 2 | 4 | 13 |
| | | 属性 の % | 7.7% | 23.1% | 23.1% | 15.4% | 30.8% | 100.0% |
| | 保護者 | 度数 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 0.0% | 50.0% | 0.0% | 50.0% | 100.0% |
| | その他 | 度数 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1 | 3 | 6 | 2 | 5 | 17 |
| | | 属性 の % | 5.9% | 17.6% | 35.3% | 11.8% | 29.4% | 100.0% |

アンケートに回答した高校生13名のうち、愛知県（名古屋市内）が1名、愛知県（名古屋市外）が3名、岐阜県が3名、三重県が2名、その他が４名（東京都、千葉県、山口県、静岡県）であった。中学生1名は岐阜県、保護者2名は、岐阜県が１名、その他（山口県）が1名であった

図表３　本イベントをどうやって知ったか

**属性 と どうやって知った のクロス表**

| | | | どうやって知った | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ポスター・チラシ | メール・インターネット | 先生からの紹介 | 知人・友人からの紹介 | |
| 属性 | 中学生 | 度数 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | 属性 の % | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| | 高校生 | 度数 | 3 | 6 | 3 | 1 | 13 |
| | | 属性 の % | 23.1% | 46.2% | 23.1% | 7.7% | 100.0% |
| | 保護者 | 度数 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 属性 の % | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| | その他 | 度数 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | 属性 の % | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 7 | 6 | 3 | 1 | 17 |
| | | 属性 の % | 41.2% | 35.3% | 17.6% | 5.9% | 100.0% |

高校生13名のうち、もっとも多い回答が「メール・インターネット」であった。

図表４　ポスターセッションの参加理由（複数回答）

| 参加理由 | 度数 |
|---|---|
| 理系 | 10 |
| 名大 | 4 |
| 女性研究者 | 6 |
| 以前参加 | 1 |
| オープンキャンパス | 7 |
| 参加無料 | 1 |

図表５　ポスターセッションの難易度

**属性 と 7 難易度 のクロス表**

| | | | 7 難易度 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 難しかった | ちょうどよかった | |
| 属性 | 中学生 | 度数 | 1 | 0 | 1 |
| | | 属性 の % | 100.0% | 0.0% | 100.0% |
| | 高校生 | 度数 | 6 | 6 | 12 |
| | | 属性 の % | 50.0% | 50.0% | 100.0% |
| | 保護者 | 度数 | 2 | 0 | 2 |
| | | 属性 の % | 100.0% | 0.0% | 100.0% |
| | その他 | 度数 | 1 | 0 | 1 |
| | | 属性 の % | 100.0% | 0.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 10 | 6 | 16 |
| | | 属性 の % | 62.5% | 37.5% | 100.0% |

ポスターセッションの満足度および難易度

回答者17名全員が、ポスターセッションに対して「興味が持てた」と回答している。難易度については、高校生は、「難しかった」と「ちょうどよかった」の回答が半々となっている。

図表６　理系への興味

**属性 と 理系への興味 のクロス表**

| | | | 理系への興味 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | とても深まった | やや深まった | |
| 属性 | 中学生 | 度数 | 0 | 1 | 1 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 100.0% | 100.0% |
| | 高校生 | 度数 | 4 | 9 | 13 |
| | | 属性 の % | 30.8% | 69.2% | 100.0% |
| | 保護者 | 度数 | 1 | 1 | 2 |
| | | 属性 の % | 50.0% | 50.0% | 100.0% |
| | その他 | 度数 | 0 | 1 | 1 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 100.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 5 | 12 | 17 |
| | | 属性 の % | 29.4% | 70.6% | 100.0% |

図表７　ポスターセッションに参加して、将来、取り組んでみたい研究はあったか

**属性 と 将来の研究 のクロス表**

| | | | 将来の研究 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | はい | どちらとも言えない | |
| 属性 | 中学生 | 度数 | 0 | 1 | 1 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 100.0% | 100.0% |
| | 高校生 | 度数 | 8 | 5 | 13 |
| | | 属性 の % | 61.5% | 38.5% | 100.0% |
| | 保護者 | 度数 | 1 | 0 | 1 |
| | | 属性 の % | 100.0% | 0.0% | 100.0% |
| | その他 | 度数 | 0 | 1 | 1 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 100.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 9 | 7 | 16 |
| | | 属性 の % | 56.2% | 43.8% | 100.0% |

**女子中高生理系進学推進セミナー（基調講演）のアンケート結果**

回答者：13名　回答率：31.7%（41名の来場者のうち）

図表８　属性

| | | 度数 | パーセント |
|---|---|---|---|
| 有効 | 中学生 | 5 | 38.5 |
| | 高校生 | 6 | 46.2 |
| | 保護者 | 2 | 15.4 |
| | 合計 | 17 | 100.0 |

図表９　属性と住まい

**属性 と 住まい のクロス表**

| | | | 住まい | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 愛知県（名古屋市内） | 愛知県（名古屋市外） | 岐阜県 | 5 | |
| 属性 | 中学生 | 度数 | 1 | 2 | 2 | 0 | 5 |
| | | 属性 の % | 20.0% | 40.0% | 40.0% | 0.0% | 100.0% |
| | 高校生 | 度数 | 1 | 4 | 0 | 1 | 6 |
| | | 属性 の % | 16.7% | 66.7% | 0.0% | 16.7% | 100.0% |
| | 保護者 | 度数 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| | | 属性 の % | 50.0% | 0.0% | 0.0% | 50.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 3 | 6 | 2 | 2 | 13 |
| | | 属性 の % | 23.1% | 46.2% | 15.4% | 15.4% | 100.0% |

図表10　ポスターセッションに参加したか

| | | | ポスターセッションに参加 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | はい | いいえ | |
| | 中学生 | 度数 | 1 | 4 | 5 |
| | | 属性 の % | 20.0% | 80.0% | 100.0% |
| | 高校生 | 度数 | 0 | 5 | 5 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 100.0% | 100.0% |
| | 保護者 | 度数 | 0 | 2 | 2 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 100.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1 | 11 | 12 |
| | | 属性 の % | 8.3% | 91.7% | 100.0% |

図表11　どうやって知ったか

**属性 と どうやって知った のクロス表**

| | | | どうやって知った | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ポスター・チラシ | メール・インターネット | 先生・知人・友人等からの紹介 | |
| 属性 | 中学生 | 度数 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 100.0% |
| | 高校生 | 度数 | 4 | 1 | 1 | 6 |
| | | 属性 の % | 66.7% | 16.7% | 16.7% | 100.0% |
| | 保護者 | 度数 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 50.0% | 50.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 4 | 2 | 6 | 12 |
| | | 属性 の % | 33.3% | 16.7% | 50.0% | 100.0% |

図表12　基調講演の参加理由（複数回答）

| | 理系 | 名大 | 女性研究者 | オープンキャンパス | 参加無料 |
|---|---|---|---|---|---|
| 中学生 | 3 | 2 | 1 | | 1 |
| 高校生 | 6 | 4 | 2 | 1 | 1 |
| 保護者 | 1 | 1 | 1 | | |

図表13　基調講演の感想

**属性 と 基調講演の感想 のクロス表**

| | | | 基調講演の感想 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | とても良かった | 良かった | |
| 属性 | 中学生 | 度数 | 4 | 1 | 5 |
| | | 属性 の % | 80.0% | 20.0% | 100.0% |
| | 高校生 | 度数 | 3 | 3 | 6 |
| | | 属性 の % | 50.0% | 50.0% | 100.0% |
| | 保護者 | 度数 | 0 | 2 | 2 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 100.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 7 | 6 | 13 |
| | | 属性 の % | 53.8% | 46.2% | 100.0% |

図表14　理系への興味

**属性 と 理系への興味 のクロス表**

| | | | 理系への興味 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | とても深まった | 深まった | |
| 属性 | 中学生 | 度数 | 3 | 2 | 5 |
| | | 属性 の % | 60.0% | 40.0% | 100.0% |
| | 高校生 | 度数 | 3 | 3 | 6 |
| | | 属性 の % | 50.0% | 50.0% | 100.0% |
| | 保護者 | 度数 | 0 | 2 | 2 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 100.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 6 | 7 | 13 |
| | | 属性 の % | 46.2% | 53.8% | 100.0% |

**サイエンスフォーラム（ポスター発表者）へのアンケート結果**

回答数：27名　回答率：73.0%（37名の発表者のうち）

図表15　属性

| | | 度数 | パーセント |
|---|---|---|---|
| 有効 | 院生（修士） | 10 | 37.0 |
| | 院生（博士） | 7 | 25.9 |
| | 研究員 | 6 | 22.2 |
| | 教員 | 4 | 14.8 |
| | 合計 | 27 | 100.0 |

図表16　ポスターセッションをどうやって知ったか

**属性 と どうやって知った のクロス表**

| | | | どうやって知った | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ポスター・チラシ | メール・インターネット | 先生からの紹介 | 知人・友人からの紹介 | |
| 属性 | 院生（修士） | 度数 | 4 | 1 | 5 | 0 | 10 |
| | | 属性 の % | 40.0% | 10.0% | 50.0% | 0.0% | 100.0% |
| | 院生（博士） | 度数 | 1 | 0 | 6 | 0 | 7 |
| | | 属性 の % | 14.3% | 0.0% | 85.7% | 0.0% | 100.0% |
| | 研究員 | 度数 | 0 | 1 | 3 | 2 | 6 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 16.7% | 50.0% | 33.3% | 100.0% |
| | 教員 | 度数 | 0 | 1 | 3 | 0 | 4 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 25.0% | 75.0% | 0.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 5 | 3 | 17 | 2 | 27 |
| | | 属性 の % | 18.5% | 11.1% | 63.0% | 7.4% | 100.0% |

図表17　発表は研究活動に役立ったか

**属性 と 発表は役立ったか のクロス表**

| | | | 発表は役立ったか | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | とても役立った | やや役立った | どちらとも言えない | |
| 属性 | 院生（修士） | 度数 | 6 | 4 | 0 | 10 |
| | | 属性 の % | 60.0% | 40.0% | 0.0% | 100.0% |
| | 院生（博士） | 度数 | 1 | 4 | 0 | 5 |
| | | 属性 の % | 20.0% | 80.0% | 0.0% | 100.0% |
| | 研究員 | 度数 | 2 | 2 | 2 | 6 |
| | | 属性 の % | 33.3% | 33.3% | 33.3% | 100.0% |
| | 教員 | 度数 | 1 | 3 | 0 | 4 |
| | | 属性 の % | 25.0% | 75.0% | 0.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 10 | 13 | 2 | 25 |
| | | 属性 の % | 40.0% | 52.0% | 8.0% | 100.0% |

図表18　ポスターセッションは女子中高生のロールモデルになっているか

**属性 と ロールモデルに役立つ のクロス表**

| | | | ロールモデルに役立つ | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | とても思う | やや思う | どちらとも言えない | |
| 属性 | 院生（修士） | 度数 | 5 | 5 | 0 | 10 |
| | | 属性 の % | 50.0% | 50.0% | 0.0% | 100.0% |
| | 院生（博士） | 度数 | 1 | 4 | 1 | 6 |
| | | 属性 の % | 16.7% | 66.7% | 16.7% | 100.0% |
| | 研究員 | 度数 | 1 | 4 | 1 | 6 |
| | | 属性 の % | 16.7% | 66.7% | 16.7% | 100.0% |
| | 教員 | 度数 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| | | 属性 の % | 0.0% | 100.0% | 0.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 7 | 17 | 2 | 26 |
| | | 属性 の % | 26.9% | 65.4% | 7.7% | 100.0% |

## ２．理系女子学生コミュニティ「あかりんご隊」の活動支援

本年度、あかりんご隊のおもな活動は以下の通りである。科学実験については、技術職員執筆による後掲Ⅱ「あかりんご隊への技術支援」とあわせてご覧いただきたい。

### Ⅰ．あかりんご隊の活動概要2012年度　あかりんご隊活動概要

●2012年７月13日（金）
　@名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
　セミナー：「理系人の人生ガイド
　　～研究者への道 進路の決め手～」
　パネリスト：義家亮准教授（工学研究科）
　　窪田光宏助教（工学研究科）

就職か進学か、進学した後の進路にはどのようなものがあるのか、などをテーマに、研究者としての道を選んだ学内教員に、体験談や意見を聴くセミナーを企画・開催した。

お昼休みを使っての質疑応答を中心とした40分、参加者30人の内11人は男子学生で、あかりんご隊も手応えを感じる催しとなった。

●2012年８月８日（水）～10日（金）@豊田講堂
　名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム・女子中高生理系進学推進セミナー
　ポスター展示（８日～10日）
　あかりんご隊の活動紹介（10日）

オープンキャンパスと同時開催されたサイエンスフォーラムで、活動紹介のポスターを展示するとともに、最終日には、参加者向けに活動報告を行った。

●2012年８月23日（木）@こすもす保育園
　出張科学実験：おふろでぶくぶく～酸とアルカリの反応～

技術職員の協力を得て、今年度最初の科学実験を学内こすもす保育園で行った。当日は、紙芝居を用いた説明と模擬実験に続き、各テーブルに分かれて、園児の実験を補助した。

● 2012年10月６日（土）・７日（日）@名古屋市科学館
青少年のための科学の祭典2012
出張科学実験：おふろでぶくぶく～酸とアルカリの反応～

毎年名古屋市科学館で開催される「青少年のための科学の祭典 2012 名古屋大会」に２日間参加し、科学実験を行った。全体の構成は、科学的な説明を行った後、参加者に体験させる２部構成とした。本催しには、大学や企業なども参加しており、演示を交代制とすることで、休憩時間にはあかりんご隊も各ブースを見学した。

備品の運搬、および当日の実験補助は、技術職員と男女共同参画室員が担当した。

●2012年10月20日（土）@野依記念学術交流館
ホームカミングディ
出張科学実験：3Dの絵を描こう☆

「地域と大学で考える 世界のなかの日本、日本のなかの世界」をテーマに行われたホームカミングディ2012において、事前申込みの参加者向けに、3Dの立体画を描く実験を行うとともに、パワーポイントを使って、立体に見える仕組みについて説明した。

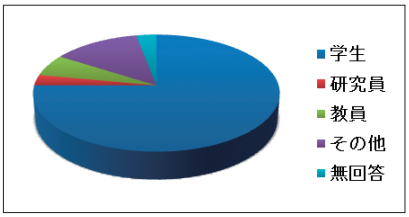
●2012年12月12日（水）@理学南館
第６回理系女子エンカレッジ交流会
クリスマス企画：「アロマについて学び、心身ともに健康になろう！」
講師：今井貴規准教授（生命農学研究科）
渡辺久美子（アロマサロンひだまりオーナー）

アロマ精油の成分分析および精油の効能に関する講演に続いて、参加者それぞれが自身の好みのアロマ精油を使ったハンドマッサージクリームを制作。最後に、渡辺講師の手作りマクロビオテックケーキを食べながら、テーブルごとに交流の時間をもった。

2012.12.12　あかりんご隊 理系女子エンカレッジ交流会アンケート結果

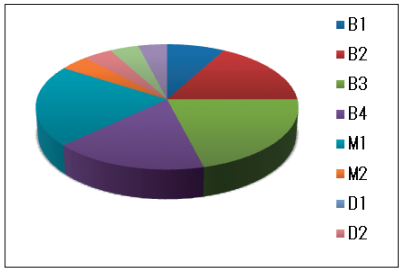
1．当てはまるものにチェックしてください

| 学生 | 研究員 | 教員 | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 75% | 3% | 6% | 13% | 3% |




学生内訳

| B1 | B2 | B3 | B4 | M1 | M2 | D1 | D2 | D3 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8% | 17% | 21% | 17% | 21% | 4% | 0% | 4% | 4% | 4% |

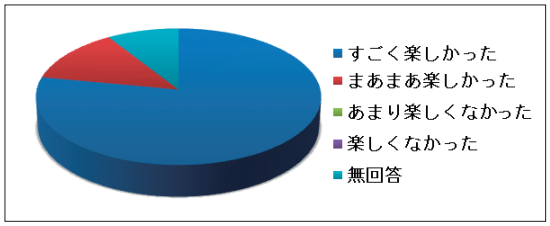



2．所属はどちらですか？

農学部/生命農学研究科　12名
工学部/工学研究科　6名
理学部生命理学科/理学研究科生命理学専攻　6名
理学部数理学科　2名
医学系研究科看護学専攻　1名
職員　5名

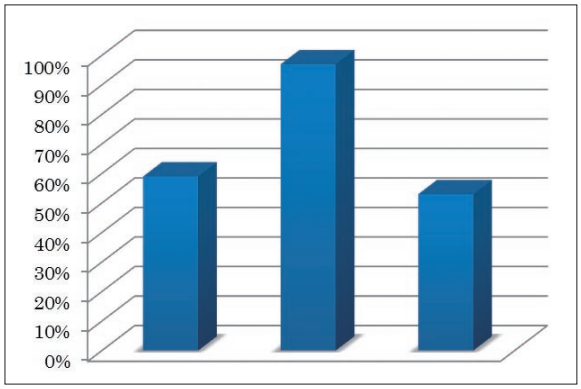
3．今日は楽しんでいただけましたか？

| すごく楽しかった | まあまあ楽しかった | あまり楽しくなかった | 楽しくなかった | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 78% | 13% | 0% | 0% | 9% |



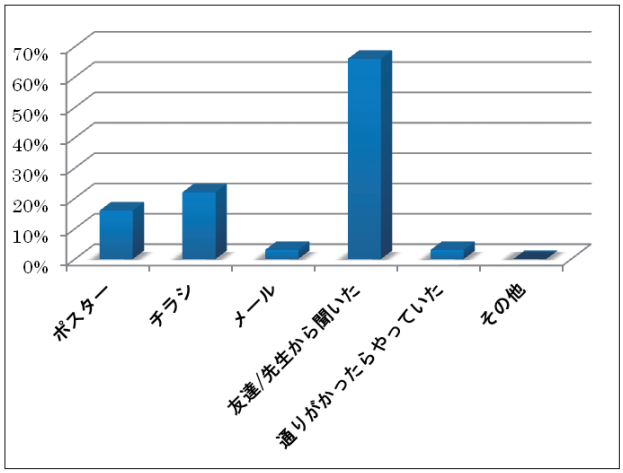

4．参加して良かった、面白かったと思う企画を教えてください（複数回答可）

| 講演「科学的視点から見たアロマ精油とはどんなものか」 | |
|---|---|
| 59% | |
| 手作りアロマクリームづくり | 交流会 |
| 97% | 53% |



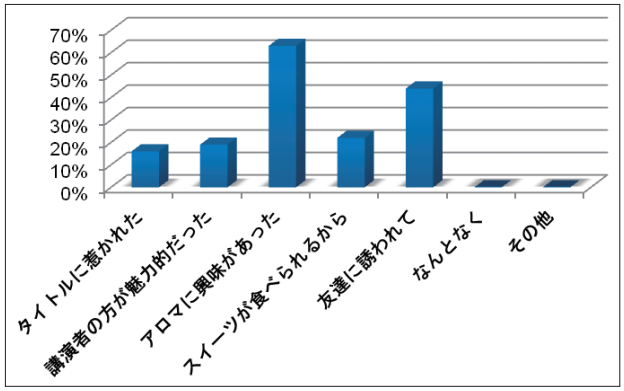

5．このセミナーをどこで知りましたか？（複数回答可）

| ポスター | チラシ | メール | 友達/先生から聞いた | 通りがかったらやっていた | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 16% | 22% | 3% | 66% | 3% | 0% |



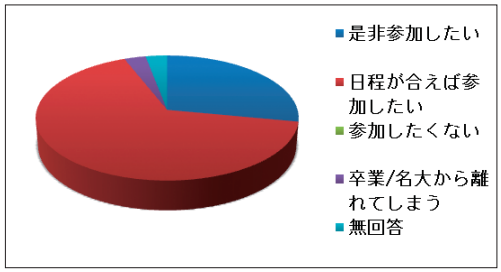
6．参加されたきっかけを教えてください。（複数回答可）

| タイトルに惹かれた | 講演者の方が魅力的だった | アロマに興味があった | |
|---|---|---|---|
| 16% | 19% | 63% | |
| スイーツが食べられるから | 友達に誘われて | なんとなく | その他 |
| 22% | 44% | 0% | 0% |



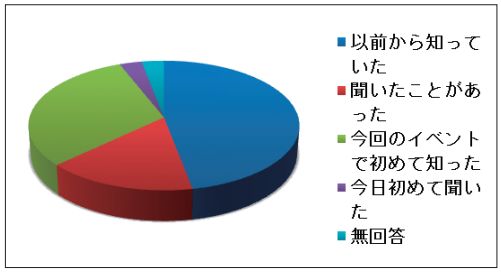

7．来年も同じようなイベントがあれば参加したいですか？

| 是非参加したい | 日程が合えば参加したい | 参加したくない |
|---|---|---|
| 28% | 66% | 0% |
| 卒業／名大から離れてしまう | | 無回答 |
| 3% | | 3% |



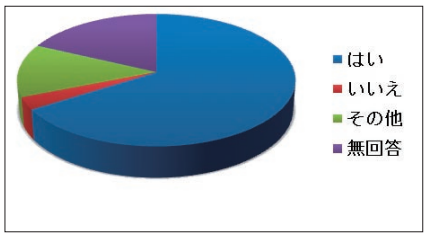

8．あかりんご隊のことを知っていましたか？

| 以前から知っていた | 聞いたことがあった | 今回のイベントで初めて知った | 今日初めて聞いた | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 47% | 16% | 31% | 3% | 3% |




9．今後あかりんご隊の活動に参加してみたいですか？

| はい | いいえ | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 66% | 3% | 13% | 18% |




その他

・何か協力できることがあればさせていただきます。
・男性ですが、許可をいただければ是非とも参加したいです。
・事務職員なので‥。

10．その他ご感想、次回へのご意見、こんな企画をやってほしいという案などをお聞かせください。

・すごく楽しかったです！匂いには前から興味があったので、アロマにもすごく興味が持てました。化学式とかも理解できてよかったです。
・同じ学年の人が少なかった。(B2)
・アロマについて何となくしか知らなかったので、とっても面白かったです。良い匂いに癒されました♡♡
・とてもよかったです！！ありがとうございました。交流会の時間がもう少しあってもよかったと思います！せっかくの機会なので色々話したかったので。
・ハーブティーの会
・すごく楽しくて充実した時間でした！！ありがとうございました！！
・アロマ作り楽しかったです^^
・楽しかったです！！
・ありがとうございます。

● 2012年12月26日（水）@自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンター
あいち科学技術教育推進協議会 科学三昧 in あいち2012
進路相談・研究紹介：あかりんご隊による「大学ってどんなところ？」解説コーナー

昨年度に引き続き、佐々木成江・理学研究科准教授による引率のもと、あいち科学技術教育推進協議会「科学三昧 in あいち 2012」に参加し、理系への進学を希望する高校生の進路相談にあたる一方、研究活動およびあかりんご隊の活動について、ポスター発表を行った。

なお今年度は、あかりんご隊の活動を紹介するパンフレットをリニューアルするとともに、あかりんご隊メンバーが独自に運営するホームページ「あかりんご隊～名古屋大学理系女子学生コミュニティ～」（http://acalingo.jimdo.com/）を作成した。

● 2013年３月25日（月）
平成24年度名古屋大学総長顕彰授与式@豊田講堂
あかりんご隊が「平成24年度名古屋大学総長顕彰」（「正課外活動への取り組み部門」）を受賞し、授与式とその後に開催された総長との懇談会に出席した。

## Ⅱ．あかりんご隊への技術支援

永田陽子[1)]、吉野奈津子[2)]、鳥居実恵[1)]、佐藤絢子[1)]
1）全学技術センター（工）
2）全学技術センター（情文）

【はじめに】
理系女子学生のネットワークである「あかりんご隊」では、身近な理系女子研究者のロールモデルとして学外向けの実験演示を活動の一環として行っている。この実験演示では、年齢、背景が多様な参加者を対象にし、安全で興味を持てるテーマをついて選んで実験演示を行っている。また最近では若年層における理科離れが進んでいることが社会問題になっているが、実生活でも見られるような身近な現象を用いることで、科学に興味を持ってもらおうと考えた。同時に理系女性研究者のロールモデルを理解することを期待して実験演示を行っている。しかしながら、あかりんご隊は、学生で構成されるため世代交代が早く、次への引継ぎが不十分であることが多い。また、学生であるために多人数相手の実験の組み立てに必要な知識が不足している場合が多い。そこで学生相手の実験演習などを日常の業務として行っている技術職員にサポート依頼があった。主なサポート内容は、実験テーマの選定、実験に使用する器具、試薬類の調達、実験演示の組み立てなどの実際に実験園児を行うために必要な援助を行うことである。

【平成24年度の実験】
今年度の実験テーマの選定にあたり、学生・技術職員から以下の６つのテーマが挙げられた。①酸とアルカリの中和反応を応用した入浴剤、②四ホウ酸ナトリウムとポリビニルアルコールの合成反応を応用したスライムの作成、③物理現象を応用したテンセグリティの作成、④ペーパークロマトグラフィを応用した栞つくり、⑤アナグリフ式３Dを利用した立体視の映像の説明、⑥霧箱を利用した身近な放射線の確認の以上である。
この中で、安全であり、身近な材料や現象を応用して科学に興味を持ってもらえそうな「酸とアルカリの中和反応を応用した入浴剤」、「ペーパークロマトグラフィを応用した栞つくり」、「アナグリフ式３Dを利用した立体視の映像の説明」を平成24年度の実験演示にて行うこととした。

[平成24年度の実験演示内容]
あかりんご隊が行った今年度の実験演示内容を以下の通り示した。
１．こすもす保育園での演示
日時８月23日（木）10:00-12:00

参加者数：30名
場所：こすもす保育園
テーマ：酸とアルカリの反応で「入浴剤を作ってみよう」
　保育園児が対象であるため、最初にNaHCO3と酸性溶液を混ぜて泡が出ることを確認し、その後、簡単に紙芝居を用いてNaHCO3と酸について説明を行った。次に、身近な液体を用いて、その各々がNaHCO3と反応するか確認した。用意した溶液は、酢、レモン汁、洗剤、牛乳である。次に、あかりんご隊が園児の前でNaHCO3とクエン酸を混ぜたものを作り、型に入れ園児が成形した。最後にプールに各自が作成した入浴剤を入れて泡が出て反応が起こっている事を確認した。

2．青少年のための科学の祭典
10月６日（土）７日（日）9:30-17:00
場所：名古屋市科学館
参加人数：約300人
テーマ：おふろでぶくぶく～酸とアルカリの反応～
　１のこすもす保育園での実験と同じ入浴剤の作成であったが、参加者の年齢が比較的高い為、紙芝居を用いたアルカリと酸の中和反応についてはより科学的な説明を行った。その後、用意した酢・洗剤を用いて、各々がNaHCO3と反応するのか確認した。次に参加者には自分たちでNaHCO3、クエン酸など薬品類を量りとり、グリセリン・水を加えて各自で入浴剤を作成した。

3．名古屋大学ホームカミングデー
日時10月20日（土）10:00－15:00
場所：名古屋大学野依記念学術館
テーマ（１）　３Dの絵を描こう
参加者：約80名（HPからの事前申込制）
　スライドを使用して立体視の説明を行い、どうして立体に見えるのか、見えることの不思議を体験した。赤青メガネを使って簡単な３D立体絵を描いてみた。その他として会場に３Dのポスターを貼り、講演時間以外にも楽しんでもらえるよう工夫をした。

図１：左ー会場に設置した立体絵、右ー保護者が赤青眼鏡で立体絵を見ている様子

　テーマ（２）　色のしおりをつくってみよう
　テーマ（１）の為に来場した参加者や、当日、他の会場からの来場者に向けて、クロマトグラフィを行い、色の変化を楽しんでもらった。これは、水溶性のペンでろ紙に線を書き、水に浸して展開する事でグラデーションになることを確認した。最後に栞として持ち帰ってもらった。

図２：左ーろ紙を用いたクロマトグラフィ　右ー１/４にしたろ紙でのクロマトグラフィ

［実験に関する考察］

1．入浴剤作成を実験にするまで

今回行った入浴剤の実験は$NaHCO_3$とクエン酸によるアルカリと酸の中和反応を応用したものである。単なる入浴剤の作成と位置付けるのではなく科学的な演示実験とするためには、中和反応をどう説明すれば分かり易いのかというのが課題であった。

簡単に紙芝居を用いて説明するだけでなく、実際に酸とアルカリの中和反応を見せる事を検討した。$NaHCO_3$を酸性・アルカリ性の溶液に入れて泡の出る反応が起きるか否か確認し、その際$NaHCO_3$と酸性溶液が反応し泡が出る勢いによってスポンジ栓を飛ばす演示も行った。また、用意した酸・アルカリ溶液は身近なものにした。実際の演示ではどの溶液が反応するか問いながら行い、参加者の興味を引いた。

入浴剤作成の為の分量については幾度か予備実験を行い、弱塩基である$NaHCO_3$が10g程度であれば浴槽の水に溶けるため、$NaHCO_3$：クエン酸が２：１の割合で良いのではないかとの結論となった。また、入浴剤を固めるには、水とグリセリンを混ぜたものを使用した。エタノールの使用も検討したが、排気システムの整わない条件下で科学の祭典での主な参加者である未成年者に対し、エタノールの蒸気が有害であるかと考え安全性を考慮し水を使用した。しかし、実際には手で握っただけでは成形がうまくいかなかった。また、手の大きさが小さいと尚更固めるのは難しいようだった。そこで高さ１㎝程度の丸枠の型を作りその中に押し固めたり、乳鉢ですりつぶして粒径をそろえる事でより成形しやすくなるよう工夫した。

2．アナグリフ式立体視（3D立体視）について

ものが立体に見える仕組みを参加者に理解してもらう為、 どのような説明を行うか検討した。右目と左目では見え方が違うということ、それぞれの目で見た映像を脳の中で合成して立体を認識しているということを、スライドを用いて説明し、 その後、手の人差し指をくっつける動作を、両目を開いた状態と片目だけ開いた状態で行うと　片目だけの場合だと難しいことを体感することで、 子どもたちにも分かりやすく説明することができた。

図３：指を合わせる説明

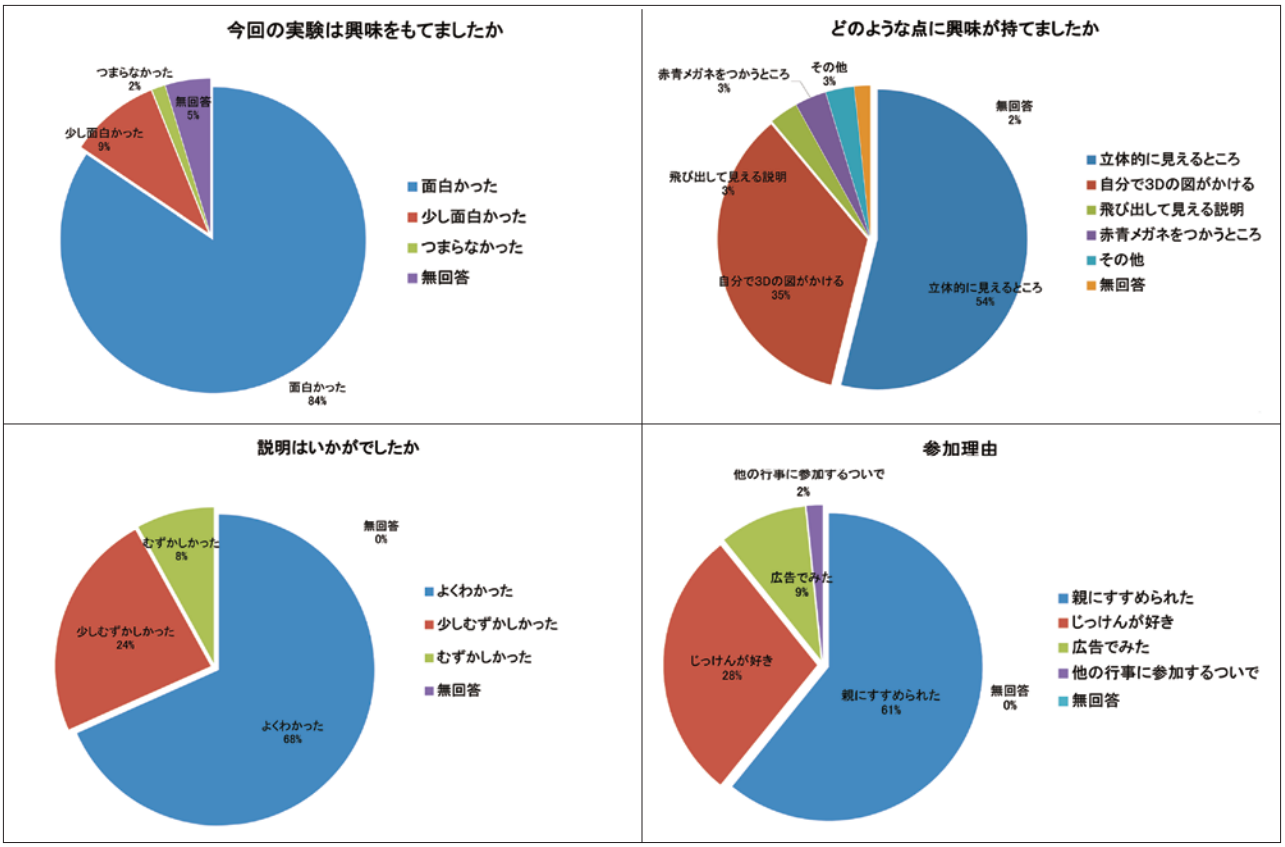
図４：指をくっつけている参加者

3．ペーパークロマトグラフィについて

この実験は最初ろ紙をそのまま用い、図２の通りクロマトグラフィを行っていたが、展開に時間がかかった。また、その間の待ち時間をどうするのかが問題になった。そこで、学生からの提案で、ろ紙を1/4に切って使用した。これにより展開時間が早くなり、色の変化が見やすくなった。

【アンケート結果】

あかりんご隊の実験演示がどのような評価を受けているか。一例として「アナグリフ式立体視」説明参加者のアンケート結果を下記に示す。




謝辞

実験演示を行うにあたり、参加した全てのあかりんご隊のメンバーと、実験活動をご支援くださった男女共同参画室の先生方に深く感謝申し上げます。

## 第４節　学内外における男女共同参画ネットワークの構築

### １．学内ネットワーク

女性研究者間のネットワーク構築として、学内の女性研修者を対象とした意見交流会を開催した。
日時：2013年１月18日（金）12:00-13:30
会場：レストラン花の木会議室

交流会には、理系分野および男女共同参画室から、総勢17名が参加した。参加者全員による自己紹介に続き、日頃の研究活動や、ワークライフバランスに関する現状などについて意見交換を行うとともに、「女性研究者養成システム改革加速」事業の一環として2013年２月～３月に実施するスキルアップセミナーを紹介した。

参加者からは、こうした情報交換の機会は貴重であり、できれば定期的に設けてほしい、などの要望が出された。

## ２．地域ネットワーク

### 「名古屋市男女平等参画推進会議（イコールなごや）」への参加

本会議は、平成９年に設置された「男女共同参画社会」をめざす市民各界各層の連携組織であり、愛称を「イコールなごや」としている。女性団体・経営者団体・労働団体・地域団体・教育・マスコミ・有識者・行政機関等の団体を代表する45名の委員により構成されており、家庭・地域・職場・教育など、あらゆる分野への男女共同参画の推進に努めている。平成24年度は、７月４日に第１回、10月22日に第２回が開催され、以下の議事・報告が行われた。

### 第１回（７月４日）

１．平成24年度男女平等参画推進室の主な事業について

平成24年度に男女平等参画推進室が取り組む主な事業、①男女平等参画審議会の開催、②男女平等参画推進協議会の運営、③男女平等参画推進会議（イコールなごや）の運営、④男女平等参画苦情処理制度の運営、⑤男女平等参画推進の基礎資料の作成、⑥男女平等参画推進にかかる啓発事業、⑦女性に対する暴力の防止対策、⑧男女平等参画推進センター（つながれっとNAGOYA）の運営、⑨ホットライン事業、⑩つながれっとNAGOYA相談室の運営、以上10事業についての説明が行われた。

２．平成24年度男女平等参画推進センターについて

管理運営、事業の概要、平成24年度名古屋市男女平等参画推進センター運営方針など、センターの概要についての説明がなされた。

３．名古屋市配偶者からの暴力防止及び被害者支援基本計画（第２次）について

「総合的なDV対策の推進をめざして」と題した基本計画の趣旨、期間（平成24年度～平成27年度）、計画策定の主な視点、計画の主な内容とともに、DV相談窓口の紹介が行われた。

４．平成24年度イコールなごや事業について

平成24年度の事業テーマは、「男女の人権の尊重についての啓発を図る」、実施内容は、「名古屋市男女平等参画基本計画2015」において重点項目として掲げる「女性に対するあらゆる暴力の根絶」を目指し、DVや児童虐待の防止に関する啓発について検討し、女性に対する暴力をなくす運動期間（11月12日～25日）に合わせて、委員の協力を得て市民に広報・啓発する」ことが採択された。推進室からは、被害者支援のみならず、いま現在公的には行われていない加害者支援が今後の課題とされた。

５．情報交換

出席者それぞれが、参加団体の活動状況等を説明し、全体での情報交換を行った。

### 第２回（10月22日）

１．平成24年度イコールなごや事業について

事業実施に伴う企画委員会の開催と委員の紹介に続き、成果としての「DV・児童虐待防止啓発ポスター」のデザイン説明および配布が行われた。

２．女性に対する暴力をなくす運動期間にかかる啓発活動について

平成24年11月12日～25日に実施された「女性に対する暴力をなくす運動」の趣旨説明と実施内容の説明につづき、各団体によるポスター掲示等の協力依頼があった。

３．情報交換

参加団体のなかで希望する団体代表が、活動報告および紹介宣伝を行った。

## ３．大学間ネットワーク

学外の男女共同参画に関わる機関からの要請により、今年度は岐阜大学と筑波大学で、マインドマップ講習会を開催した。以下はその概要である。

●2012年10月２日（火）マインドマップ講習会 @岐阜大学

岐阜大学男女共同参画推進室主催の「再チャレンジセミナー、スキルアップセミナー」として、マインドマップ教育フェローの資格を持つ榊原がマインドマップ講習会を行った。 参加者は、「女性研究者支援のための人材バンク登録者」および、女子学部学生、女子大学院生、女性職員の計15名であった。

講習会では、マインドマップの基本的なかきかたを説明した後、発想・記憶・整理に関わるワークを行うとともに、具体的な事例を紹介することで、研究教育活動のみならず、日常生活にも活かせるスキルとしての定着を図った。

なお講習会終了後には、林正子男女共同参画推進室室長と、約１時間にわたり、男女共同参画事業に関する情報交換を行った。

岐阜大学男女共同参画室「News Letter 28号」2012.10 より

### マインドマップ講習会を開催

平成24年10月2日（火）に名古屋大学男女共同参画室准教授の榊原千鶴先生をお招きし、マインドマップ講習会を開催しました。講習会には、「女性研究者支援のための人財バンク」の登録者や女子大学院生・職員など15名が参加しました。

講習会では、榊原千鶴先生から、マインドマップの考え方や特徴、基本的な描き方についてお話しいただきました。その後に実習として、連想したイメージの描写や榊原先生が示されたセントラル・イメージを用いたマインドマップの作成を行い、最後に、自分の一週間のスケジュールをマインドマップで作成しました。

本講習会で用いたテキスト、トニー・ブザン著『マインドマップ超入門』は、男女共同参画推進室で貸し出しています。ご関心のある方は、男女共同参画推進室にて借りることができるほか、学内便での貸出しも行っています。学内便での貸出しについては4ページの「学内便による貸出方法」をご覧ください。

▲講演する榊原千鶴氏

▲実習作業の様子

アンケート結果

講習会への参加により達成された項目（複数回答）



その他：研究に採用できます。マップ作成と論文や研究等の成果が今１つつかめない。

今後のセミナーへの参加希望（Q.今後、このようなセミナーに参加したいと思いますか？）



感想、ご意見等(抜粋)

- 分かりやすかったです。いろいろなところで使えそうな気がします。
- 今日のマインドマップ講習会はとても良かったです。マインドマップということを深く理解してて、今後の生活、また勉強に役に立つと思います。
- とてもおもしろかったです！頭がやわらかくなった気がします。
- 産業革命時代と同じ、白か黒か発想しかしていなかったことに気づきました。自分でよく理解して、ホントは娘と息子に教えてあげたい。
- とても勉強になりました。ありがとうございました。普段エクセルで整理していたので、新たな発見でした。今後、使えそうです。



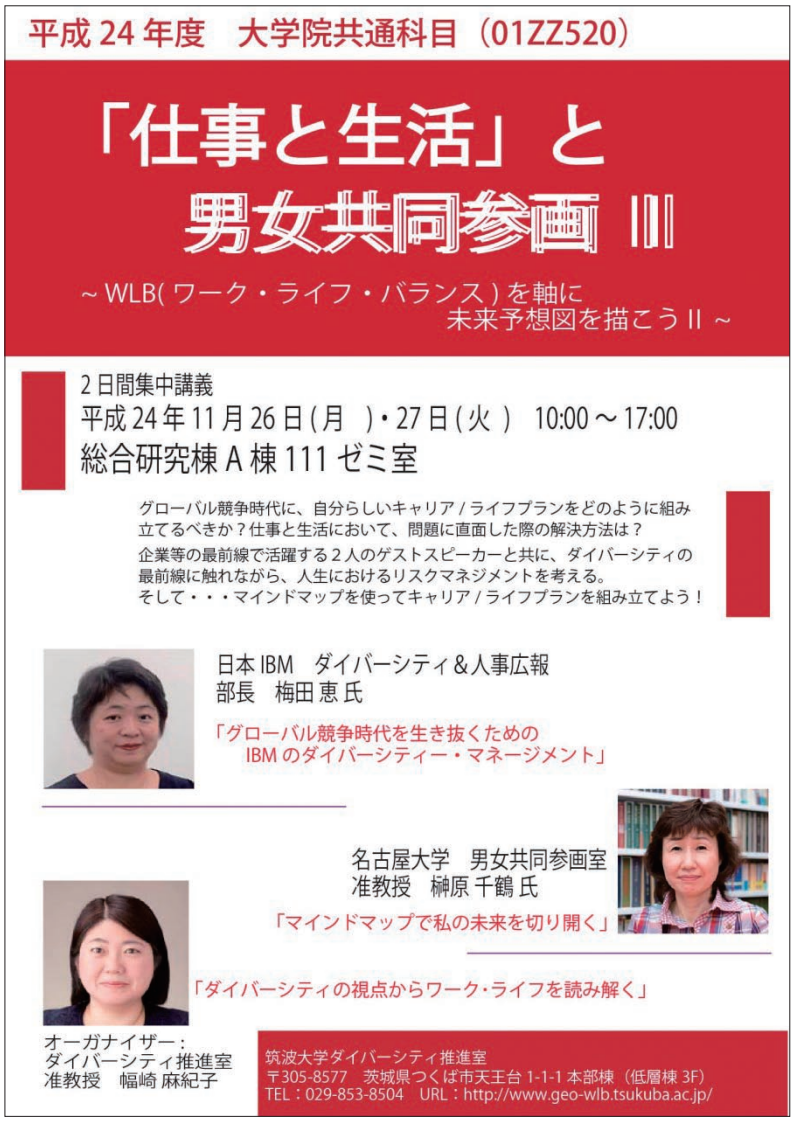
－2－

●2012年11月27日（火）「マインドマップで私の未来を切り開く」@筑波大学

筑波大学ダイバーシティ推進室による大学院共通科目の授業「「仕事と生活」と男女共同参画Ⅱ～WLB（ワーク・ライフ・バランス）を軸に未来予想図を描こうⅡ～」において、「マインドマップで私の未来を切り開く」というタイトルの講習会を行った。

受講者は、理系の学生を中心とする博士前期課程から博士後期課程の大学院生23名、他７名の計30名であった。内容は、前日に行われた日本IBMダイバーシティ＆人事広報部長・梅田恵氏による講義「グローバル競争時代を生き抜くためのIBMのダイバーシティー・マネージメント」を受ける形で、ライフプランニングのひとつのツールとしてマインドマップを紹介するとともに、実践を通じて、具体的なライフプランニングへの活用方法を伝えた。

今回、同室の幅崎麻紀子准教授が、事前に本学でのマインドマップ講習会に参加されたこともあり、授業の企画者でもある幅崎准教授との連携のもと、講習会は、ワーク・ライフ・バランスを軸とした未来予想図の作成をめざす内容とした。



## 第５節　あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム

男女共同参画室　三枝麻由美

あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム（会員：愛知県・名古屋市・愛知県経営者協会・名古屋大学）の活動として９年目にあたる本年度は、これまでの活動を振り返り、同フォーラムとして具体的に何ができるか腰を据えて議論しあい、勉強することを中心に活動を行った。男女共同参画を推進するために様々な問題があるが、今年度はとりわけ名古屋市で深刻化している待機児童の現状に注目し、女性の就業と出産・子育て支援との関係、及びそこに生じる問題を取り上げることとなった。勉強会として、愛知県ならびに名古屋市から保育行政や待機児童対策について下記のようにレクチャーを頂いた。

平成24年６月15日（金）午前10時～12時
「愛知県の保育行政の現状について」（愛知県健康福祉部子育て支援課 主幹　酒井正樹氏）
「名古屋市の待機児童対策の現状」（名古屋市子ども青少年局　保育部主幹　加藤仁氏）

# 第３章
# 科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業

## １．名古屋大学方式　女性研究者採用加速・育成プログラム

実施予定期間：平成22年度～平成26年度
総括責任者：国立大学法人名古屋大学　総長 濵口　道成

### Ｉ．概要

理・工・農学系女性研究者を５年度目までに29名（教授４名、准教授５名、助教20名）安定的な職に採用する。真に優秀な女性研究者獲得のため、教授・准教授（ＰＩ）採用の一部には、総長管理定員による「女性ＰＩ枠」を設け、理・工・農学系部局の合同公募を実施する。また「発展型ポジティブ・アクション」の継続実施により、助教採用を加速する。新規養成女性研究者には①３年間の特別研究費配分②高等教育研究センターと連携したメンタリングシステム導入③育児中の支援員配置など全学的支援体制を整える。既在籍女性研究者のキャリア育成を支援し、積極的に女性ＰＩを増加させることで、女性研究者増加の為のシステム改革を実行する。

### １．機関の現状

本学では、男女共同参画の推進を全学の中期計画・中期目標の年度計画にも掲げ、男女共同参画のための多様な取組と、基盤的環境整備のためのシステム改革を実施することで、女性教員比率の向上に務めてきた。その結果、機関としては以下の現状にある。

**ａ．機関における安定的な職の分野別・職階別女性研究者の人数、及び比率**

平成24年３月31日時点では、当該課題対象の理・工・農学系女性研究者数は51名（5.3%）であり、分野別では理学系17名（5.1%）、工学系18名（3.7%）、農学系16名（11.6%）となっている。職階別では、教授５名（1.3%）、准教授19名（6.4%）、講師２名（5.4%）、助教25名（9.7%）である。

**ｂ．機関における安定的な職の女性研究者の分野別採用者数及び採用割合**

過去５年において理学系10名、工学系12名、農学系９名の女性教員を採用した。採用割合は、理学系8.1％、工学系7.8％、農学系26.5％であった。

**ｃ．女性研究者支援に関する現在の取組状況**

(1) 機関内意識改革：女性教員増加の為の「ポジティブ・アクション表明」、「部局アンケート・部　　局長ヒアリング」、「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」、シンポジウム開催等

(2) 研究環境の改善：両立支援策として、学内保育所・学童保育所設置、ITを利用した在宅勤務支援システム、短時間勤務制度、子育て支援セミナー、ベビーシッター割引券配布等

(3) その他：女性研究交流会の開催、女性研究者ソーシャル・ネットワーク・サービスの運用、スキルアップセミナー開催、理系女子学生エンカレッジセミナー開催、女子中高生理系進学推進セミナーの開催、理系女子学生「あかりんご隊」による出張実験セミナー等

### ２．計画構想の内容

女性研究者養成システム構築に向けての本学のミッションは、以下の計画のもとに、研究リーダーとして独立して研究グループを率いる真に優秀な女性研究者（ＰＩ）を増加させるとともに、若手女性研究者をＰＩへと育てあげる養成システムを構築し、全国の研究機関のモデルとなることである

**ａ．新規養成女性研究者の採用計画**

理・工・農学系女性研究者を３年度目までに15名、５年度目までに29名（教授４名、准教授５名、助教20名）

を新規に採用する。女性教授・准教授（ＰＩ）の積極的増加策として、総長管理定員を利用した「女性ＰＩ枠」設置や理・工・農学系合同公募などを実施する。「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」を継続実施し、助教採用増加を促進する。

**ｂ．女性研究者養成のための取組内容**

（1）特別研究費の配分（2）メンター制度の導入（3）育児中の支援員配置（4）研究の成果発表支援（5）スキルアップセミナーの定期的開催などを全学的体制の下に実施する。

**ｃ．期待される効果**

女性ＰＩの増加により、大学の意思決定に関わる女性比率が上昇し、女性研究者の地位確立、採用比率上昇、研究環境の改善が見込まれる。さらに人事権をもつＰＩ増加により女性研究者比率を飛躍的に加速させるポジティブフィードバック効果が期待される。

## ３．３年目終了時における具体的な目標

**ａ．３年目終了時における機関の安定的な職の分野別女性研究者比率**

| | 実施機関全体 | 当該課題<br>対象分野計 | 理学系 | 工学系 | 農学系 |
|---|---|---|---|---|---|
| 実施機関全体 | 12% | 6.5% | 6.2% | 4.1% | 15.1% |

**ｂ．その他、３年目終了時における目標**

総長管理定員を用いた「女性ＰＩ枠」を設置し、理・工・農学系部局の合同公募により、ＰＩを２名以上採用することにより、本申請プログラム３年目終了時には、理・工・農学系女性研究者の採用数は、教授（理学系１名、農学系１名）、准教授（理学系１名、農学系１名）、助教（理学系３名、工学系４名、農学系４名）となる事を目標としており、その結果、上記の分野別女性研究者比率となることを目指す。また、これとは別に、「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」により、３名の女性特任助教を採用し（３年任期）、任期終了後には正規ポストに移行するように支援する。さらに、本学の高等教育研究センターと連携して女性研究者のライフスタイルも考慮にいれたメンタリングシステムの構築と独自に養成したメンターを登録したメンターバンクの設置により、新規養成女性研究者に２名以上のメンターを配置する。

## ４．実施期間終了時（５年目）における具体的な目標

**ａ．実施期間終了時（５年目）における機関の安定的な職の分野別女性研究者比率**

| | 実施機関全体 | 当該課題<br>対象分野計 | 理学系 | 工学系 | 農学系 |
|---|---|---|---|---|---|
| 実施機関全体 | 12.9% | 8.0% | 7.8% | 5.3% | 17.3% |

**ｂ．その他、実施期間終了時（５年目）における目標**

総長管理定員を用いた「女性ＰＩ枠」を設置し、理・工・農学系部局の合同公募により、ＰＩを４名以上採用することにより、本申請プログラム終了時には、理・工・農学系女性研究者の採用数は、教授（理学系１名、工学系１名、農学系２名）、准教授（理学系３名、工学系１名、農学系１名）、助教（理学系６名、工学系８名、農学系６名）となる事を目標としており、その結果、上記の分野別女性研究者比率となることを目指す。また、これとは別に、「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」により、５名の女性特任助教を採用し（３年任期）、任期終了後には正規ポストに移行するように支援する。さらに、メンターバンクの登録者を増加し、新規養成女性研究者に２名以上、既在籍女性研究者には１名以上のメンターを配置する。

## ５．実施期間終了後の取組

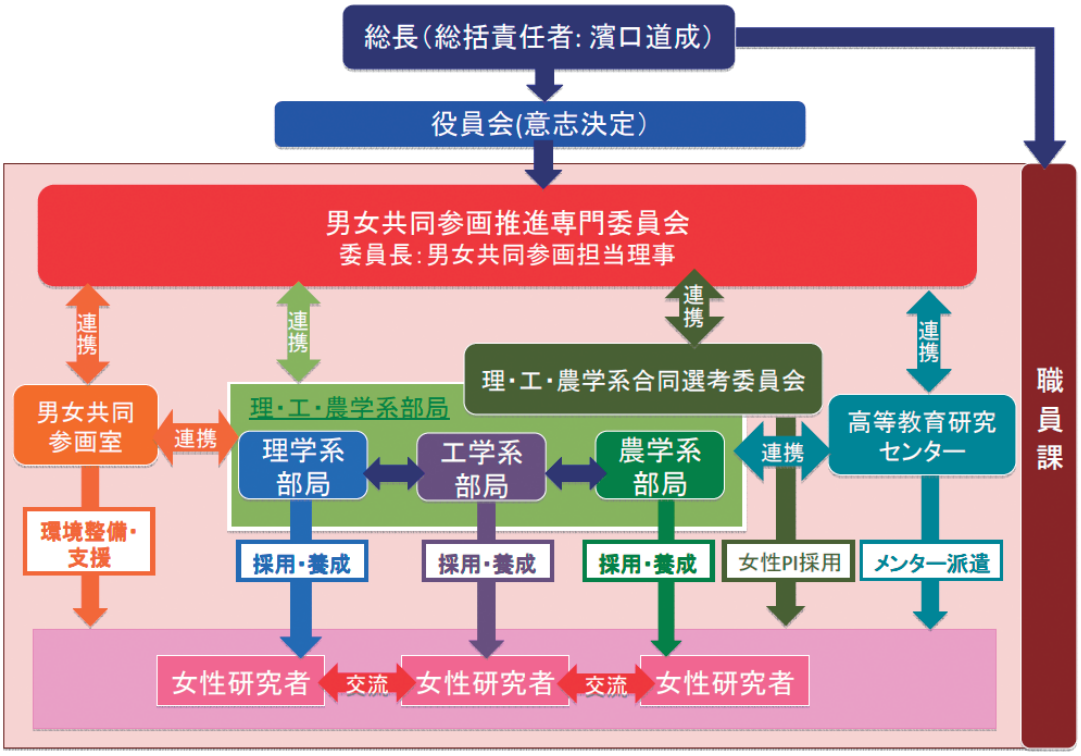
総長管理定員による理・工・農学系部局の合同選考委員会による分野を限定しない公募によって採用された女性ＰＩは、５年を目途に各部局の正規定員への移行を予定しており、空いた総長管理定員を新たな女性ＰＩ採用のために再利用することにより、継続して教授・准教授などのＰＩの採用を行う予定である。この採用システムは、少なくとも本プログラムの終了後５年間（必要があると判断された場合は５年以上）は継続して実施する予定である。
女性教員の採用・昇進にインセンティブを与える施策として実施している「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」を本申請プログラムの終了後も継続して実施することが決定されており、安定的な職につく女性研究者の増加を継続して図る予定である。本プロジェクトは、適正な女性教員比率の達成まで継続して実施する予定である。また、本申請プログラムにより構築する女性研究者支援の為のメンタリングシステムを、高等教員研究センターとの連携により、終了後も継続して実施する。本申請プログラムを実施中に得られたノウハウを活かし、より有効なシステム強化を図る予定である。

## ６．期待される波及効果

本申請プログラムは、女性ＰＩ（教授・准教授）の採用を積極的に推進することを特徴としている。特に、総長管理定員を利用した、理・工・農学系の合同による女性枠として選考により、真に優秀な女性研究者を採用・養成できるシステムの具体例を提示することとなり、他の組織・機関に及ぼす波及効果が期待される。女性ＰＩは、若手女性研究者の具体的なロールモデルとなるだけでなく、人事権のあるＰＩに女性が採用されることにより、若手女性研究者の採用が飛躍的に増加する可能性があり、女性研究者増加へのポジティブ・フィードバック効果が期待される。本女性研究者養成システムが他の組織・機関に波及すれば、全国レベルで女性研究者の上位職階への採用が加速される。ポジティブ・フィードバック効果を引き起こし、安定的な職につく優秀な女性研究者の加速的増加に貢献でき、女性研究者養成システム改革が加速する。

## ７．実施体制

総長の強いコミットメントにより、全学的な実施体制の下、下記の各部局・組織の有機的な連携により、新規女性研究者および既在籍女性研究者の養成を実施する。



実施体制

計画構想に携わる教職員等

| 氏名 | 所属部局（職名） | 当該構想における役割（エフォート※） |
|---|---|---|
| 藤井　良一 | （男女共同参画担当理事・副総長） | 全プロジェクトの総括・実施責任者（10%） |
| 東村　博子 | 生命農学研究科（男女共同参画室長・准教授） | 全プロジェクトの取りまとめ・実施総括（15%） |
| 篠原　久典 | 理学研究科（教授） | 女性研究者採用・養成支援（5%） |
| 鈴置　保雄 | 工学研究科（教授） | 女性研究者採用・養成支援（5%） |
| 前島　正義 | 生命農学研究科（教授） | 女性研究者採用・養成支援（5%） |
| 木村　芳文 | 多元数理科学研究科（教授） | 女性研究者採用・養成支援（5%） |
| 溝口　常俊 | 環境学研究科（教授） | 女性研究者採用・養成支援（5%） |
| 大西　昇 | 情報科学研究科（教授） | 女性研究者採用・養成支援（5%） |
| 松見　豊 | 太陽地球環境研究所（教授） | 女性研究者採用・養成支援（5%） |
| 田中　信夫 | ｴｺﾄﾋﾟｱ科学研究所（教授） | 女性研究者採用・養成支援（5%） |
| 早川　義一 | 工学研究科（高等教育研究センター長・教授） | 女性研究者養成支援（10%） |
| 新宮　陽子 | 総務部職員課（専門職員） | 事務担当（15%） |

## ８．各年度の計画と実績

### ａ．平成22年度計画

（1）計画

（a）新規養成女性研究者の採用計画については、「女性ＰＩ枠」として、バイオサイエンス分野を対象に、理学研究科・工学研究科・生命農学研究科３研究科合同による国際公募を実施予定である。（採用は平成23年４月１日以降できるだけ早い時期）また、各部局による女性研究者採用を積極的に進めることで、新規女性研究者１名の採用を予定している。さらに、これとは別に「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」の継続実施により、自学経費による平成22年度分の助教１名の公募を予定している。

（b）女性研究者養成のための取組については、高等教育研究センターとの連携によるメンタープログラムの構築と資料作成、既在籍理工農女性研究者を対象とした国際学会参加費用助成を実施予定である。また、全学の女性研究者を対象とした学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成を実施するとともに、スキルアップセミナーとして学内研究者を対象としたマインドマップ講習会を本年度中７回実施予定である。また、11月には、若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学推進セミナーを開催し、講演会の実施と、若手女性研究者によるポスター発表会を行う予定である。

（2）実績

（a）バイオサイエンス分野を対象とした理学研究科・工学研究科・生命農学研究科３研究科による「女性ＰＩ」国際公募を実施した結果、国内外から約50名の応募があった。東日本大震災の影響により、面接等が遅れたものの、早期採用に向けて選考中である。各部局による女性教員の採用は、生命農学研究科に助教１名を採用、「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」に関しては、多元数理科学研究科に特任助教１名を採用した。

（b）生命農学研究科の新規採用教員に２名のメンターを配置するとともに、メンターを希望する既在籍女性研究者に各１名のメンターを配置した。理工農学系女性研究者を対象とした国際学会参加費助成12件、全学の女性研究者を対象とした学術論文等英文校閲費助成15件をそれぞれ行った。11月に若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学推進セミナーを開催し、女性研究者３名による講演と31名によるポスターセッションを行い、上位者に総長賞を授与した。学内研究者を対象としたスキルアップセミナーマインドマップ講習会は６回開催した。

b．平成23年度計画

(1) 計画

(a) 新規養成女性研究者の採用計画については、引き続き「女性ＰＩ枠」の公募を実施するとともに、各部局による女性研究者採用を積極的に進めることで、全体として新規女性研究者７名の採用を予定している。また、これとは別に「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」の実施により、自学経費による平成23年度分の助教１名の採用、および平成24年度分の公募手続きを行う予定である。

(b) 女性研究者養成のための取組については、男女共同参画室を拠点とする新規養成女性研究者を対象としたメンター制度を、高等教育研究センターとの連携により実施していくとともに、既在籍理工農女性研究者を対象とした国際学会参加費用助成および学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成を実施する。また、若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女性中高生理系進学推進セミナーの開催、および、スキルアップセミナーとして学内研究者を対象としたマインドマップ講習会の実施（７回）を予定している。

(2) 実績

(a) 数学、数理科学、情報科学分野を対象とした理学研究科・工学研究科・生命農学研究科３研究科による「女性ＰＩ」国際公募を実施した結果、国内外から約20名の応募があり、選考を行った。平成22年度実施のバイオサイエンス分野を対象とした「女性ＰＩ」国際公募については、東日本大震災の影響により面接等が遅れたものの、理学研究科に教授１名を採用した。各部局による女性教員の採用については、理学研究科に特任助教１名、工学研究科に准教授１名、助教１名、環境学研究科に助教１名を採用した。

発展型ポジティブ・アクションプロジェクトを継続実施するとともに、博士課程修了直後の者１名を助教（生命農学研究科）として採用した。

さらに、理・工・農学系分野で女性助教を採用した場合は、プラス１名の特任助教（３年間）ポスト（男女不問）の提供を行うインセンティブ施策を試行し、平成24年度の採用に向け公募を行った。

(b) 理工農系女性研究者を対象とした国際学会への参加費助成９件、全学の女性研究者を対象とした学術論文等英文校閲費助成28件をそれぞれ行った。11月には若手女性研究者サイエンスフォーラム及び女子中高生理系進学推進セミナーを開催し、女性研究者２名による講演と32名によるポスターセッションを行うとともに、上位者に総長賞を授与した。学内研究者を対象としたスキルアップセミナーマインドマップ講習会は７回、諸外国における女性研究者の活動に関する講演等開催した。メンターについては、新規採用教員にそれぞれ２名を配置した。また、育児中の教授１名に研究支援員２名を配置した。

(c) 男女共同参画室と高等教育研究センターとの連携による「女性研究者養成のためのメンター制度」が、ワーキングウーマン・パワーアップ会議・公益財団法人日本生産性本部主催「第４回メンター･アワード2012」を受賞、また、「女性研究者支援モデル育成事業」および「女性研究者養成システム改革加速事業」採択機関による投票の結果、男女共同参画室のホームページが「Webデザイン賞」を受賞した。

c．平成24年度計画

(1) 計画

(a) 新規養成女性研究者の採用計画については、引き続き「女性ＰＩ枠」の公募を実施するとともに、各部局による女性研究者採用を積極的に進めることで、全体として新規女性研究者７名の採用を予定している。また、これとは別に「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」の実施により、自学経費による平成24年度分の助教１名の採用、および平成25年度分の公募手続きを行う予定である。

(b) 女性研究者養成のための取組については、男女共同参画室を拠点とする新規養成女性研究者を対象としたメンター制度を、高等教育研究センターとの連携により実施していくとともに、既在籍理工農女性研究者を対象とした国際学会参加費用助成および学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成を実施する。また、若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女性中高生理系進学推進セミナーの開催、および、スキルアップセミナーとして学内研究者を対象としたマインドマップ講習会の実施（７回）を予定している。

(2) 実績

(a) 生命農学および環境学を対象とした生命農学研究科・環境学研究科の２研究科による「女性ＰＩ」国際公募を実施した結果、国内外から約40名の応募があり、選考を行った。平成23年度実施の数学、数理科学、情

報科学分野を対象とした「女性ＰＩ」国際公募については、多元数理科学研究科に准教授１名を採用した。各部局による女性教員の採用については、１月現在、工学研究科に准教授１名、多元数理科学研究科に助教１名を採用した。

また、平成23年度実施の理・工・農学系分野で女性助教を採用した場合にプラス１名の特任助教（３年間）ポスト（男女不問）の提供を行うインセンティブ施策については、生命農学研究科に女性の特任助教１名を採用した。

(b) 理工農系女性研究者を対象とした国際学会への参加費用助成８件、全学の女性研究者を対象とした学術論文等英文校閲費助成34件をそれぞれ行った（件数は２月現在）。８月の本学オープンキャンパス期間中には若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学推進セミナーを開催し、本学の女性研究者３名による講演と38名によるポスターセッションを行うとともに、上位者３名に総長賞を授与した。学内研究者を対象としたスキルアップセミナーとして、マインドマップ講習会を５回開催（件数は２月現在）したことに加え、英語プレゼンテーションのための集中研修を２回、論文採用率を高める科学英語論文の書き方セミナーを１回開催した。さらに、女性研究者のリーダーシップを高めることを目的に、日本大学総合科学研究所の大坪久子教授を招聘した講演会、パリ東大学マルヌ・ラ・ヴァレ校のGozlan准教授を招聘した講演会を開催した。メンターについては、新規採用教員にそれぞれ２名を配置した。また、育児中の教授１名及び准教授１名に研究支援員を配置した。

(c) 女性がいきいきと活躍できる職場環境の整備を行っているとして、名古屋市より「平成24年度名古屋市女性の活躍推進企業」の認定を受け、また特に優れた活動を行っているとして優秀賞を受賞した。

### d．平成25年度計画

(1) 計画

(a) 新規養成女性研究者の採用計画については、引き続き「女性ＰＩ枠」の公募を実施するとともに、各部局による女性研究者採用を積極的に進めることで、全体として新規女性研究者８名の採用を予定している。また、これとは別に「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」の実施により、自学経費による平成25年度分の助教１名の採用、および平成26年度分の公募手続きを行う予定である。

(b) 女性研究者養成のための取組については、男女共同参画室を拠点とする新規養成女性研究者を対象としたメンター制度を、高等教育研究センターとの連携により実施していくとともに、既在籍理工農女性研究者を対象とした国際学会参加費用助成および学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成を実施する。また、若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女性中高生理系進学推進セミナーの開催、および、スキルアップセミナーとして学内研究者を対象としたマインドマップ講習会の実施（７回）を予定している。

### e．平成26年度計画

(1) 計画

(a) 新規養成女性研究者の採用計画については、引き続き「女性ＰＩ枠」の公募を実施するとともに、各部局による女性研究者採用を積極的に進めることで、全体として新規女性研究者６名の採用を予定している。また、これとは別に「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」の実施により、自学経費による平成26年度分の助教１名の採用、および平成27年度分の公募手続きを行う予定である。

(b) 女性研究者養成のための取組については、男女共同参画室を拠点とする新規養成女性研究者を対象としたメンター制度を、高等教育研究センターとの連携により実施していくとともに、既在籍理工農女性研究者を対象とした国際学会参加費用助成および学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成を実施する。また、若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女性中高生理系進学推進セミナーの開催、および、スキルアップセミナーとして学内研究者を対象としたマインドマップ講習会の実施（７回）を予定している。

## ９．年次計画

| 項　　目 | １年度目 | ２年度目 | ３年度目 | ４年度目 | ５年度目 |
|---|---|---|---|---|---|
| 新規養成女性研究者の採用計画<br>新規養成女性研究者の養成計画 | 採用<br>開始７月<br>終了３月 | 採用<br>開始４月<br>終了３月 | 採用<br>開始４月<br>終了３月 | 採用<br>開始４月<br>終了３月 | 採用<br>開始４月<br>終了３月 |
| | メンター制度、各種研究スキルアップ事業、研究支援員の雇用 | | | | |
| 新規養成女性研究者採用人数 | | | | | |
| 理学系 | ０人 | ３人 | ２人 | ４人 | １人 |
| 工学系 | ０人 | ２人 | ２人 | ３人 | ３人 |
| 農学系 | １人 | ２人 | ３人 | １人 | ２人 |
| 教授 | ０人 | １人 | １人 | １人 | １人 |
| 准教授 | ０人 | １人 | １人 | ２人 | １人 |
| 講師 | ０人 | ０人 | ０人 | ０人 | ０人 |
| 助教 | １人 | ５人 | ５人 | ５人 | ４人 |

## ２．女性研究者養成・支援に関する取組

### メンタープログラムによるキャリア支援

１．2012年度のメンタープログラム

2012年度（2013年1月現在）は、6名の女性教員から教員メンタープログラムへの申し込みがあり、メンターを紹介しました。前年度より継続している女性教員は6名であるため合計で12名です。

「メンター・アワード2012優秀賞」を受賞したことにより、濵口道成総長のコラム「ダイバーシティはユニバーシティの活力」がワーキングウーマン・パワーアップ会議のウェブサイトで掲載されました（http://www.powerup-w.jp/wwp/column/2012_12.php）

平成24年度名古屋市女性の活躍推進認定企業の優秀賞を名古屋大学が受賞した。受賞理由として、「「女性教員のためのメンタープログラム」などを実施した結果、教員に占める女性の割合が増加し、研究分野における女性教員の躍進に繋がっている。」と指摘されました（http://www.city.nagoya.jp/somu/page/0000043525.html）。

２．女性教員のためのメンタープログラムの概要

（１）女性教員のためのメンタープログラムとは

赴任間もない新任教員にとって、大学における活動に不安はつきものです。教員メンタープログラムは、大学において一定の職務経験をもつ教員と交流することで、新任教員が大学教員として成長していくことを支援するプログラムです。このプログラムでは、新任教員をメンティ教員、そのメンティ教員を支援する教員をメンター教員と呼びます。メンタープログラムは大学以外の組織でも広く導入されており、その効果は確認されています。

名古屋大学では、男女共同参画室と高等教育研究センターが協力して、女性教員のための教員メンタープログラムを実施しています。特に名古屋大学方式女性研究者採用加速・育成プログラム事業で採用された教員は、採用当初から2名以上のメンターが配置されます。

（２）メンタープログラムのねらい

教員メンタープログラムは、メンティ教員にとって以下のような効果が期待されます。

・職務や生活に関して気軽に相談できる相手を得る
・大学について理解を深める
・教育研究など職務上必要な知識やスキルを獲得する
・結婚、出産、育児、介護などのライフイベントと仕事の両立を相談できる
・キャリアの展望を考えるきっかけになる
・メンター教員を介してさまざまなネットワークを作る

教員メンタープログラムは、メンター教員にとっても意義があります。新任教員との交流によって新しいアイディアや活力が得られたり、自らの教育研究を振り返り今後のキャリアを考えるきっかけになります。

（３）メンター活動の流れ

１．申し込み

名古屋大学に着任して3年未満の教員であれば、申し込みは随時可能です。申し込みの際に、日程上の都合、メンター活動への期待や希望などを記します。

２．マッチング

メンティ教員の希望やプロフィールをもとにメンターバンクを活用して適切なメンター教員を決定します。メンター教員より初回のミーティングに関する連絡が届きます。

３．初回のミーティング

メンター活動の目的、ミーティングの場所と頻度などの活動の計画を相互で確認します。

４．定期的な活動

ミーティングのみでなく、キャンパスツアー、授業見学などの活動も相互の合意の上で進められます。またプログラム事務局にはいつでも相談することができます。

５．フィードバック

メンター活動の成果をプログラム事務局に報告します。内容はプログラムの改善に利用されます。

（４）申込方法

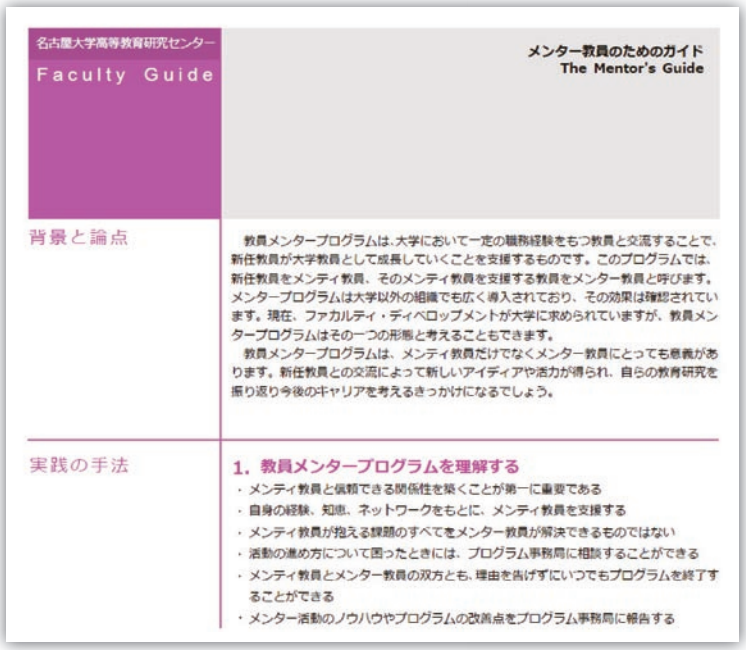
プログラムを活用したいと考えている名古屋大学の女性教員の方は、電子メールの本文に下記の５項目を記して、申込先までお送りください。

１．氏名
２．所属
３．メールアドレス
４．メンター活動への期待や希望
５．時間の取りやすい曜日や時間帯

申込先
女性教員メンタープログラム事務局（男女共同参画室）
kyodo-sankaku@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

（５）メンター教員のためのガイド

メンター教員がメンター活動をどのように進めたらよいのかをまとめたガイドがつくられており、ホームページ上でも公開されています。


名古屋大学高等教育研究センター
Faculty Guide

メンター教員のためのガイド
The Mentor's Guide

背景と論点

教員メンタープログラムは、大学において一定の職務経験をもつ教員と交流することで、新任教員が大学教員として成長していくことを支援するものです。このプログラムでは、新任教員をメンティ教員、そのメンティ教員を支援する教員をメンター教員と呼びます。メンタープログラムは大学以外の組織でも広く導入されており、その効果は確認されています。現在、ファカルティ・ディベロップメントが大学に求められていますが、教員メンタープログラムはその一つの形態と考えることもできます。

教員メンタープログラムは、メンティ教員だけでなくメンター教員にとっても意義があります。新任教員との交流によって新しいアイディアや活力が得られ、自らの教育研究を振り返り今後のキャリアを考えるきっかけになるでしょう。

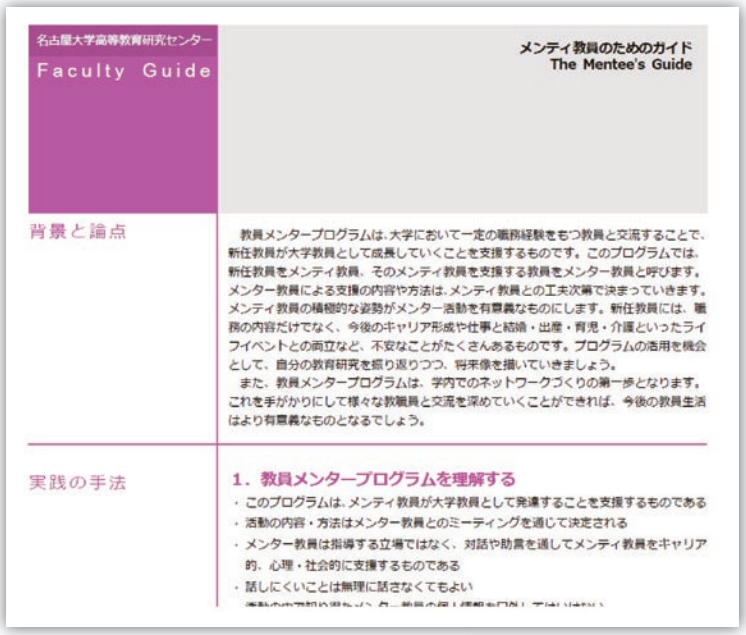
実践の手法

1．教員メンタープログラムを理解する
・メンティ教員と信頼できる関係性を築くことが第一に重要である
・自身の経験、知恵、ネットワークをもとに、メンティ教員を支援する
・メンティ教員が抱える課題のすべてをメンター教員が解決できるものではない
・活動の進め方について困ったときには、プログラム事務局に相談することができる
・メンティ教員とメンター教員の双方とも、理由を告げずにいつでもプログラムを終了することができる
・メンター活動のノウハウやプログラムの改善点をプログラム事務局に報告する

出所：http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/facultyguide/MentorsGuide.pdf

（6）メンティ教員のためのガイド

メンティ教員がメンター活動をどのように活用したらよいのかをまとめたガイドがつくられており、ホームページ上でも公開されています。



名古屋大学高等教育研究センター
Faculty Guide

メンティ教員のためのガイド
The Mentee's Guide

背景と論点

教員メンタープログラムは、大学において一定の職務経験をもつ教員と交流することで、新任教員が大学教員として成長していくことを支援するものです。このプログラムでは、新任教員をメンティ教員、そのメンティ教員を支援する教員をメンター教員と呼びます。メンター教員による支援の内容や方法は、メンティ教員との工夫次第で決まっていきます。メンティ教員の積極的な姿勢がメンター活動を有意義なものにします。新任教員には、職務の内容だけでなく、今後のキャリア形成や仕事と結婚・出産・育児・介護といったライフイベントとの両立など、不安なことがたくさんあるものです。プログラムの活用を機会として、自分の教育研究を振り返りつつ、将来像を描いていきましょう。

また、教員メンタープログラムは、学内でのネットワークづくりの第一歩となります。これを手がかりにして様々な教職員と交流を深めていくことができれば、今後の教員生活はより有意義なものとなるでしょう。

実践の手法

1．教員メンタープログラムを理解する

・このプログラムは、メンティ教員が大学教員として発達することを支援するものである
・活動の内容・方法はメンター教員とのミーティングを通じて決定される
・メンター教員は指導する立場ではなく、対話や助言を通じてメンティ教員をキャリア的、心理・社会的に支援するものである
・話しにくいことは無理に話さなくてもよい

出所：http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/facultyguide/MenteesGuide.pdf

（7）メンター教員やメンティ教員のための研修教材・資料

メンター教員、メンティ教員、メンタープログラム事務局関係者のための研修教材・資料として以下のような教材・資料が男女共同参画室にあります。

・名古屋大学の理系女性研究者のライフスタイルが紹介された冊子
『理系に生きる女性たち！ROLE MODEL BOOK』
・その他各種研修教材
『理系の女の生き方ガイド』、『猿橋勝子という生き方』、『マリー・キュリーの挑戦』、『女性科学者に一条の光を』、『科学者という仕事』、『研究者人生双六講義』、『大学教授という仕事』、『大学教員準備講座』、『成長するティップス先生』、『授業の道具箱』、『大学教員のための教室英語表現』、『アット・ザ・ヘルム』、『メンタリング・プログラム』、『メンタリング入門』、『ラボ・ダイナミクス』、『アット・ザ・ベンチ』、『コーチング・マネジメント』、『コーチングの教科書』、『メンタリング・マネジメント』、『実践ダイバーシティマネジメント』、『個を活かすダイバーシティ戦略』、『ダイバーシティ・マネジメントと異文化経営』、『ダイバーシティ・トレーニング・ブック』、『女性社員活躍支援事例集』、『ダイバシティ・マネジメント』、『ダイバーシティ・マネジメントの観点からみた企業におけるジェンダー』、『女性コア人材育成の現状と課題2010』、『女性人材の活躍2011』

（8）パンフレット

教員メンタープログラムの内容を紹介したパンフレットが作成されています。ホームページ上でも公開されています。

出所：http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/files/femalementor.pdf

（9）ホームページ

女性教員のためのメンタープログラムの内容が、男女共同参画室のホームページ上で紹介されています。

出所：http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/mentoring/

キャリアアップ・スキルアップ支援

●男女共同参画室主催マインドマップⓇ講習会「マインドマップを仕事にいかす！」

本講習会は、2009年より参画室事業として、学内研究者（学内教員・研究員・院生、男女不問）を対象に継続実施している。

定員は上限16名、内容は、一般向け基礎講座バージョン（６時間）を基に、研究・教育に活かせる研究者向けバージョン（３時間30分程度）としている。開催の案内は、参画室ホームページでの告知と、事務経由による学内全教員向けメールとで行っている。

2012年度は、５月、７月、９月、11月、12月の計５回（通算第26回～第30回）開催し、受講者総数は32名、男女比は、男性：女性＝３：５、文系理系の比は、文系：理系＝３：５であった。2009年の開始当初に比べれば、受講者は減少しているが、受講の動機には、過去の受講者から勧められて、漸く日程調整が付いたから、等が挙げられる場合が多い。また、事前申込み者のうち、毎回１～２名は急な打合せや会議によりキャンセルが生じることから、講習会としては全学的に認知され、一定の評価を得られているものの、受講時間確保の難しさが推測できる。

■アンケート結果■

講習会全体への評価（とても良い･良い･普通･良くない･悪い、の５段階）は以下の通りである。（回答数：29）

| 評価 | 人数 |
|---|---|
| とても良い | 20 |
| 良い | 9 |
| 普通 | 0 |
| 良くない | 0 |
| 悪い | 0 |

講習会で得た知識やスキルの具体的活用法としては、研究テーマの選定、To Doリスト整理、スケジュール管理、論文作成、プレゼン、学生指導、教育プランニング、発想などが挙げられている。

講習会全体について寄せられた感想や意見は、以下の通りである。

・マインドマップについては、以前、聞いたことがあったので、本を買って読んでみましたが、描き方や効果がよくわかりませんでした。今日の講習会で、マインドマップの使い方、描き方、効果について、とても良くわかりました。講演の流れも、情報も、理解しやすく、楽しかったです。自分の仕事に応用してみようと思います。（A･M）
・受講前になんとなく想像していたものよりかなりフリーダムというか、何にでも応用が効きそうだと思いました。（F･F）
・スライドを配るかWeb 上でcheckできればuseful だと思う。（K･K）
・やってみて、身につけていくものだということが分かりました。教えられてすぐできるものではない。（S･K）
・とても良かったです。頭が整理されて、やりたいことも発見できそうです。（B･E）
・１時間くらいで、回数を分けた方が、参加者が増えると思います。（S･K）
・メモをとる習慣はある方なので、マップにして記憶力の向上につなげたい。（T･M）
・とても有用な講座なので、可能ならもっと大規模に開催すると良いと思う。（O･H）

本年度は、さらに以下のスキルアップセミナー事業を計画し、行う予定である（１月現在）。

講演「空気をかえる・空気はかわる～新しい風をおこすのはあなたです～」
元日本大学総合科学研究所教授　日本大学薬学部薬学研究所上席研究員
大坪　久子氏
日時：2013年２月22日（金）13:30～14:30
場所：名古屋大学理学南館１階セミナールーム

英語プレゼンテーションセミナー
サイマル・アカデミー株式会社
クラス１：2013年２月25日（月）10:00～18:00　および26日（火）9:30～17:30
クラス２：2013年３月13日（水）10:00～18:00　および14日（木）9:30～17:30
場所：名古屋大学農学部B312号室

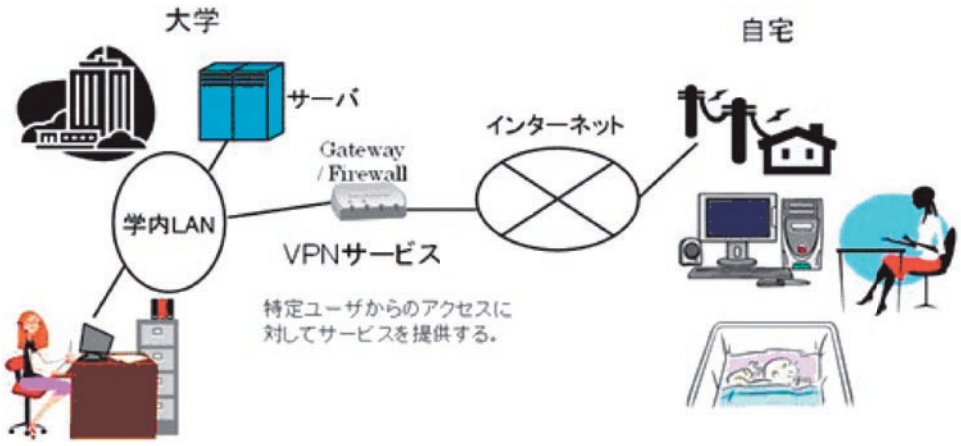
論文採用率を高める科学英語論文の書き方セミナー
エダンズグループジャパン株式会社
日時：2013年３月22日（金）13:30～16:50（途中10分間の休憩２回を含む）
場所：名古屋大学理学南館１階セミナールーム

## ＩＴ技術を用いた両立支援

在宅勤務支援システム

●導入目的

インターネットを利用して、職場のネットワーク環境をそのまま自宅まで拡張し、通常職場においてしか利用できないネットワーク・サービス（ファイル共有、職場で契約しているデータベースや実験用ソフトウェア、セキュリティが確保された電子メールなど）をそのまま自宅でも利用できるようにする。これにより、妊娠中、育児期間中、介護中の女性研究者を支援する。




在宅勤務支援システムのイメージ

●2012 年度活動報告

◇利用状況

2007年度導入した在宅勤務支援システムを継続的に運用している。利用者は子育て中の研究者・大学院生などで、2012年度に新たに３名を追加。現在では、10名ほどが利用している。

◇在宅勤務支援システムのサイトで利用マニュアルを公開している。

http://www.nuws.provost.nagoya-u.ac.jp/jst/zaitaku/

ダウンロード可能な資料：

- 利用申請手続き、申請書
- WindowsXP ユーザの利用説明書
- Windows Vista ユーザの利用説明書
- Windows 7 ユーザの利用説明書
- Cisco AnyConnect VPN Client の利用説明書

# 第４章
# 2012年度「女性教員増員のための部局アンケート」結果

男女共同参画室　榊原千鶴

本学では、2001（平成13）年度より、男女共同参画に関する部局アンケートを行っている。本年度も12月～１月にかけて、38部局を対象に実施した。本章では、その結果を報告する。なお、アンケート用紙は本章末尾に掲載する。

### （１）女性教員の採用状況について

2012年度に新規教員採用を行った部局は21部局、そのうち女性教員を採用したのは12部局、採用された女性教員は21名であった。全体の総採用数は140名であることから、新規女性教員の採用比率は15％となる。公募・非公募から見た女性教員の採用比率は、公募人事18.7％、非公募人事9.8％と、非公募より公募人事での採用が上回っていることがわかる。

■2012年度 女性教員の採用状況（公募）

| | 採用部局数 | 採用者総数 | 女性採用部局数 | 女性採用者数 |
|---|---|---|---|---|
| 教授 | 13 | 32 | 1 | 1 |
| 准教授 | 13 | 24 | 7 | 8 |
| 講師 | 3 | 6 | 1 | 1 |
| 助教 | 11 | 18 | 3 | 5 |
| 助手 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | | 80 | | 15 |

■2012年度 女性教員の採用状況（非公募）

| | 採用部局数 | 採用者総数 | 女性採用部局数 | 女性採用者数 |
|---|---|---|---|---|
| 教授 | 6 | 7 | 0 | 0 |
| 准教授 | 6 | 12 | 1 | 2 |
| 講師 | 4 | 3 | 0 | 0 |
| 助教 | 5 | 38 | 3 | 4 |
| 助手 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | | 60 | | 6 |

### （２）女性教員目標

2010年までの目標とした女性教員比率20％を10年延長し、現在は、2020年までに20％を超えることを本学の目標としている。毎年、男女共同参画推進専門委員会では部局ごとに数値目標を設定し、各部局に数値達成に努めていただくよう働きかけている。数値目標は、前年度の数値、部局規模（教員数）、流動率（定年数および転出数）、博士後期課程の女子学生比率等をもとに設定している。アンケート結果は以下の通りである。

■2012年度 部局の女性教員目標数値（努力目標）（N=38）

| | |
|---|---|
| 妥当である | 28 |
| 妥当でない | 8 |
| どちらとも言えない | 1 |
| 無回答 | 1 |

「妥当でない」の理由としては、「博士課程の女子学生比率が女性教員等研究者にただちに結びつくわけではない」、「現在すでに高い女性教員比率であり、努力目標としても、設定数値が高すぎる」、「より現状に即した数値をまずは目標数とした方が良い」、「応募者中の女性割合が低い。部局としては、応募を増加させるとともに採用数を増やしていく方針のため、採用までには時間がかかる」、「小規模部局のため、人事そのものがほとんど行われない」、などが挙げられている。

### （3）2012年度 ポジティブ・アクション文言

公募要項にポジディブ・アクション文言（「業績（研究業績、教育業績、社会的貢献、人物を含む）の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します」）と同趣旨の文言の記載の有無について尋ねた。無回答の多くは、2012年度に人事を行わなかった部局と考えられる。

**■公募要項にポジティブ・アクション文言を記載しているか（N=38）**

| | |
|---|---|
| 記載している | 27 |
| 記載していない | 8 |
| 無回答 | 3 |

記載しない理由には、以下が挙げられている。

**（記載していない理由）**

・文言の趣旨・目的は、公募人事ホームページに掲載されている「背景」「例外的な事例についての裁量の余地」等の全てを読んで、初めて理解されるものとなり、これらを網羅して公募要項に記載することは困難であるため、誤解を招くことなく、正確な情報伝達を図った結果。
・文言の記載に関して、部局内できちんと検討したことがないため。
・文言の内容は現実にはあり得ず、かつ、現行の選考方法にも問題がないと考えるため。
・文言決定以降、人事を行っていない。

次に、ポジティブ・アクション文言の記載により、公募時に女性研究者の応募に変化が見られたか、またその理由には何が考えられるかを尋ねた。文言の記載により、女性研究者の応募が増えたと回答したのは１部局、大半は、変化なしとの回答であった。変化なしのなかには、比較する過去のデータがない、人事件数が少なく、傾向を読み取れない、などの理由も見られた。また、文言だけでなく、女性教員の受入にあたって、どのようなインフラ整備がなされているかがわかるリンクを公募要項に記載するといった具体的な提案もあった。これに関しては、男女共同参画室ホームページとの連携による効果的な公募要項の作成など、提案の余地があると考える。

**■ポジティブ・アクション文言記載後、女性の応募は変化したか（N=27）**

| | |
|---|---|
| 増えた | 1 |
| 変わりない | 25 |
| 減った | 0 |
| 判断できない | 1 |

**（増えた理由）**

・名古屋大学および本部局が、男女共同参画を進めていることが明確に伝わるようになったこと、採用実績として女性教員が増えていること、さらに修了生の女性比率が高いことも上げられる。

**（変わりない理由）**

・もともと女性研究者の比率が高い。かつ、採用に関しては、数多くの条件を考慮するため、「評価において同等」な候補者が並ぶことは皆無。性別を問わず、最も条件を満たした人物を採用する方針が周知徹底されているため。
・文言記載前のデータがないので正確な比較はできない。文言だけでなく、女性教員受入にあたり、どのようなインフラ整備（ハード・ソフト）がなされているのかがわかるようなリンクを公募要項に記載するなど、応募

者増加の具体的な努力を積み重ねていく必要がある。
・以前から、女性の応募が少ないという問題はない。
・もともと部局内に、女性教員の採用にためらいがないという雰囲気があるため。
・女性研究者の比率が低い分野であるため。
・人事件数が少なく、傾向を読み取れない。

（判断できない）
・記載前の十分な数値データがない。女性応募者の比率が、分野により大きく異なるため同一分野での公募を数回実施しないと、傾向を判断できない。

### （4）男女共同参画に関する委員会（あるいはワーキング・グループ）について

本年度、とくに学生・院生を擁する部局には、男女共同参画推進のための活動母体となる委員会、あるいはワーキングの設置をお願いした。すでに設置済みの部局も含め、2012年12月現在、19部局に委員会等が設置されている。2012年度の委員会開催回数、おもな活動内容および具体的な活動内容については、以下の回答を得た。

■各部局での男女共同参画に関する委員会（ワーキング・グループ）の開催回数（N=36）

| | |
|---|---|
| 0回 | 21 |
| 1回 | 6 |
| 2回 | 3 |
| 無回答 | 6 |

学生・院生を擁しない部局においても、男女共同参画に関する委員会等が開催されていることがわかる。一方、設置はしても、本格的な活動には至っていない部局もあり、今後、男女共同参画推進専門委員会、男女共同参画室からの働きかけ、および連携により、具体的な活動に結びつけていく必要がある。

なお、選択式の活動内容、および、その他の活動については、以下の回答を得た。

■委員会の活動内容
・人事選考の際、選考委員会への「ポジティブ・アクション文言」の周知：５部局
・新規採用者への保育所・学童保育所の周知：４部局
・新規採用者へのメンター制度の周知：３部局
・教員への「子育て中の教職員を応援するアクションプラン」の周知：２部局
・その他の男女共同参画を推進するための活動：６部局

（その他）
・育児休暇取得の現状調査に向けて、復職教員を含め、構成員を対象とした聞き取り調査の実施を検討中。
・委員長の決定と本アンケートの回答案作成。
・男女共同参画ワーキング・グループを部局委員会に昇格させ、内規等の整備を実施。
・毎週１回、昼休みに女性教員を中心とした女子学生向け合同オフィスアワー（昼食会）を開催。
・８大学の関連研究科のデータ（女性教員比率、女性後期課程学生比率、新規女性教員採用数、公募での女性応募者割合）を入手し、比較するとともに、他大学の実情と先進的取り組みを紹介し、意見交換を行った。

回答をふまえ、各部局がすでに主体的に実施している取り組みについては、男女共同参画室が、プラットホームの役割を担い、広く学内に伝え、情報の共有を図っていく必要があると考える。

### （5）「子育て中の教職員を応援するアクションプラン」の実施

「子育て中の教職員を応援するためのアクションプラン」を実施している部局は22部局で、昨年の20部局より２部局増え、全体の57.8％となっている。ただし、第１項「午後５時以降及び休日の会議開催の原則禁止」は、子育て中の教職員にとどまらず、全教職員のワークライフバランス促進に有効な内容であるにもかかわらず、本年度実施した部局は15部局に止まっている。そこで本アクションプランの名称を、「教職員のワークライフバランスを応援するアクションプラン」に変更し、全教職員を対象とする内容であることを周知し、全学的な実施に結びつけていく必要がある。

■「子育て中の教職員を応援するアクションプラン」の実施（N=38）

| | |
|---|---|
| 実施している | 22 |
| 実施していない | 15 |
| 無回答 | 1 |

■アクションプランを実施している部局の具体的な実施内容

・午後５時以降及び休日の会議開催の原則禁止：15部局
・部局長は育児休業を取得しやすい環境を整備し、その制度及び支援体制について周知徹底する：11部局
・部局長は２歳に達するまでの子どもを養育する教員については、各部局の事情に応じ適宜判断し、授業担当、委員会業務等を軽減又は免除する：６部局

### （6）教員の育児休業取得の状況

育児休業の取得状況に加えて、今年度は、育児休業・産後休暇等取得時の代替者の採用についても調査した。育児休業を取得した教員のいる部局は10部局、昨年度の７部局より３部局増え、取得者も昨年度の８名に対して13名と増加している。男性教員については、過去、2011年度までに本学で育児休業を取得した総数が２名であるのに対して、本年度は単年で２名取得となっている。女性教員も、昨年度の８名から11名と３名増加し、全体として、育児休業取得者は増加傾向にあると言えよう。

■育児休業の取得状況（N=38）

| | |
|---|---|
| 育児休業を取得した教員がいる部局数 | 10 |
| 育児休業を取得した教員数 | 13 |
| 女性教員数 | 11 |
| 男性教員数 | 2 |

### （7）育児休業・産後休暇等取得時の代替者の採用状況

育児休業・産後休暇等取得時における代替者の採用については、10部局中４部局で５名の採用が行われた。性別はすべて女性で、うち２名は常勤職であった。

■育児休業・産後休暇等取得時の代替者の採用状況

| | |
|---|---|
| 代替者を採用した部局数 | 5 |
| 代替者の採用数 | 5 |
| 性別・職位・常勤非常勤の別 | 1（女性・准教授・常勤） |
| | 1（女性・助手・常勤） |
| | 1（女性・講師・非常勤） |
| | 1（女性、他の記載はなし） |
| | 1（女性・特任准教授・常勤） |

なお、代替者の採用に関しては、次の意見を付記した部局があった。

・博士研究員などを代替者として正式に採用するなど、本制度を積極的に活用していく必要がある。本年度は該当者はいなかったが、この制度についての周知を図るなど、準備を進めておく必要があると考えている。

育児休業・産後休暇等の取得および取得時における代替者の採用について、制度の周知とともに、取得しやすい環境整備に向けて、働きかけを行っていく必要がある。

### （9）女性専用スペースの設置

2012年度、部局内に休養や授乳（搾乳）等で女性研究者が利用できる専用スペースを新たに設置した部局は、38部局中２部局であった。

### (10) 多目的トイレ内の子どものおむつ替え、安全シートの設置

■多目的トイレ内に子どものおむつ替え・安全シートは足りているか。(N=38)

| | |
|---|---|
| 足りている | 10 |
| 足りていない | 20 |
| 無回答 | 8 |

無回答のなかには、部局建物内に多目的トイレが設定されていない等の場合もあった。部局構成員のなかに、子育て中の利用対象者がいるかいないかに関わらず、新規に増改築が行われる場合には、多目的トイレおよび子どものおむつ替え・安全シートの設置を、全学的な共通認識にする必要がある。なお、設置場所については、本学を訪れる学外者にも確認可能なように、男女共同参画室のホームページ上に配置地図を掲載している。

### (11) 介護支援について

本年度より、ワークライフバランス促進支援の観点から、これまでの子育て支援に加えて、介護支援に関する質問項目（介護特別休暇の取得状況、介護休業制度の利用状況）を新たに設けた。回答は以下の通りである。

■2012年度の介護特別休暇取得状況（N=38）

| | |
|---|---|
| 介護特別休暇の利用者がいる部局数 | 1 |
| 介護特別休暇の利用者がいない部局数 | 35 |
| 無回答 | 2 |

■2012年度の介護休業制度取得状況（N=38）

| | |
|---|---|
| 介護休業制度の利用者がいる | 0 |
| 介護休業制度の利用者がいない | 36 |
| 無回答 | 2 |

出産・育児に関する休暇、休業制度に較べて、介護に関する休暇、休業制度の利用者はまだまだ少ないことが分かる。介護情報については、男女共同参画室ホームページにて、随時提供していくが、今後加速する高齢者の増加をふまえ、制度の周知とともに、取得しやすい環境作りが必要と考える。

### (12) 女性教員増員のための施策に対する要望

女性教員の増員を図る施策として、様々な意見、要望が挙げられた。以下にそれらを列記する。

・「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」では積算ポイントにより女性研究員雇用の予算を配分しているが、そのうちの一部を前倒しにして、各部局に、例えば雇用期間を短縮したポスト（１年もしくは２年）を配分したほうが、女性教員・研究員比率向上へはずみをつける上では、現実的な効果があるのではないか。

・育児中の教員の職務を軽減するために、プロジェクトもしくは全学の経費により、非常勤等の雇用が可能かどうか明示していただきたい。「アクションプラン」が存在しても、運営費交付金の削減が続く現状では、申請しようにも躊躇せざるをえない。

・女性研究者育成プログラムの実施、女性優先ポストの設置、女性研究者採用のための相談窓口の開設、育児・介護期間中の臨時的な措置としての非常勤雇用のバックアップなどを検討していただきたい。
・男女共同参画は女性だけでなく男性にとっても有意義なものであるはず。時間外の会議開催の原則禁止の徹底、育児・介護期間中の負担軽減などを進めていきたいが、人的資源と時間的余裕の乏しさにより困難な状況である。他大学や企業等の取り組みなど情報提供をお願いしたい。
・女性教員にとって働きやすい環境を整備するとともに、整備された環境等を求職者に確実に伝わるようにする。
・各部局が女性教員増員のインセンティブをもつような制度を導入する。
・理事・副総長クラスに女性を登用する。
・育休だけでなく産休においても、代替教員確保について、予算を含めて十分なサポートをお願いしたい。現状では各部局で人件費を捻出しなければならないが、負担が大きい。間接的に若手の女性教員獲得をしぶることにつながりかねない。
・女性を軽んじる発言をする教員も散見される。職場の文化・風土を創り上げるために、総長からの提言等を期待する。
・こすもす保育園の受入児童数の拡充および育児休業復帰者に対する学内保育園の優先枠の設置。
・子育て中の教職員を応援するアクションプランや介護のための特別休暇・介護休業制度を教員（特に教授層）に周知するための研修会の開催。
・代替者制度の全学的整備や年俸制教員制度導入（職務の多様化・再定義)、特別研究期間制度の実質化など、ソフト面での具体的な施策が必要。
・現在の男女共同参画の制度のなかには、既在籍の女性教員が活用できないものが多くあり、かつ、新規女性教員が子育て等により休みを取る場合、こうした既在籍の女性教員に負担が降りかかることから、既在籍の女性教員の処遇について検討する必要がある。
・女性教員のみを対象にした公募（女性枠選考）の実施。
・教員採用時ばかりに着目するのではなく、学部や大学院就学中における女子学生へのアピール（キャリアパス教育における女性アカデミシャンの講義や体験談を聞く機会を設けるとかその他にも）や処遇改善などにも注力して、女子学生が教員として残っていける体制も整備する。
・女性教員の目標比率が全部局一律というのはいかがなものか、再考の余地がある。
・若手研究者の雇用機会を増やすことが、女性研究者の雇用促進にも繋がってくると考えられるため、「名古屋大学方式　女性研究者採用加速・育成プログラム」をさらに拡充し、運営費交付金の枠内で若手女性研究者雇用資金を確保し、その経費により、女性研究者を特任教員として雇用できる制度を創設するようにしてはどうか。
・女性教員比率に特任教員を加える方向で検討しほしい。
・学童保育所の充実。
・一極集中的な支援ではなく、普通の研究者がそれなりに尊敬され、経済的にもそれなりに報われるような社会にすることが、遠回りでも一番確実な支援策だと思う。
・産休、育児休暇明けの研究員、教員に対して、研究の再開を資金的にサポートする制度を検討してほしい。
・保育園等への入園について、ポスドク等若手研究員のサポートという観点から、優先順位を検討してほしい。

その他
・研究科の取り組みとして、女性教員の活動紹介Webページを作成した部局があった。

なお、「子育て支援のための環境整備の取り組み」を一覧できるWebページは、一部学内専用箇所もあるが、英語版・中国版とあわせ、新年度より男女共同参画室ホームページでの閲覧が可能である。

# 平成24年度「女性教員増員のための部局アンケート」

部局名（　　）

## Ⅰ　女性教員・院生・学生の現況について

別紙「女性教員比率に関する中期目標（全学及び部局）平成24年度調査シート」の「平成23（2011）年度現況（除助教･助手)」「平成23（2011）年度現況（含助教・助手)」「平成23（2011）年度女子学生現況」「平成23（2011）年度女子修士現況」「平成23（2011）年度女子博士現況」は、いずれも昨年度の部局アンケート時の数字です。
貴部局の本年度（平成24年度）の数字を、平成23年度の数字の横に赤字でご記入ください。

## Ⅱ　平成32（2020）年度までの新規採用予測及び目標数値について

1）貴部局における平成32（2020）年度までの助教を含む定年退職教員数（予定）は何名ですか。
（　　）名

2）貴部局における平成32（2020）年度までの助教を含む転出教員数（予定）は何名ですか。（過去およそ10年間の年間平均転出数を算出し、参考にしてください。ただし、各部局の事情に合わせていただいて結構です）
（　　）名

3）上記1）と2）で算出された合計は何名ですか。　（　　）名

4）3）の退職・転職の合計数のうち、女性は何名ですか。（　　）名

5）平成24年度（本年度中の採用予定も含む）の貴部局教員人事の応募者数・採用者数についてお尋ねします。
①【公募人事】における女性の応募者数及び採用者数は何名ですか。
・教授　応募者数（総数　　うち女性　　）名　採用者数（総数　　うち女性　　）名
・准教授　応募者数（総数　　うち女性　　）名　採用者数（総数　　うち女性　　）名
・講師　応募者数（総数　　うち女性　　）名　採用者数（総数　　うち女性　　）名
・助教　応募者数（総数　　うち女性　　）名　採用者数（総数　　うち女性　　）名
・助手　応募者数（総数　　うち女性　　）名　採用者数（総数　　うち女性　　）名
②【非公募人事】（昇任人事を除く）における採用者数及び女性採用者数は何名ですか。
・教授　採用者数（総数　　うち女性　　名）
・准教授　採用者数（総数　　うち女性　　名）
・講師　採用者数（総数　　うち女性　　名）
・助教　採用者数（総数　　うち女性　　名）
・助手　採用者数（総数　　うち女性　　名）

6）毎年、部局の女性教員目標比率を前年度の数値、規模（全教員数)、流動率（定年数及び転出数)、博士課程における女子院生比率等の数値をもとに算出しています。貴部局の数値目標を妥当とお考えですか。
妥当である　・　妥当ではない

7）【設問6】で「妥当ではない」とお答えの部局のみ】その理由をご説明ください。

| |
|---|
| |

## Ⅲ　女性教員比率向上のための施策について

1）女性教員の積極的採用（ポジティブ・アクション）について

本学は、公募人事ホームページに、「業績（研究業績、教育業績、社会的貢献、人物を含む）の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。」との文言（以下「ＰＡ文言」と表記）を記載し、全学的に女性の積極的採用を進める方針を打ち出しています。このポジティブ・アクションについて、お尋ねいたします。

①貴部局では、公募要領に、ＰＡ文言と同趣旨の文言を記載していますか。

はい　・　いいえ

②　①で「はい」とお答えいただいた部局にお尋ねします。

PA文言を記載以降、公募時に女性研究者の応募は増えましたか。

増えた（　　％）　・　変わりない　・　減った（　　％）

その理由と考えられることをお答えください。

③　【①で「いいえ」とお答えいただいた部局のみ】ＰＡ文言を記載しない理由をご説明ください。

## Ⅳ　男女共同参画推進のための環境整備について

1）男女共同参画推進のための活動母体について

①貴部局の男女共同参画に関する委員会（あるいはワーキング・グループ）について

平成24年度の委員会の開催回数：＿＿＿＿＿＿＿回

下記のなかで、平成24年度に貴部局の男女共同参画委員会が行った活動内容すべてに○をつけてください。

（ア）人事選考の際、選考委員会への「ポジティブ・アクション文言」の周知

（イ）新規採用者への保育所・学童保育所の周知

（ウ）新規採用者へのメンター制度の周知

（エ）教員への「子育て中の教職員を応援するアクションプラン」（下記参照）の周知

（オ）その他の男女共同参画を推進するための活動

（オ）に○をつけた場合は、具体的な活動内容を教えてください。

2）「子育て中の教職員を応援するアクションプラン」について

平成21年度に名古屋大学男女共同参画推進専門委員会から「子育て中の教職員を応援するアクションプラン」を提言いたしました。これについて以下にご回答ください。

子育て中の教職員を応援するアクションプラン

1, 午後5時以後及び休日の会議開催の原則禁止。

2, 部局長は育児休業を取得しやすい環境を整備し、その制度及び支援体制について周知徹底する。

3, 部局長は2歳に達するまでの子どもを養育する教員については、各部局の事情に応じ適宜判断し、授業担当、委員会業務等を軽減又は免除する。

※3. の対象となる教員は、男女を問わず、単身（配偶者なし・単身赴任等）または、配偶者が就労中（長期療養中等も含む）の者とする。

※ここでいう単身赴任とは、単身赴任手当の受給の有無に関わらず、家族と別に暮らしている者とする。

①上記のアクションプラン貴部局で実施していますか。

はい・いいえ

「はい」の場合は、１－３の事項のなかで実施している事項に○をつけてください。

１　２　３

3）子育て中の教職員をサポートする環境整備について

①平成24年度に育児休業を取得した教員はいますか。

はい・いいえ

「はい」の場合は、性別、人数、取得期間をお書きください。例：男性１名、４月１日～６月30日

②育児休業・産後休暇等取得時には、代替者の採用が可能です。

平成24年度に代替者制度を利用した教員はいますか。（参考：別紙「育児休業等について（教員編）」）

はい・いいえ

「はい」の場合は、代替者の人数、性別、雇用期間、職名及び勤務形態をお書きください。

例：２名：女性１名、４月１日～６月30日、助教、常勤、男性１名、５月１日～12月31日、非常勤講師、非常勤

③貴部局に休養や授乳（搾乳）等で女性研究者が利用できる専用スペースを平成24年度に設置しましたか。

はい・いいえ

「はい」の場合は、設置場所をお書きください。例：○学部○号館○号室

④貴部局の障害者用などのトイレ内に、子供のおむつ替え・安全シートなどは足りていますか。
足りている・足りていない

「足りていない」場合は、どこに設置を希望しますか。設置希望場所をお書きください。
例：〇学部〇号館〇階トイレ

4）介護支援について

平成22年（2010）４月より、要介護状態の家族が１人いる場合、５日の範囲内で特別休暇を時間単位で取得することができるようになりました。（参考：別紙「特別休暇を活用して、仕事と家庭生活を両立しよう！」）

①平成24年度、介護の為に特別休暇を取得した教員はいますか。
はい・いいえ
「はい」の場合は、性別、人数をお書きください。例：男性１名

②平成24年度、介護休業制度を利用した教員はいますか。
はい・いいえ
「はい」の場合は、性別、人数、期間をお書きください。例：男性１名、10月１日～10月20日

5）女性教員増員のための施策に対するご要望

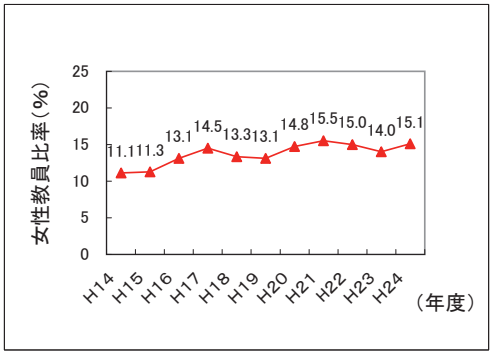
①女性教員を増員するために、全学として実施してほしい具体的な施策の提案がありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。　以上

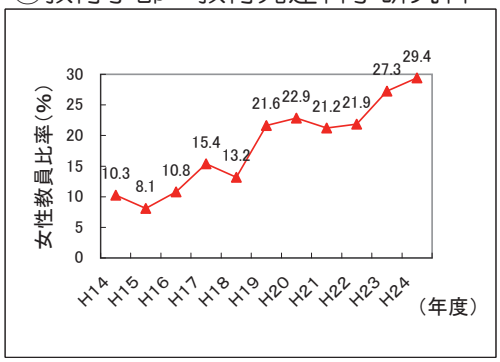
部局別女性教員比率の変遷（部局別）

※女性教員比率：各年５月１日現在の学部教員数における女性教員数の比率（助教、助手を含む）

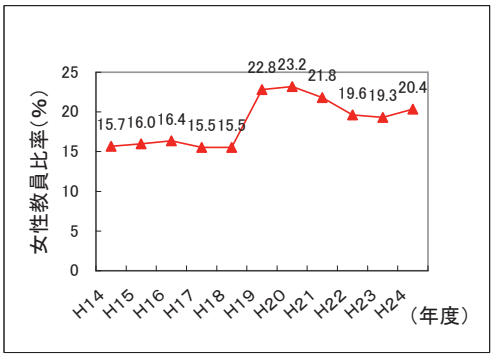
①文学部・文学研究科



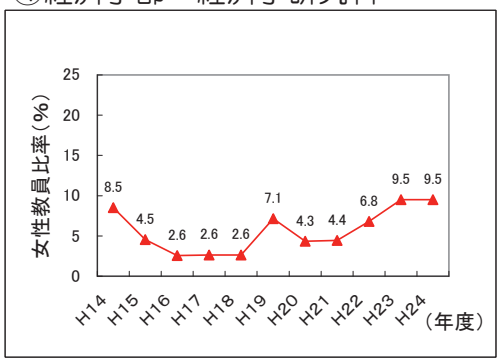

②教育学部・教育発達科学研究科



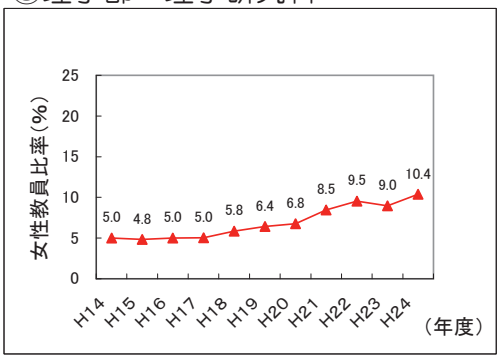

③法学部・法学研究科



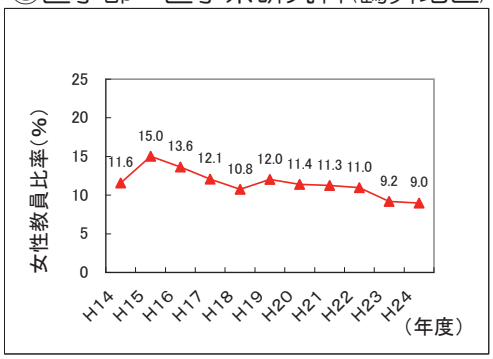

④経済学部・経済学研究科



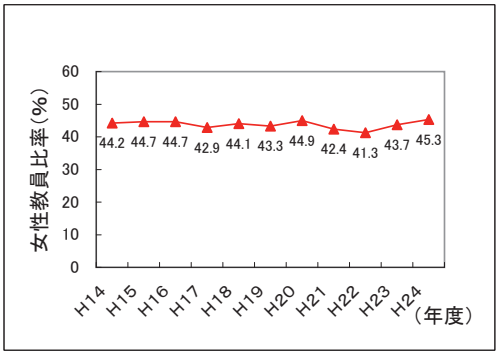

⑤理学部・理学研究科



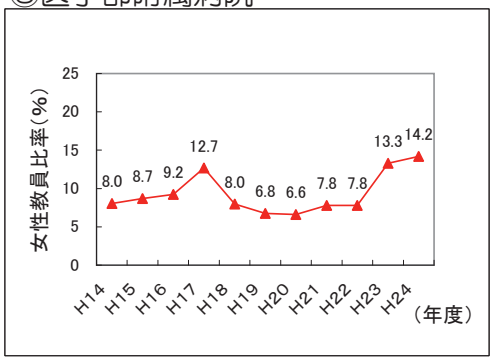

⑥医学部・医学系研究科(鶴舞地区)



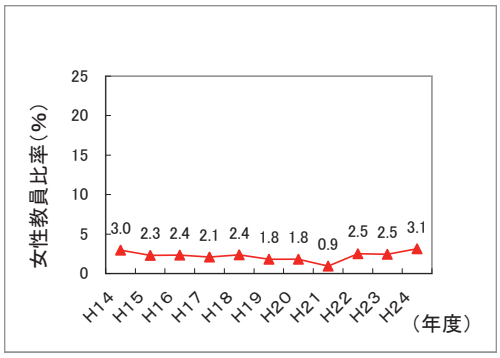

⑦医学部・医学系研究科（大幸地区）



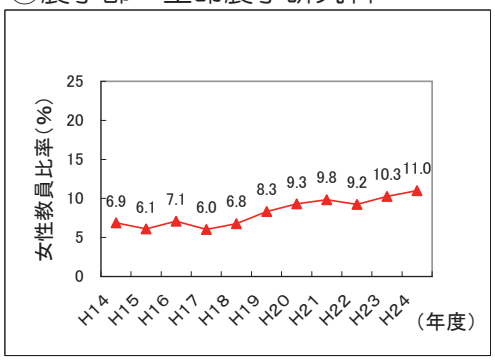

⑧医学部附属病院



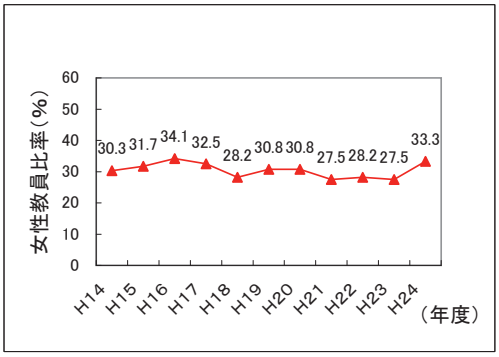
⑨工学部・工学研究科



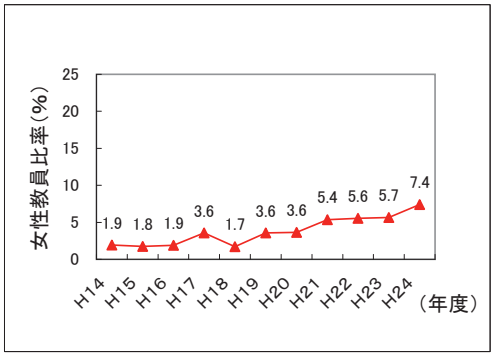

⑩農学部・生命農学研究科



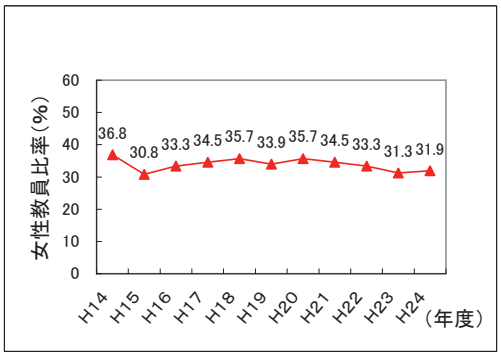

⑪国際開発研究科



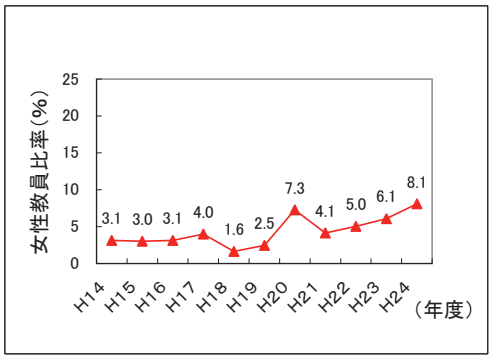

⑫多元数理科学研究科



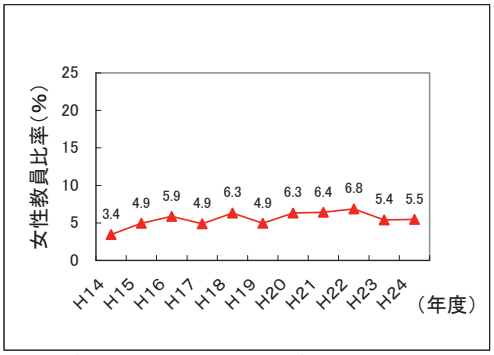

⑬国際言語文化研究科




⑭環境学研究科

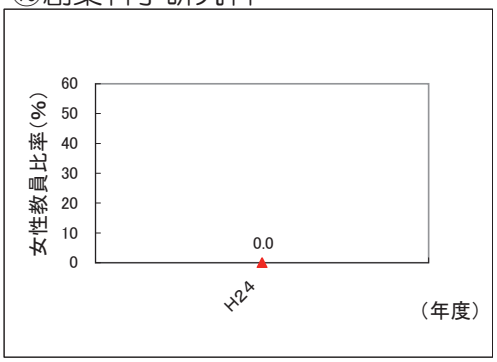



⑮情報文化学部・情報科学研究科



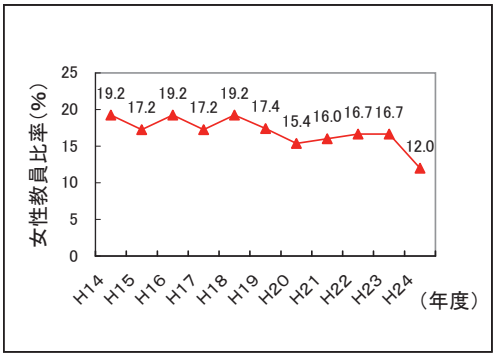

（H14情報文化学部、H15以降情報科学研究科）

⑯創薬科学研究科

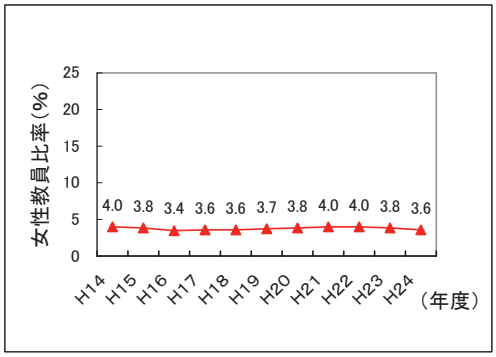



（H24新設）

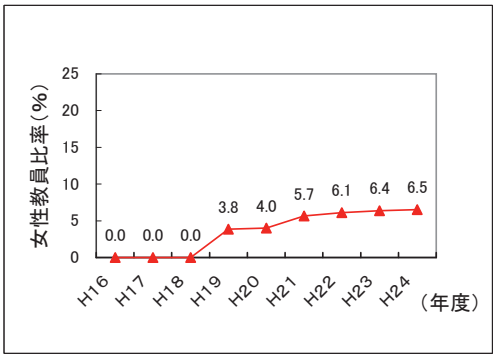
⑰環境医学研究所



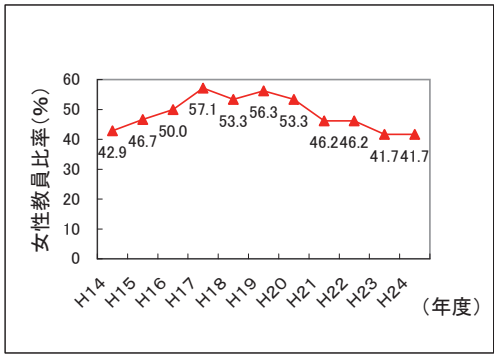

⑱太陽地球環境研究所




⑲エコトピア科学研究所




⑳留学生センター



# 第５章

# 統計資料

## 名古屋大学教職員の現状

平成24年5月1日現在

### 本給表別在職状況

| | | 計 | 男性 | 女　性 | 女性比率 | 女性比率 (H23.5.1現在) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人 | 人 | 人 | % | % |
| 教育職(一) | 教員 | 1,711 | 1,496 | 215 | 12.6 | 11.8 |
| | 教務職員 | 2 | 1 | 1 | 50.0 | 50.0 |
| 教育職(二)教諭等 | | 40 | 23 | 17 | 42.5 | 38.5 |
| 一般職(一) | 一般職員 | 642 | 376 | 266 | 41.4 | 41.8 |
| | 技術職員 | 210 | 176 | 34 | 16.2 | 16.7 |
| 一般職(二)技能・労務職員 | | 12 | 3 | 9 | 75.0 | 50.0 |
| 医療職(一)薬剤師等 | | 263 | 124 | 139 | 52.9 | 52.8 |
| 医療職(二)看護職員 | | 965 | 63 | 902 | 93.5 | 94.5 |
| 合　　計 | | 3,845 | 2,262 | 1,583 | 41.2 | 40.6 |

注１）教育職(一）に指定職を含む。
注２）臨時的採用職員を除く（ただし、休職者、育児休業者を含む）。
注３）役員6名を除く。

### 教育職（一）教員の在職状況内訳

| | 計 | 男　性 | 女　性 | 女性比率 | 女性比率 (H23.5.1現在) |
|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 | % | % |
| 教　　授 | 646 | 605 | 41 | 6.3 | 5.7 |
| 准　教　授 | 515 | 432 | 83 | 16.1 | 14.9 |
| 講　　師 | 109 | 95 | 14 | 12.8 | 10.9 |
| 小　　計 | 1,270 | 1,132 | 138 | 10.9 | 9.8 |
| 助　　教 | 433 | 362 | 71 | 16.4 | 16.4 |
| 助　　手 | 8 | 2 | 6 | 75.0 | 66.7 |
| 計 | 1,711 | 1,496 | 215 | 12.6 | 11.8 |

### 教育職（二）教諭等の在職状況内訳

| | 計 | 男　性 | 女　性 | 女性比率 | 女性比率 (H23.5.1現在) |
|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 | % | % |
| 教　　頭 | 2 | 1 | 1 | 50.0 | 50.0 |
| 教　　諭 | 36 | 22 | 14 | 38.9 | 34.3 |
| 養 護 教 諭 | 2 | 0 | 2 | 100.0 | 100.0 |
| 計 | 40 | 23 | 17 | 42.5 | 38.5 |

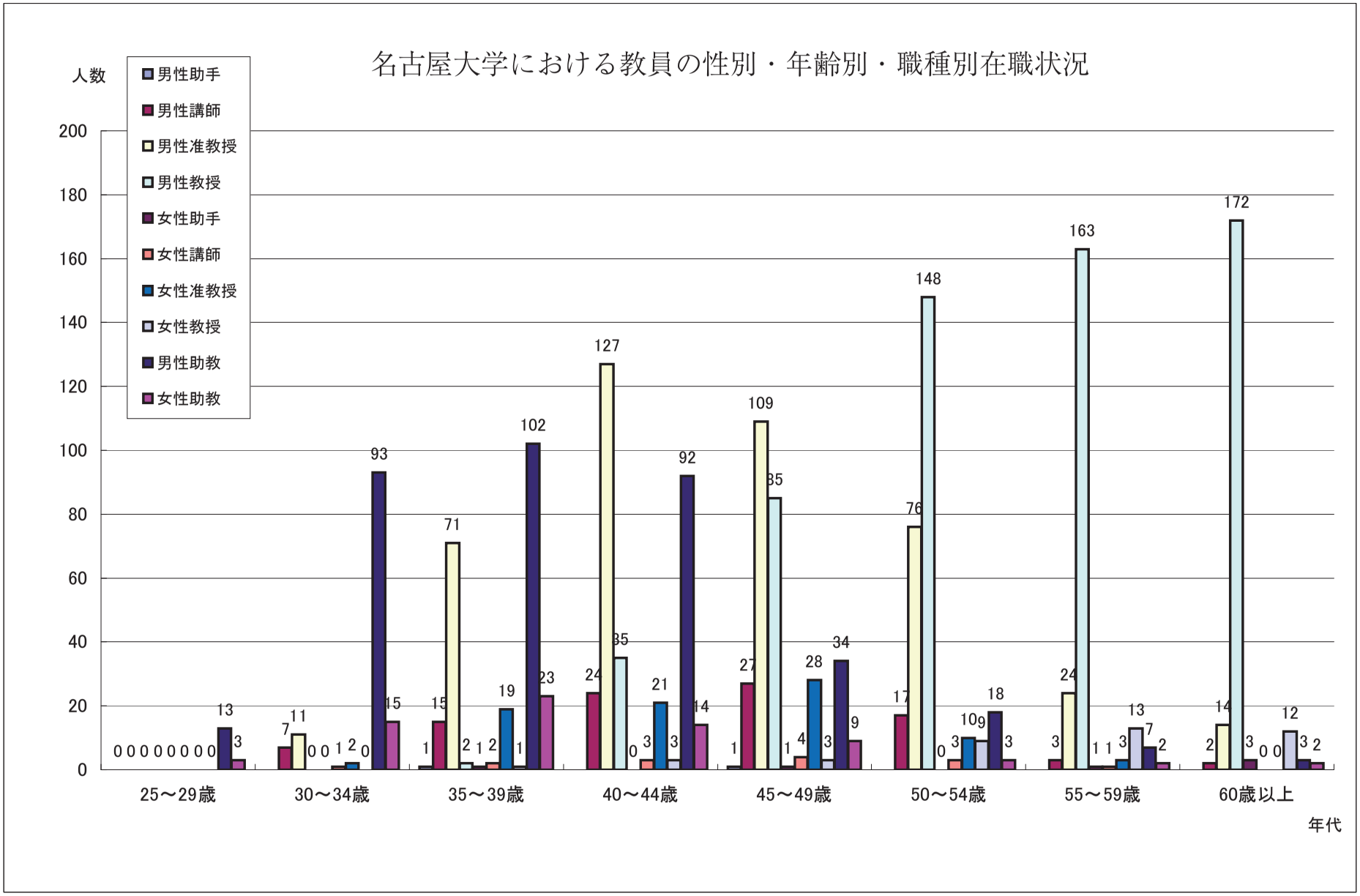
# 教員の部局別女性比率

平成２４年５月１日現在

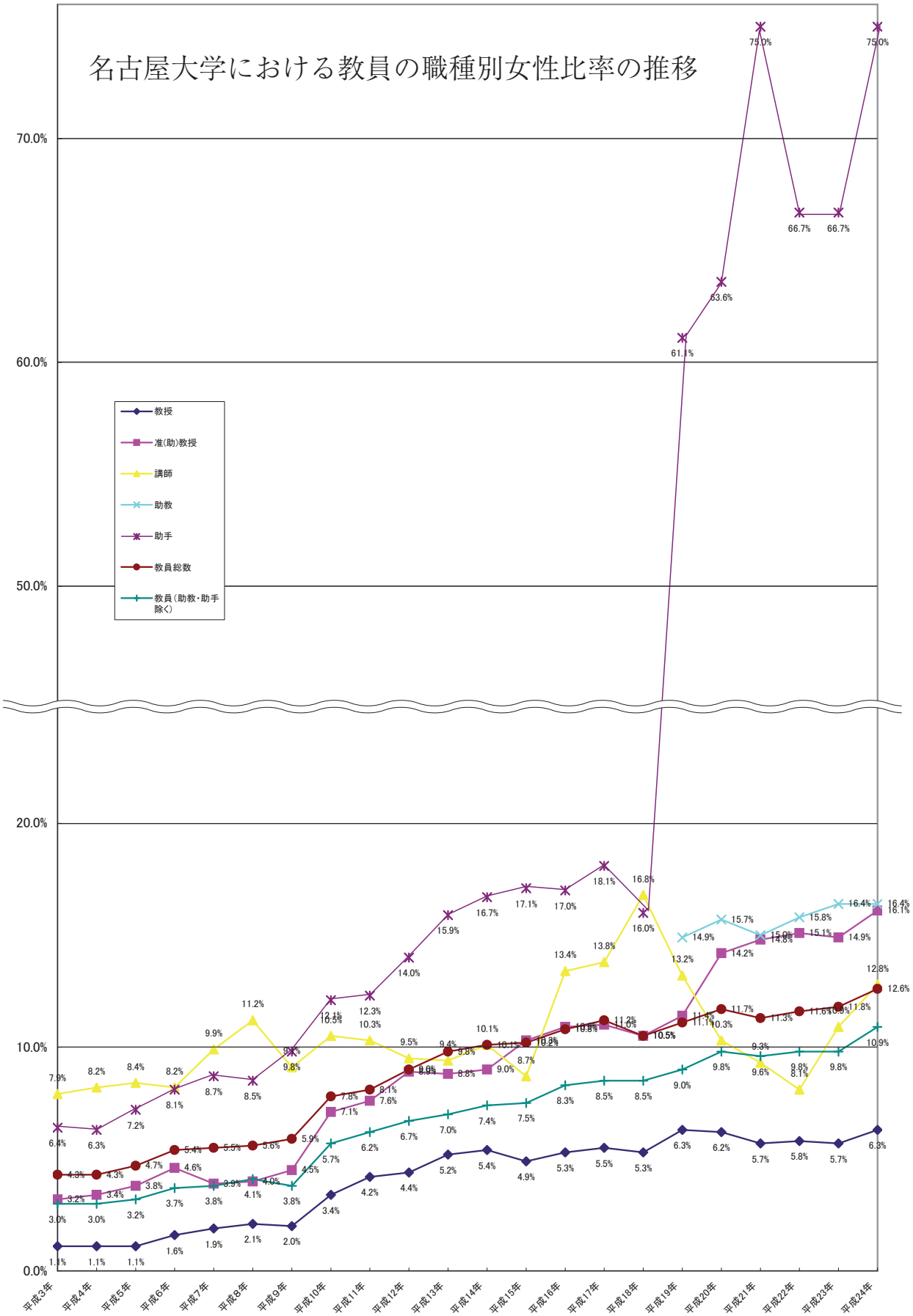
*朱書斜体は女性で内数である。*

| | 教　授 | | 准教授 | | 講　師 | | 助　教 | | 助　手 | | 計 | | 女性比率 | 女性比率（助教・助手を除く） | 23.5.1現在 女性比率（助教・助手を除く） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | | 人 | | 人 | | 人 | | 人 | | 人 | | % | % | % |
| 教養教育院 | 1 | *0* | 2 | *1* | 2 | *0* | 2 | *0* | 0 | *0* | 7 | *1* | 14.3 | 20.0 | 20.0 |
| 文学部・文学研究科 | 30 | *3* | 16 | *3* | 1 | *1* | 6 | *1* | 0 | *0* | 53 | *8* | 15.1 | 14.9 | 13.5 |
| 教育学部・教育発達科学研究科 | 21 | *4* | 10 | *5* | 0 | *0* | 0 | *0* | 0 | *0* | 31 | *9* | 29.0 | 29.0 | 20.7 |
| 法学部・法学研究科 | 36 | *5* | 14 | *3* | 2 | *2* | 1 | *0* | 2 | *2* | 55 | *12* | 21.8 | 19.2 | 16.7 |
| 経済学部・経済学研究科 | 22 | *0* | 18 | *3* | 1 | *0* | 2 | *1* | 0 | *0* | 43 | *4* | 9.3 | 7.3 | 6.8 |
| 理学部・理学研究科 | 41 | *2* | 31 | *1* | 6 | *1* | 44 | *5* | 4 | *3* | 126 | *12* | 9.5 | 5.1 | 3.6 |
| 医学部・医学系研究科 | 50 | *2* | 54 | *4* | 15 | *1* | 38 | *7* | 1 | *0* | 158 | *14* | 8.9 | 5.9 | 6.3 |
| 医学部（保健学科） | 39 | *11* | 16 | *10* | 3 | *1* | 26 | *16* | 0 | *0* | 84 | *38* | 45.2 | 37.9 | 35.6 |
| 医学部附属病院 | 4 | *0* | 7 | *1* | 48 | *4* | 72 | *13* | 0 | *0* | 131 | *18* | 13.7 | 8.5 | 5.1 |
| 工学部・工学研究科 | 113 | *0* | 84 | *3* | 19 | *1* | 99 | *6* | 0 | *0* | 315 | *10* | 3.2 | 1.9 | 1.3 |
| 農学部・生命農学研究科 | 41 | *1* | 40 | *5* | 1 | *0* | 35 | *7* | 0 | *0* | 117 | *13* | 11.1 | 7.3 | 5.8 |
| 総合保健体育科学センター | 10 | *1* | 7 | *1* | 0 | *0* | 1 | *0* | 0 | *0* | 18 | *2* | 11.1 | 11.8 | 11.8 |
| 大学院国際開発研究科 | 16 | *4* | 14 | *6* | 2 | *1* | 4 | *1* | 0 | *0* | 36 | *12* | 33.3 | 34.4 | 31.4 |
| 大学院多元数理科学研究科 | 23 | *0* | 22 | *2* | 0 | *0* | 7 | *0* | 1 | *1* | 53 | *3* | 5.7 | 4.4 | 4.5 |
| 大学院国際言語文化研究科 | 25 | *2* | 20 | *13* | 0 | *0* | 2 | *0* | 0 | *0* | 47 | *15* | 31.9 | 33.3 | 32.6 |
| 大学院環境学研究科 | 46 | *1* | 43 | *3* | 3 | *1* | 19 | *4* | 0 | *0* | 111 | *9* | 8.1 | 5.4 | 5.0 |
| 大学院情報科学研究科 | 35 | *1* | 24 | *2* | 1 | *0* | 13 | *1* | 0 | *0* | 73 | *4* | 5.5 | 5.0 | 4.9 |
| 大学院創薬科学研究科 | 6 | *0* | 3 | *0* | 1 | *0* | 5 | *0* | 0 | *0* | 15 | *0* | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 環境医学研究所 | 7 | *0* | 6 | *0* | 0 | *0* | 12 | *3* | 0 | *0* | 25 | *3* | 12.0 | 0.0 | 0.0 |
| 太陽地球環境研究所 | 9 | *0* | 10 | *1* | 0 | *0* | 6 | *0* | 0 | *0* | 25 | *1* | 4.0 | 5.3 | 5.6 |
| エコトピア科学研究所 | 21 | *1* | 19 | *2* | 0 | *0* | 9 | *0* | 0 | *0* | 49 | *3* | 6.1 | 7.5 | 7.9 |
| 附属図書館 | 0 | *0* | 0 | *0* | 0 | *0* | 0 | *0* | 0 | *0* | 0 | *0* | | | 0.0 |
| 地球水循環研究センター | 4 | *0* | 3 | *0* | 0 | *0* | 3 | *0* | 0 | *0* | 10 | *0* | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 情報基盤センター | 4 | *0* | 4 | *0* | 0 | *0* | 4 | *1* | 0 | *0* | 12 | *1* | 8.3 | 0.0 | 0.0 |
| アイトソープ総合センター | 1 | *0* | 1 | *0* | 2 | *0* | 0 | *0* | 0 | *0* | 4 | *0* | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 遺伝子実験施設 | 2 | *0* | 1 | *0* | 0 | *0* | 2 | *0* | 0 | *0* | 5 | *0* | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 留学生センター | 5 | *2* | 7 | *4* | 1 | *0* | 0 | *0* | 0 | *0* | 13 | *6* | 46.2 | 46.2 | 46.2 |
| 物質科学国際研究センター | 3 | *0* | 2 | *0* | 0 | *0* | 9 | *0* | 0 | *0* | 14 | *0* | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 高等教育研究センター | 1 | *0* | 2 | *0* | 0 | *0* | 1 | *1* | 0 | *0* | 4 | *1* | 25.0 | 0.0 | 0.0 |
| 農学国際教育協力研究センター | 2 | *0* | 2 | *1* | 0 | *0* | 0 | *0* | 0 | *0* | 4 | *1* | 25.0 | 25.0 | 25.0 |
| 年代測定総合研究センター | 1 | *0* | 2 | *1* | 0 | *0* | 1 | *0* | 0 | *0* | 4 | *1* | 25.0 | 33.3 | 25.0 |
| 博物館 | 2 | *0* | 3 | *2* | 0 | *0* | 1 | *0* | 0 | *0* | 6 | *2* | 33.3 | 40.0 | 20.0 |
| 発達心理精神科学教育研究センター | 2 | *1* | 3 | *1* | 0 | *0* | 1 | *1* | 0 | *0* | 6 | *3* | 50.0 | 40.0 | 33.3 |
| 法政国際教育協力研究センター | 0 | *0* | 3 | *2* | 0 | *0* | 0 | *0* | 0 | *0* | 3 | *2* | 66.7 | 66.7 | 33.3 |
| 生物機能開発利用研究センター | 6 | *0* | 6 | *2* | 0 | *0* | 1 | *0* | 0 | *0* | 13 | *2* | 15.4 | 16.7 | 16.7 |
| シンクロトロン光研究センター | 1 | *0* | 1 | *0* | 0 | *0* | 1 | *0* | 0 | *0* | 3 | *0* | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 基礎理論研究センター | 1 | *0* | 3 | *0* | 0 | *0* | 2 | *1* | 0 | *0* | 6 | *1* | 16.7 | 0.0 | 0.0 |
| 現象解析研究センター | 1 | *0* | 3 | *0* | 0 | *0* | 0 | *0* | 0 | *0* | 4 | *0* | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| グリーンモビリティ連携研究センター | 1 | *0* | 1 | *0* | 0 | *0* | 1 | *0* | 0 | *0* | 3 | *0* | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 細胞生理学研究センター | 1 | *0* | 1 | *0* | 0 | *0* | 1 | *0* | 0 | *0* | 3 | *0* | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| その他 | 12 | *0* | 7 | *1* | 1 | *1* | 2 | *2* | 0 | *0* | 22 | *4* | 18.2 | 10.0 | 15.4 |
| 合　　計 | 646 | *41* | 515 | *83* | 109 | *14* | 433 | *71* | 8 | *6* | 1,711 | *215* | 12.6 | 10.9 | 9.8 |
| 女　性　比　率 | 6.3% | | 16.1% | | 12.8% | | 16.4% | | 75.0% | | 12.6% | | 12.6 | 10.9 | 9.8 |

平成24年5月1日現在（年齢は年度末現在）



女性比率　　平成24年5月1日現在




※平成１９年度より、助教授は准教授に、助手は助教に名称が変わりました。なお、助手身分が継続している者も在職しています。

# 一般職（一）職員の在職状況内訳

平成24年5月1日現在

## 1）事務系職員

| | 計 | 男　性 | 女　性 | 女性比率 | 女性比率<br>(H23.5.1現在) |
|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 | % | % |
| 課長（事務長）　　以上 | 63 | 61 | 2 | 3.2 | 9.7 |
| 課長補佐・専門員 | 47 | 43 | 4 | 8.5 | 10.4 |
| 掛長・専門職員 | 178 | 119 | 59 | 33.1 | 27.7 |
| 主　　任 | 135 | 61 | 74 | 54.8 | 57.2 |
| その他の一般職員 | 169 | 76 | 93 | 55.0 | 56.7 |
| 計 | 592 | 360 | 232 | 39.2 | 39.7 |

＊図書系職員及び施設系職員の課長以上を含む。

## 2）図書系職員

| | 計 | 男　性 | 女　性 | 女性比率 | 女性比率<br>(H23.5.1現在) |
|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 | % | % |
| 課長補佐・専門員 | 3 | 1 | 2 | 66.7 | 75.0 |
| 掛　長 | 18 | 11 | 7 | 38.9 | 29.4 |
| その他の一般職員 | 29 | 4 | 25 | 86.2 | 86.7 |
| 計 | 50 | 16 | 34 | 68.0 | 66.7 |

## 3）施設系職員

| | 計 | 男　性 | 女　性 | 女性比率 | 女性比率<br>(H23.5.1現在) |
|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 | % | % |
| 課長補佐 | 4 | 4 | 0 | 0.0 | 0.0 |
| 掛長・専門職員 | 19 | 19 | 0 | 0.0 | 0.0 |
| 主　任 | 9 | 6 | 3 | 33.3 | 36.4 |
| その他の一般職員 | 10 | 7 | 3 | 30.0 | 30.0 |
| 計 | 42 | 36 | 6 | 14.3 | 16.3 |

## 4）技術職員

| | 計 | 男　性 | 女　性 | 女性比率 | 女性比率<br>(H23.5.1現在) |
|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 | % | % |
| 技術専門員 | 24 | 24 | 0 | 0.0 | 0.0 |
| 技術専門職員 | 109 | 90 | 19 | 17.4 | 14.3 |
| 技術職員 | 35 | 26 | 9 | 25.7 | 34.2 |
| 計 | 168 | 140 | 28 | 16.7 | 16.8 |

# 事務系職員採用状況（平成 11 年度～ 24 年度）

平成24年12月1日現在

| 年度 | Ⅱ種（行政） | | | | Ⅲ種（行政事務） | | | | 計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率(%) | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率(%) | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率(%) |
| １１年度 | 11 | 5 | 6 | 54.5 | 4 | 2 | 2 | 50.0 | 15 | 7 | 8 | 53.3 |
| １２年度 | 9 | 6 | 3 | 33.3 | 7 | 7 | 0 | 0.0 | 16 | 13 | 3 | 18.8 |
| １３年度 | 19 | 10 | 9 | 47.4 | 6 | 5 | 1 | 16.7 | 25 | 15 | 10 | 40.0 |
| １４年度 | 21 | 14 | 7 | 33.3 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 21 | 14 | 7 | 33.3 |
| １５年度 | 30 | 17 | 13 | 43.3 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 30 | 17 | 13 | 43.3 |
| １６年度 | 6 | 3 | 3 | 50.0 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 6 | 3 | 3 | 50.0 |
| 計 | 96 | 55 | 41 | 42.7 | 17 | 14 | 3 | 17.6 | 113 | 69 | 44 | 38.9 |

| 年度 | 国立大学法人等職員採用試験 | | | | | | | | 計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率(%) | | | | | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率(%) |
| １６年度 | 12 | 8 | 4 | 33.3 | 0 | 0 | 0 | | 12 | 8 | 4 | 33.3 |
| １７年度 | 24 | 14 | 10 | 41.7 | 0 | 0 | 0 | | 24 | 14 | 10 | 41.7 |
| １８年度 | 4 | 3 | 1 | 25.0 | 0 | 0 | 0 | | 4 | 3 | 1 | 25.0 |
| １９年度 | 23 | 7 | 16 | 69.6 | 0 | 0 | 0 | | 23 | 7 | 16 | 69.6 |
| ２０年度 | 6 | 4 | 2 | 33.3 | 0 | 0 | 0 | | 6 | 4 | 2 | 33.3 |
| ２１年度 | 12 | 7 | 5 | 41.7 | 0 | 0 | 0 | | 12 | 7 | 5 | 41.7 |
| ２２年度 | 19 | 6 | 13 | 68.4 | 0 | 0 | 0 | | 19 | 6 | 13 | 68.4 |
| ２３年度 | 26 | 14 | 12 | 46.2 | 0 | 0 | 0 | | 26 | 14 | 12 | 46.2 |
| ２４年度 | 21 | 10 | 11 | 52.4 | 0 | 0 | 0 | | 21 | 10 | 11 | 52.4 |
| 計 | 147 | 73 | 74 | 50.3 | 0 | 0 | 0 | | 147 | 73 | 74 | 50.3 |

# 一般職（一）職員の性別・年齢別・職種別在職状況

平成24年5月1日現在(年齢は年度末現在)

## 事務系職員

| | 掛　長　以　上(*) | | | | 主　任　・　一般職員 | | | | 計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
| | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % |
| ５０歳～６０歳 | 135 | 113 | 22 | 16.3 | 30 | 7 | 23 | 76.7 | 165 | 120 | 45 | 27.3 |
| ４０歳～４９歳 | 112 | 81 | 31 | 27.7 | 39 | 16 | 23 | 59.0 | 151 | 97 | 54 | 35.8 |
| ３０歳～３９歳 | 41 | 29 | 12 | 29.3 | 153 | 79 | 74 | 48.4 | 194 | 108 | 86 | 44.3 |
| １８歳～２９歳 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 82 | 35 | 47 | 57.3 | 82 | 35 | 47 | 57.3 |
| 計 | 288 | 223 | 65 | 22.6 | 304 | 137 | 167 | 54.9 | 592 | 360 | 232 | 39.2 |

*掛長以上には、図書系・施設系の部課長を含む

## 図書系職員

| | 掛　長　以　上(*) | | | | 一般図書系職員 | | | | 計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
| | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % |
| ５０歳～６０歳 | 9 | 7 | 2 | 22.2 | 2 | 0 | 2 | 100.0 | 11 | 7 | 4 | 36.4 |
| ４０歳～４９歳 | 10 | 5 | 5 | 50.0 | 2 | 0 | 2 | 100.0 | 12 | 5 | 7 | 58.3 |
| ３０歳～３９歳 | 2 | 0 | 2 | 100.0 | 17 | 3 | 14 | 82.4 | 19 | 3 | 16 | 84.2 |
| １８歳～２９歳 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 8 | 1 | 7 | 87.5 | 8 | 1 | 7 | 87.5 |
| 計 | 21 | 12 | 9 | 42.9 | 29 | 4 | 25 | 86.2 | 50 | 16 | 34 | 68.0 |

＊ 部課長は事務系職員に含む。

## 施設系職員

| | 掛　長　以　上(*) | | | | 主　任　・施設系職員 | | | | 計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
| | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % |
| ５０歳～６０歳 | 7 | 7 | 0 | 0.0 | 1 | 1 | 0 | 0.0 | 8 | 8 | 0 | 0.0 |
| ４０歳～４９歳 | 12 | 12 | 0 | 0.0 | 1 | 0 | 1 | 100.0 | 13 | 12 | 1 | 7.7 |
| ３０歳～３９歳 | 4 | 4 | 0 | 0.0 | 12 | 9 | 3 | 25.0 | 16 | 13 | 3 | 18.8 |
| １８歳～２９歳 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 5 | 3 | 2 | 40.0 | 5 | 3 | 2 | 40.0 |
| 計 | 23 | 23 | 0 | 0.0 | 19 | 13 | 6 | 31.6 | 42 | 36 | 6 | 14.3 |

＊ 部課長は事務系職員に含む。

## 技術職員

| | 技術専門職員以上(*) | | | | 技　術　職　員 | | | | 計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
| | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % |
| ５０歳～６０歳 | 61 | 59 | 2 | 3.3 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 61 | 59 | 2 | 3.3 |
| ４０歳～４９歳 | 50 | 39 | 11 | 22.0 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 50 | 39 | 11 | 22.0 |
| ３０歳～３９歳 | 22 | 16 | 6 | 27.3 | 21 | 13 | 8 | 38.1 | 43 | 29 | 14 | 32.6 |
| １８歳～２９歳 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 14 | 13 | 1 | 7.1 | 14 | 13 | 1 | 7.1 |
| 計 | 133 | 114 | 19 | 14.3 | 35 | 26 | 9 | 25.7 | 168 | 140 | 28 | 16.7 |

＊ 技術専門職員以上とは、技術専門員と技術専門職員である。

# 医療系職員の在職状況内訳

平成24年5月1日現在

医療職（一）薬剤師等

| | 計 | 男　性 | 女　性 | 女性比率 | 女性比率<br>(H23.5.1現在) |
|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 | % | % |
| 薬剤主任以上 | 14 | 9 | 5 | 35.7 | 35.7 |
| 薬剤師 | 61 | 16 | 45 | 73.8 | 72.4 |
| 小計 | 75 | 25 | 50 | 66.7 | 65.3 |
| 主任診療放射線技師以上 | 15 | 14 | 1 | 6.7 | 6.7 |
| 診療放射線技師 | 42 | 30 | 12 | 28.6 | 35.9 |
| 小計 | 57 | 44 | 13 | 22.8 | 27.8 |
| 主任臨床検査技師以上 | 15 | 10 | 5 | 33.3 | 31.3 |
| 臨床検査技師等 | 48 | 9 | 39 | 81.3 | 76.1 |
| 小計 | 63 | 19 | 44 | 69.8 | 64.5 |
| 栄養管理部副部長以上 | 1 | 1 | 0 | 0.0 | 0.0 |
| 栄養士 | 7 | 1 | 6 | 85.7 | 83.3 |
| 小計 | 8 | 2 | 6 | 75.0 | 71.4 |
| その他 | 60 | 34 | 26 | 43.3 | 45.3 |
| 計 | 263 | 124 | 139 | 52.9 | 52.8 |

医療職（二）看護職員

| | 計 | 男　性 | 女　性 | 女性比率 | 女性比率<br>(H23.5.1現在) |
|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 | % | |
| 副看護師長以上 | 126 | 4 | 122 | 96.8 | 96.8 |
| 看護師等 | 839 | 59 | 780 | 93.0 | 94.1 |
| 計 | 965 | 63 | 902 | 93.5 | 94.5 |

# 医療系職員の性別・年齢別・職種別在職状況

平成24年5月1日現在

## 薬剤師等

| | 役付職員(*) | | | | その他(**) | | | | 計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
| | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % |
| ５０歳～６０歳 | 26 | 21 | 5 | 19.2 | 7 | 4 | 3 | 42.9 | 33 | 25 | 8 | 24.2 |
| ４０歳～４９歳 | 15 | 11 | 4 | 26.7 | 27 | 8 | 19 | 70.4 | 42 | 19 | 23 | 54.8 |
| ３０歳～３９歳 | 4 | 2 | 2 | 50.0 | 86 | 32 | 54 | 62.8 | 90 | 34 | 56 | 62.2 |
| １８歳～２９歳 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 98 | 46 | 52 | 53.1 | 98 | 46 | 52 | 53.1 |
| 計 | 45 | 34 | 11 | 24.4 | 218 | 90 | 128 | 58.7 | 263 | 124 | 139 | 52.9 |

＊ 役付職員とは、医療技術部長、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任、診療放射線技師長、副診療放射線技師
主任診療放射線技師、臨床検査技師長、副臨床検査技師長、主任臨床検査技師、栄養管理部副部長等
のことである。

**その他とは、薬剤師、診療放射線技師、臨床（衛生）検査技師、栄養士等である。

## 看護職員

| | 副看護師長以上(*) | | | | 看護師等 | | | | 計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
| | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | 人 | % |
| ５０歳～６０歳 | 51 | 2 | 49 | 96.1 | 26 | 3 | 23 | 88.5 | 77 | 5 | 72 | 93.5 |
| ４０歳～４９歳 | 49 | 1 | 48 | 98.0 | 61 | 0 | 61 | 100.0 | 110 | 1 | 109 | 99.1 |
| ３０歳～３９歳 | 26 | 1 | 25 | 96.2 | 198 | 17 | 181 | 91.4 | 224 | 18 | 206 | 92.0 |
| １８歳～２９歳 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 554 | 39 | 515 | 93.0 | 554 | 39 | 515 | 93.0 |
| 計 | 126 | 4 | 122 | 96.8 | 839 | 59 | 780 | 93.0 | 965 | 63 | 902 | 93.5 |

＊　副看護師長以上とは、看護部長、副看護部長、看護師長及び副看護師長のことである。

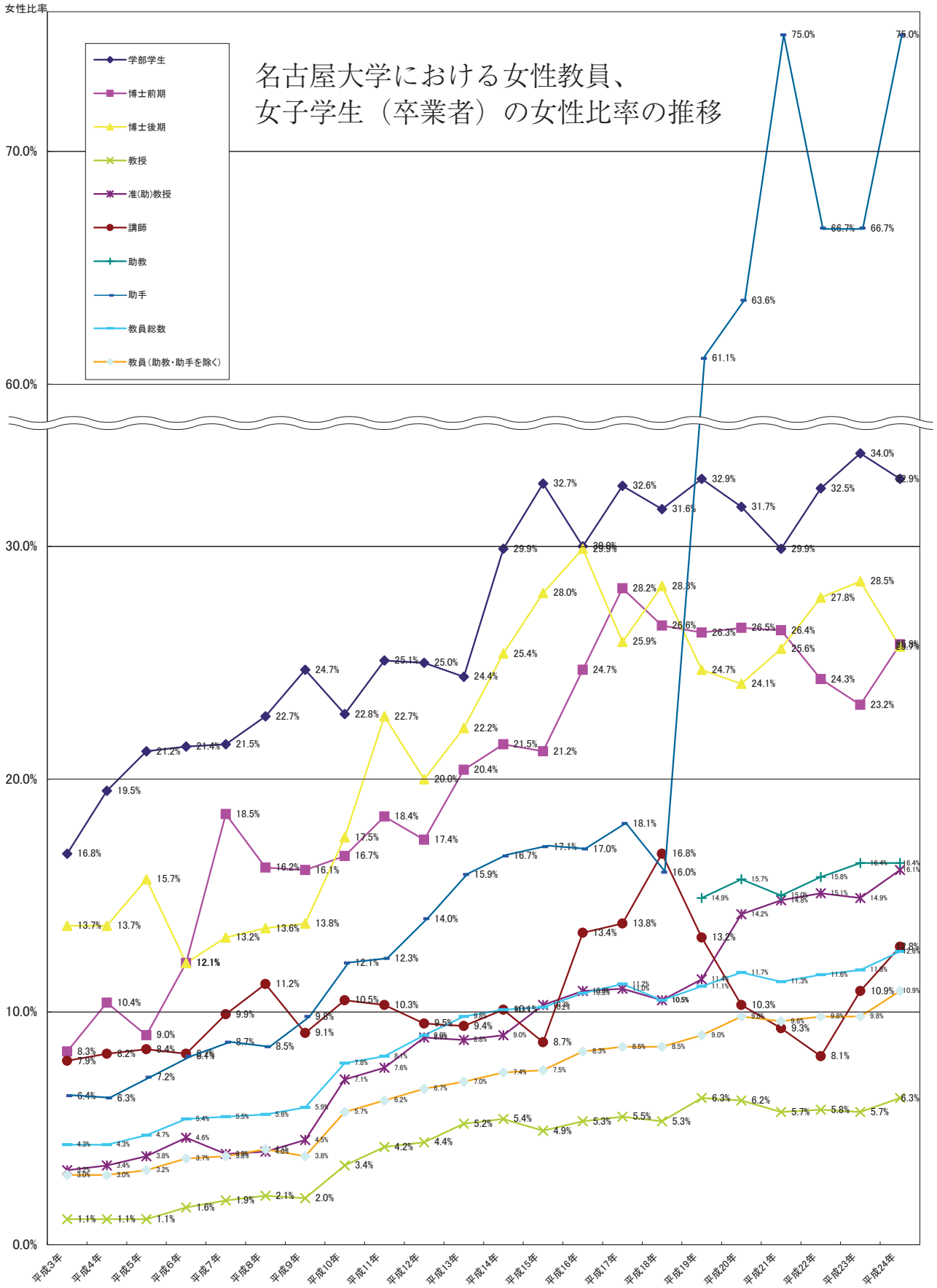
# 名古屋大学における任期付正職員、非常勤研究員等の部局別・職種別女性比率

平成２４年５月１日現在

*朱書斜体は女性で内数である。*

| | 任期付正職員 | | 任期付正職員女性比率 | 政府補助金による研究員（一般） | | ＣＯＥ研究員 | | ＣＯＥ教授・准教授等（研究員除く） | | 寄附講座教員・寄附研究部門教員等 | | 受託（共同）研究による研究員 | | 研究機関研究員 | | 中核的研究機関研究員 | | そ　の　他 | | 非常勤研究員等計 | | 非常勤研究員等女性比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | | % | 人 | | 人 | | 人 | | 人 | | 人 | | 人 | | 人 | | 人 | | 人 | | % |
| 総務部総務課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総務部人事課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総務部職員課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究協力部社会連携課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学務部学生総合支援課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 産学官連携推進本部 | 12 | *1* | 8.3 | 4 | *1* | | | | | | | | | | | | | | | 4 | *1* | 25.0 |
| 社会貢献人材育成本部 | 10 | *4* | 40.0 | 3 | *0* | | | | | | | | | | | | | | | 3 | *0* | 0.0 |
| 国際交流協力推進本部 | 31 | *14* | 45.2 | 2 | *0* | | | | | | | | | | | | | | | 2 | *0* | 0.0 |
| 情報連携統括本部 | 6 | *0* | 0.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施設計画推進室 | 1 | *0* | 0.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 災害対策室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教養教育院 | 6 | *1* | 16.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高等研究院 | 23 | *3* | 13.0 | 1 | *0* | | | | | | | 1 | *0* | | | | | | | 2 | *0* | 0.0 |
| 文学部・文学研究科 | 1 | *0* | 0.0 | 1 | *0* | | | | | | | | | | | | | | | 1 | *0* | 0.0 |
| 教育学部・教育発達科学研究科 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 法学部・法学研究科 | 28 | *17* | 60.7 | 2 | *0* | | | | | | | 1 | *0* | | | | | 1 | *0* | 4 | *0* | 0.0 |
| 経済学部・経済学研究科 | 3 | *0* | 0.0 | 4 | *1* | | | | | | | | | 1 | *0* | | | | | 5 | *1* | 20.0 |
| 理学部・理学研究科 | 47 | *8* | 17.0 | 17 | *8* | 1 | *0* | | | 1 | *0* | 6 | *3* | | | | | 4 | *0* | 29 | *11* | 37.9 |
| 医学部・医学系研究科 | 102 | *24* | 23.5 | 19 | *7* | 2 | *1* | | | 7 | *5* | 5 | *2* | 2 | *1* | | | 5 | *4* | 40 | *20* | 50.0 |
| 医学部附属病院 | 104 | *22* | 21.2 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | *1* | 1 | *1* | 100.0 |
| 工学部・工学研究科 | 38 | *2* | 5.3 | 6 | *2* | 1 | *0* | | | | | 4 | *0* | | | 8 | *1* | 2 | *0* | 21 | *3* | 14.3 |
| 農学部・生命農学研究科 | 10 | *2* | 20.0 | 18 | *6* | | | | | | | 4 | *1* | | | | | 7 | *2* | 29 | *9* | 31.0 |
| 大学院国際開発研究科 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大学院多元数理科学研究科 | 2 | *1* | 50.0 | | | | | | | | | | | | | | | 4 | *0* | 4 | *0* | 0.0 |
| 大学院環境学研究科 | 17 | *6* | 35.3 | 11 | *3* | 5 | *0* | | | 1 | *0* | 5 | *1* | 1 | *0* | | | 1 | *0* | 24 | *4* | 16.7 |
| 大学院情報科学研究科 | 17 | *1* | 5.9 | 4 | *2* | | | | | | | 7 | *3* | | | | | 6 | *0* | 17 | *5* | 29.4 |
| 大学院創薬科学研究科 | 2 | *2* | 100.0 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | *0* | 1 | *0* | 0.0 |
| 環境医学研究所 | 4 | *1* | 25.0 | 4 | *1* | | | | | | | 1 | *0* | 1 | *0* | | | | | 6 | *1* | 16.7 |
| 太陽地球環境研究所 | 7 | *2* | 28.6 | 2 | *1* | | | | | | | | | 2 | *2* | | | 1 | *0* | 5 | *3* | 60.0 |
| エコトピア科学研究所 | 8 | *2* | 25.0 | 5 | *3* | | | | | | | 1 | *0* | 8 | *4* | | | 4 | *1* | 18 | *8* | 44.4 |
| 附属図書館 | | | | 1 | *1* | | | | | | | | | | | | | | | 1 | *1* | 100.0 |
| 総合保健体育科学センター | 1 | *0* | 0.0 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | *1* | 2 | *1* | 50.0 |
| 素粒子宇宙起源研究機構 | 2 | *0* | 0.0 | 1 | *0* | | | | | | | | | | | | | 1 | *0* | 2 | *0* | 0.0 |
| 地球水循環研究ｾﾝﾀｰ | 6 | *2* | 33.3 | 1 | *0* | | | | | | | 2 | *1* | 2 | *2* | | | | | 5 | *3* | 60.0 |
| 情報基盤ｾﾝﾀｰ | 2 | *0* | 0.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アイソトープ総合センター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 遺伝子実験施設 | 1 | *0* | 0.0 | 2 | *1* | | | | | | | | | | | | | | | 2 | *1* | 50.0 |
| 留学生センター | 2 | *2* | 100.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 物質科学国際研究ｾﾝﾀｰ | | | | 3 | *0* | | | | | | | 3 | *1* | 2 | *0* | | | 9 | *0* | 17 | *1* | 5.9 |
| 高等教育研究センター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 農学国際教育協力センター | | | | | | | | | | | | 1 | *0* | 1 | *1* | | | | | 2 | *1* | 50.0 |
| 年代測定総合研究ｾﾝﾀｰ | | | | 1 | *0* | | | | | | | | | 2 | *1* | | | | | 3 | *1* | 33.3 |
| 博物館 | 1 | *0* | 0.0 | 2 | *1* | | | | | | | | | | | | | | | 2 | *1* | 50.0 |
| 法政国際教育協力研究センター | 1 | *0* | 0.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 発達心理精神科学教育研究ｾﾝﾀｰ | 4 | *3* | 75.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生物機能開発利用研究ｾﾝﾀｰ | 12 | *5* | 41.7 | | | | | | | | | 2 | *1* | 2 | *2* | | | | | 4 | *3* | 75.0 |
| 基礎理論研究センター | 7 | *0* | 0.0 | 1 | *0* | | | | | | | | | | | | | | | 1 | *0* | 0.0 |
| 現象解析研究センター | 4 | *0* | 0.0 | | | | | | | | | 2 | *0* | | | | | | | 2 | *0* | 0.0 |
| シンクロトロン光研究センター | 6 | *0* | 0.0 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | *0* | 1 | *0* | 0.0 |
| グリーンモビリティ連携研究センター | 8 | *3* | 37.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 細胞生理学研究センター | 7 | *1* | 14.3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 23 | *8* | 34.8 | 3 | *2* | | | | | | | 6 | *2* | | | | | 1 | *0* | 10 | *4* | 40.0 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合　　計 | 566 | *137* | 24.2 | 118 | *40* | 9 | *1* | 0 | *0* | 9 | *5* | 51 | *15* | 24 | *13* | 8 | *1* | 51 | *9* | 270 | *84* | 31.1 |
| 女性比率 | 24.2 | | | 33.9 | | 11.1 | | 0.0 | | 55.6 | | 29.4 | | 54.2 | | 12.5 | | 17.6 | | 31.1 | | |

平成24年5月1日現在




※平成１９年度より、助教授は准教授に、助手は助教に名称が変わりました。なお、助手身分が継続している者も在職しています。

# 名古屋大学における女性教員、女子学生の部局別比率

平成２４年５月１日現在

| 部局名 | 教員 | | | | 大学院後期課程・博士課程 | | | | 大学院前期課程・修士課程 | | | | 学部学生 | | | | 教員の女性比率を１とした場合の学生の課程別　女性比率の比 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 合計数 | 男性数 | 女性数 | 女性比率 | 合計数 | 男性数 | 女性数 | 女性比率 | 合計数 | 男性数 | 女性数 | 女性比率 | 合計数 | 男性数 | 女性数 | 女性比率 | 教員 | 博士後期 | 博士前期 | 学部 |
| 文学部・文学研究科 | 53 | 45 | 8 | 15.1% | 154 | 61 | 93 | 60.4% | 125 | 48 | 77 | 61.6% | 590 | 219 | 371 | 62.9% | 1.0 | 4.0 | 4.1 | 4.2 |
| 教育学部・教育発達科学研究科 | 31 | 22 | 9 | 29.0% | 123 | 59 | 64 | 52.0% | 122 | 38 | 84 | 68.9% | 323 | 105 | 218 | 67.5% | 1.0 | 1.8 | 2.4 | 2.3 |
| 法学部・法学研究科 | 55 | 43 | 12 | 21.8% | 63 | 32 | 31 | 49.2% | 82 | 57 | 25 | 30.5% | 685 | 459 | 226 | 33.0% | 1.0 | 2.3 | 1.4 | 1.5 |
| | | | | | | | | | 189 | 127 | 62 | 32.8% | | | | | | | | |
| 経済学部・経済学研究科 | 43 | 39 | 4 | 9.3% | 45 | 27 | 18 | 40.0% | 86 | 47 | 39 | 45.3% | 935 | 628 | 307 | 32.8% | 1.0 | 4.3 | 4.9 | 3.5 |
| 情報文化学部 | | | | | | | | | | | | | 350 | 242 | 108 | 30.9% | | | | |
| 理学部・理学研究科 | 126 | 114 | 12 | 9.5% | 183 | 144 | 39 | 21.3% | 394 | 311 | 83 | 21.1% | 1,210 | 959 | 251 | 20.7% | 1.0 | 2.2 | 2.2 | 2.2 |
| 医学部・医学系研究科 | 158 | 144 | 14 | 8.9% | 677 | 479 | 198 | 29.2% | 52 | 33 | 19 | 36.5% | 649 | 515 | 134 | 20.6% | 1.0 | 3.3 | 4.1 | 2.3 |
| 医学部（保健学科） | 84 | 46 | 38 | 45.2% | 70 | 28 | 42 | 60.0% | 133 | 58 | 75 | 56.4% | 895 | 243 | 652 | 72.8% | 1.0 | 1.3 | 1.2 | 1.6 |
| 工学部・工学研究科 | 315 | 305 | 10 | 3.2% | 326 | 291 | 35 | 10.7% | 1,289 | 1,191 | 98 | 7.6% | 3,405 | 3,087 | 318 | 9.3% | 1.0 | 3.4 | 2.4 | 2.9 |
| 農学部・生命農学研究科 | 117 | 104 | 13 | 11.1% | 97 | 63 | 34 | 35.1% | 322 | 174 | 148 | 46.0% | 741 | 427 | 314 | 42.4% | 1.0 | 3.2 | 4.1 | 3.8 |
| 大学院国際開発研究科 | 36 | 24 | 12 | 33.3% | 130 | 70 | 60 | 46.2% | 155 | 69 | 86 | 55.5% | | | | | 1.0 | 1.4 | 1.7 | |
| 大学院人間情報学研究科 | | | | | | | | | 1 | 0 | 1 | 100.0% | | | | | | | | |
| 大学院多元数理科学研究科 | 53 | 50 | 3 | 5.7% | 60 | 55 | 5 | 8.3% | 123 | 119 | 4 | 3.3% | | | | | 1.0 | 1.5 | 0.6 | |
| 大学院国際言語文化研究科 | 47 | 32 | 15 | 31.9% | 85 | 15 | 70 | 82.4% | 124 | 25 | 99 | 79.8% | | | | | 1.0 | 2.6 | 2.5 | |
| 大学院環境学研究科 | 111 | 102 | 9 | 8.1% | 184 | 118 | 66 | 35.9% | 319 | 211 | 108 | 33.9% | | | | | 1.0 | 4.4 | 4.2 | |
| 大学院情報科学研究科 | 73 | 69 | 4 | 5.5% | 88 | 70 | 18 | 20.5% | 281 | 252 | 29 | 10.3% | | | | | 1.0 | 3.7 | 1.9 | |
| 大学院創薬科学研究科 | 15 | 15 | 0 | 0.0% | | | | | 30 | 19 | 11 | 36.7% | | | | | | | | |
| その他 | 394 | 342 | 52 | 13.2% | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 1,711 | 1,496 | 215 | 12.6% | 2,285 | 1,512 | 773 | 33.8% | 3,827 | 2,779 | 1,048 | 27.4% | 9,783 | 6,884 | 2,899 | 29.6% | 1.0 | 2.7 | 2.2 | 2.4 |

＊ 法学部・法学研究科の下段は専門職学位課程の数である。

# 名古屋大学における入学志願者・入学者の女性比率

名古屋大学における入学志願者・入学者の女性比率

平成24年4月1日現在

| | 学部学生 | | | | | | | | 大学院前期課程・修士課程 | | | | | | | | 大学院後期課程・博士課程 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 志願者数 | | | | 入学者数 | | | | 志願者数 | | | | 入学者数 | | | | 志願者数 | | | | 入・進学者数 | | | |
| | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
| 文学部・文学研究科 | 410 | 162 | 248 | 60.5 | 133 | 55 | 78 | 58.6 | 128 | 52 | 76 | 59.4 | 62 | 25 | 37 | 59.7 | 37 | 10 | 27 | 73.0 | 30 | 7 | 23 | 76.7 |
| 教育学部・教育発達科学研究科 | 184 | 67 | 117 | 63.6 | 75 | 27 | 48 | 64.0 | 127 | 39 | 88 | 69.3 | 59 | 20 | 39 | 66.1 | 49 | 23 | 26 | 53.1 | 30 | 14 | 16 | 53.3 |
| 法学部・法学研究科 | 449 | 316 | 133 | 29.6 | 153 | 113 | 40 | 26.1 | 56 | 41 | 15 | 26.8 | 27 | 22 | 5 | 18.5 | 13 | 5 | 8 | 61.5 | 8 | 2 | 6 | 75.0 |
| | | | | | | | | | 366 | 285 | 81 | 22.1 | 68 | 49 | 19 | 27.9 | | | | | | | | |
| 経済学部・経済学研究科 | 668 | 465 | 203 | 30.4 | 217 | 144 | 73 | 33.6 | 75 | 42 | 33 | 44.0 | 40 | 23 | 17 | 42.5 | 7 | 6 | 1 | 14.3 | 5 | 4 | 1 | 20.0 |
| 情報文化学部 | 311 | 192 | 119 | 38.3 | 77 | 54 | 23 | 29.9 | | | | | | 0 | | | | | | | | | | |
| 理学部・理学研究科 | 892 | 680 | 212 | 23.8 | 281 | 216 | 65 | 23.1 | 341 | 272 | 69 | 20.2 | 186 | 144 | 42 | 22.6 | 56 | 47 | 9 | 16.1 | 48 | 39 | 9 | 18.8 |
| 医学部・医学系研究科 | 494 | 371 | 123 | 24.9 | 109 | 82 | 27 | 24.8 | 45 | 28 | 17 | 37.8 | 21 | 16 | 5 | 23.8 | 185 | 137 | 48 | 25.9 | 177 | 136 | 41 | 23.2 |
| 医学部（保健学科） | 546 | 178 | 368 | 67.4 | 214 | 58 | 156 | 72.9 | 79 | 40 | 39 | 49.4 | 70 | 34 | 36 | 51.4 | 17 | 10 | 7 | 41.2 | 16 | 9 | 7 | 43.8 |
| 工学部・工学研究科 | 2,373 | 2,124 | 249 | 10.5 | 809 | 737 | 72 | 8.9 | 868 | 803 | 65 | 7.5 | 638 | 595 | 43 | 6.7 | 77 | 66 | 11 | 14.3 | 71 | 61 | 10 | 14.1 |
| 農学部・生命農学研究科 | 547 | 310 | 237 | 43.3 | 179 | 113 | 66 | 36.9 | 242 | 137 | 105 | 43.4 | 153 | 82 | 71 | 46.4 | 29 | 17 | 12 | 41.4 | 27 | 16 | 11 | 40.7 |
| 国際開発研究科 | | | | | | | | | 114 | 46 | 68 | 59.6 | 59 | 24 | 35 | 59.3 | 32 | 20 | 12 | 37.5 | 22 | 15 | 7 | 31.8 |
| 多元数理科学研究科 | | | | | | | | | 123 | 118 | 5 | 4.1 | 56 | 53 | 3 | 5.4 | 21 | 21 | 0 | 0.0 | 12 | 12 | 0 | 0.0 |
| 国際言語文化研究科 | | | | | | | | | 104 | 21 | 83 | 79.8 | 49 | 12 | 37 | 75.5 | 24 | 6 | 18 | 75.0 | 19 | 3 | 16 | 84.2 |
| 環境学研究科 | | | | | | | | | 218 | 150 | 68 | 31.2 | 143 | 97 | 46 | 32.2 | 36 | 26 | 10 | 27.8 | 26 | 18 | 8 | 30.8 |
| 情報科学研究科 | | | | | | | | | 265 | 244 | 21 | 7.9 | 137 | 124 | 13 | 9.5 | 20 | 19 | 1 | 5.0 | 18 | 17 | 1 | 5.6 |
| 創薬科学研究科 | | | | | | | | | 41 | 26 | 15 | 36.6 | 30 | 19 | 11 | 36.7 | | | | | | | | |
| 合　計 | 6,874 | 4,865 | 2,009 | 29.2 | 2,247 | 1,599 | 648 | 28.8 | 3,192 | 2,344 | 848 | 26.6 | 1,798 | 1,320 | 459 | 25.5 | 603 | 413 | 190 | 31.5 | 509 | 353 | 156 | 30.6 |

＊法学部・法学研究科の下段は専門職学位課程の数である。

# 名古屋大学大学院学生の修了後の状況

平成24年5月1日現在

| 区　分 | 修了者 | | | | 進学者 | | | 教　員 | | | | | | 教員以外の専門的・技術的職業 | | | その他の職業 | | | その他 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 大学 | | | 大学以外 | | | | | | | | | | | |
| | 男性 | 女性 | 計 | 女性比率 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 |
| 文学研究科 | 23 | 35 | 58 | 60.3% | 4 | 15 | 19 | | | | 4 | 1 | 5 | | | | 13 | 17 | 30 | 2 | 2 | 4 |
| 教育発達科学研究科 | 10 | 32 | 42 | 76.2% | 3 | 10 | 13 | | | | 4 | 3 | 7 | | 7 | 7 | 1 | 9 | 10 | 2 | 3 | 5 |
| 法学研究科 | 18 | 14 | 32 | 43.8% | 5 | 4 | 9 | | | | | | | | | | 12 | 9 | 21 | 1 | 1 | 2 |
| 経済学研究科 | 29 | 27 | 56 | 48.2% | 1 | 2 | 3 | 1 | | 1 | 2 | | 2 | 6 | 1 | 7 | 17 | 20 | 37 | 2 | 4 | 6 |
| 理学研究科 | 139 | 41 | 180 | 22.8% | 38 | 9 | 47 | | | | 2 | 3 | 5 | 78 | 22 | 100 | 13 | 6 | 19 | 8 | 1 | 9 |
| 医学系研究科 | 40 | 42 | 82 | 51.2% | 6 | 6 | 12 | 1 | 3 | 4 | | 1 | 1 | 21 | 21 | 42 | 12 | 9 | 21 | | 2 | 2 |
| 工学研究科 | 563 | 51 | 614 | 8.3% | 33 | 7 | 40 | | | | | 1 | 1 | 494 | 32 | 526 | 26 | 7 | 33 | 10 | 4 | 14 |
| 生命農学研究科 | 99 | 76 | 175 | 43.4% | 11 | 9 | 20 | | | | 1 | 1 | 2 | 57 | 45 | 102 | 24 | 15 | 39 | 6 | 6 | 12 |
| 国際開発研究科 | 26 | 33 | 59 | 55.9% | 6 | 4 | 10 | | | | | | | 1 | 3 | 4 | 16 | 17 | 33 | 3 | 9 | 12 |
| 多元数理科学研究科 | 48 | 2 | 50 | 4.0% | 7 | | 7 | | | | 12 | | 12 | 15 | 2 | 17 | 8 | | 8 | 6 | | 6 |
| 国際言語文化研究科 | 8 | 31 | 39 | 79.5% | 1 | 8 | 9 | | 1 | 1 | | 3 | 3 | | | | 4 | 12 | 16 | 3 | 7 | 10 |
| 環境学研究科 | 116 | 38 | 154 | 24.7% | 9 | 5 | 14 | | | | 1 | 1 | 2 | 58 | 12 | 70 | 39 | 14 | 53 | 9 | 6 | 15 |
| 情報科学研究科 | 111 | 6 | 117 | 5.1% | 9 | | 9 | | | | 2 | | 2 | 94 | 4 | 98 | 3 | 2 | 5 | 3 | | 3 |
| 合　計 | 1,230 | 428 | 1,658 | 25.8% | 133 | 79 | 212 | 2 | 4 | 6 | 28 | 14 | 42 | 824 | 149 | 973 | 188 | 137 | 325 | 55 | 45 | 100 |

# 大学院博士課程後期課程・医学博士課程修了後の状況

平成24年5月1日 現在

| 区　分 | 修了者・単位等認定による退学者 | | | | 教　員 | | | | | | 教員以外の専門的・技術的職業 | | | その他の職業 | | | 特別研究院等に採用 | | | 大学院研究生等 | | | 外国へ研究留学 | | | 帰国した留学生 | | | その他 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 大 学 | | | 大学以外 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 男性 | 女性 | 計 | 女性比率 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 |
| 文学研究科 | 14 | 12 | 26 | 46.2% | | | | | 1 | 1 | | | − | 4 | 7 | 11 | 3 | | 3 | 6 | 3 | 9 | | | | 1 | | 1 | | 1 | 1 |
| 教育発達科学研究科 | 13 | 17 | 30 | 56.7% | 2 | 3 | 5 | 5 | 5 | 10 | | 1 | 1 | 2 | 3 | 5 | 1 | | 1 | 3 | 3 | 6 | | | | | 1 | 1 | | 1 | 1 |
| 法学研究科 | 6 | 6 | 12 | 50.0% | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 3 | 2 | | 2 | 2 | 3 | 5 | | 1 | 1 |
| 経済学研究科 | 13 | 5 | 18 | 27.8% | 1 | 1 | 2 | | | | | | | 4 | | 4 | 2 | 1 | 3 | | | | | | | 2 | 2 | 4 | 4 | 1 | 5 |
| 理学研究科 | 38 | 9 | 47 | 19.1% | 1 | | 1 | | | | 18 | 2 | 20 | | | | 11 | 6 | 17 | | | | | | | 1 | | 1 | 7 | 1 | 8 |
| 医学系研究科 | 122 | 44 | 166 | 26.5% | 9 | 7 | 16 | | | | 105 | 29 | 134 | | | | 2 | | 2 | | | | 4 | 1 | 5 | | 3 | 3 | 2 | 4 | 6 |
| 工学研究科 | 94 | 13 | 107 | 12.1% | 13 | 1 | 14 | 2 | | 2 | 61 | 5 | 66 | | | | 1 | 2 | 3 | 1 | | 1 | | | | 5 | 4 | 9 | 11 | 1 | 12 |
| 生命農学研究科 | 28 | 5 | 33 | 15.2% | 1 | | 1 | | | | 12 | | 12 | | | | 9 | 3 | 12 | 1 | | 1 | | | | 5 | 2 | 7 | | | |
| 国際開発研究科 | 9 | 7 | 16 | 43.8% | | 1 | 1 | | | | 2 | | 2 | 3 | 1 | 4 | | | | 1 | | 1 | | | | 3 | 4 | 7 | | 1 | 1 |
| 多元数理科学研究科 | 8 | | 8 | 0.0% | 4 | | 4 | 1 | | 1 | 2 | | 2 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | − |
| 国際言語文化研究科 | 6 | 19 | 25 | 76.0% | 1 | 7 | 8 | 1 | 1 | 2 | | | | 2 | 1 | 3 | 1 | 3 | 4 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 2 | 2 | 1 | 3 | 4 |
| 環境学研究科 | 31 | 13 | 44 | 29.5% | 6 | 1 | 7 | 1 | | 1 | 4 | 2 | 6 | 8 | 2 | 10 | 4 | 4 | 8 | | | | | | | 7 | 1 | 8 | 1 | 3 | 4 |
| 情報科学研究科 | 31 | 4 | 35 | 11.4% | 6 | | 6 | | | | 12 | 1 | 13 | 4 | 2 | 6 | 4 | | 4 | 1 | 1 | 2 | | | | 2 | | 2 | 2 | | 2 |
| 合　計 | 413 | 154 | 567 | 27.2% | 44 | 22 | 66 | 10 | 7 | 17 | 216 | 40 | 256 | 28 | 16 | 44 | 38 | 19 | 57 | 15 | 9 | 24 | 6 | 2 | 8 | 28 | 22 | 50 | 28 | 17 | 45 |

# 2012年度名古屋大学男女共同参画推進体制

**男女共同参画推進委員会（委員長　総長）**

**男女共同参画推進専門委員会**

| | | |
|---|---|---|
| 委員長 | 藤井　良一 | 財務・男女共同参画関係担当理事 |
| | 東村　博子 | 男女共同参画室長・生命農学研究科教授 |
| | 永田　雅子 | 発達心理精神科学教育研究センター准教授 |
| | 古川　忠稔 | 環境学研究科准教授 |
| | 水谷　法美 | 工学研究科教授 |
| | 畔上　秀幸 | 情報科学研究科教授 |
| | 堀内　敦 | 総務部長 |
| | 秋山　真志 | 医学系研究科教授 |
| | 松下　正 | 医学部附属病院輸血部教授 |
| | 山内　章 | 生命農学研究科教授 |
| | 石川クラウディア | 留学生センター准教授 |
| | 戸本　誠 | 理学研究科准教授 |
| | 浅野みどり | 医学系研究科教授 |
| | 榊原　千鶴 | 男女共同参画室准教授 |
| | 三枝麻由美 | 男女共同参画室助教 |
| | 大河内美奈 | 男女共同参画室員・工学研究科准教授（オブザーバー） |
| | 中川弥智子 | 男女共同参画室員・生命農学研究科准教授（オブザーバー） |
| | 加藤ジェーン | 男女共同参画室員・情報科学研究科准教授（オブザーバー） |
| | 吉田　朋子 | 男女共同参画室員・エコトピア科学研究所准教授（オブザーバー） |
| | 中井　俊樹 | 男女共同参画室員・高等教育研究センター准教授（オブザーバー） |

**男女共同参画推進専門委員会ワーキンググループ**

・育児支援策検討ワーキンググループ
　永田雅子（主査）、秋山真志、松下正、石川クラウディア、東村博子、大河内美奈、加藤ジェーン、榊原千鶴

・女子学生支援策検討ワーキンググループ
　水谷法美（主査）、畔上秀幸、山内章、古川忠稔、戸本誠、中川弥智子、吉田朋子、三枝麻由美

・学部学生向けジェンダー関連授業検討ワーキンググループ
　東村博子（主査）、榊原千鶴、三枝麻由美

・病児保育検討ワーキンググループ
　浅野みどり（主査）、秋山真志、松下正、玉腰浩司医学系研究科教授、佐々木成江理学研究科准教授、永田雅子、加藤太一医学部附属病院小児科講師、山本弘江医学系研究科助教、榊原千鶴、渡井いずみ医学系研究科准教授

・メンター検討ワーキンググループ
　中井俊樹（主査）、大河内美奈、榊原千鶴

**男女共同参画室**

東村博子（室長）、榊原千鶴、大河内美奈、中川弥智子、加藤ジェーン、吉田朋子、中井俊樹、三枝麻由美

**名古屋大学こすもす保育園運営協議会**

永田雅子（議長）、榊原千鶴、大河内美奈、加藤ジェーン、田中京子、太幡英亮工学研究科助教、加藤太一、大矢淳一総務部職員課長、田村哲樹法学研究科教授、丹邉宣彦環境学研究科教授、上田（石原）奈津実理学研究科助教、東村博子（オブザーバー）、三枝麻由美（オブザーバー）、伊藤友香こすもす保育園主任保育士（オブザーバー）

**名古屋大学あすなろ保育園運営協議会**

秋山真志（議長）、榊原千鶴、天野睦紀医学系研究科准教授、梅津朋和医学系研究科助教、松下正、姫野美都枝医学部附属病院副看護部長、吉田茂医学部附属病院准教授、加藤太一、坪井直志医学部・医学系研究科総務課人事労務グループ主幹

**名古屋大学学童保育所検討委員会**

東村博子（委員長）、榊原千鶴、中井俊樹、石川クラウディア、小松尚環境学研究科准教授、大矢淳一、布目寛幸総合保健体育科学センター准教授、佐々木成江、森滋夫名古屋大学名誉教授（オブザーバー）、加藤恵子学童保育所主任指導員（オブザーバー）、髙橋奈弓学童保育所指導員（オブザーバー）、和田肇保護者会会長・法学研究科教授（オブザーバー）、三枝麻由美（オブザーバー）

**事務担当**

総務部職員課　大矢淳一、新宮陽子、青柴さよ子、早川絢子、白須遼、原健翔、鈴木嵩史

名古屋大学における男女共同参画報告書（2012年度）
2013年3月発行

編　集　：　名古屋大学男女共同参画推進専門委員会
名古屋大学男女共同参画室
（http:/www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/）
TEL ＆ FAX 052－789－5987

発　行　：　名古屋大学総務部職員課
464-8601　名古屋市千種区不老町
TEL 052－789－3939　　FAX 052－789－5981

Nagoya University The Office for Gender Equality